

日西対照オノマトペ辞書

2001 年度高垣スペイン語学ゼミ

あ

あっ(アツ) 作品名: 幻影
・・・思わずアツと声を上げてしまった。(p.157)
該当箇所なし(p.161) <無視>

あっ、はっ、は(アツ、ハツ、ハ) 作品名: 幻影
「・・・アツ、ハツ、ハ・・・」(p.118)
該当箇所なし(p.123) <無視>

あつあつ 作品名: 斜陽
柳やおステさんと大あつあつで(p.135)
está loco por una camarera(p.113) <形+何とか>

あつあつ 作品名: 斜陽
あのひとと大あつあつの人なのかしら(p.136)
Me pregunté si se trataba de la mujer por quien estaba loco(p.113) <形+何とか>

あっさり 作品名: 砂
スコップの柄を楯にあっさり逆転されてしまった(p.127)
usando el mango de la pala como escudo, fácilmente invirtió la situación(p.115) <副>

あっさり 作品名: 羊
彼女の服装の好みはあっさりとしていて気が良かった。(p.157(上))
Su indumentaria era elegantemente sencilla.(p.108) <副>

あっさり 作品名: 羊
羊博士はあっさりとした(p.44(下))
él lo rechazó de plano(p.194) <副>

あははは(アハハハ) 作品名: 坊
ちと遊びにきたまえアハハハといった。(p.33)
Pues llégate alguna vez a verme para pasar el rato, ¡je, je, je...! (p.35) <オノ>

あははは(アハハハ) 作品名: 坊
山嵐は大きな声をしてアハハハと笑いながら、(p.151)
- ¡Ja, ja, ja! - “Puercoespín” soltó una enérgica carcajada (p.148) <オノ>

あははは(アハハハ) 作品名: 坊
山嵐はそうさアハハハと笑ったが、(p.41)
-Así es - se limitó a contestar, pero acto seguido prorrumpió en carcajadas.(p.45) <名+動>

ありありと 作品名: 斜陽
立ちつくしたままおのずから腐って行くのをありありと予感せられるのが(p.83)
Me embargan horribles presentimientos de que mi propia vida, también se pudre poco a poco cada día(p.71) <無視>

あれっ(アレツ) 作品名: 幻影
アレツと苦しくなって叫んだ拍子に・・・(p.34)
Gritó desesperada y en ese instante despertó, babeando(p.42) <何とか>

い

いきいき 作品名: 斜陽
急にいきいきとあざやかに思い出されて来て(p.91)
se me hace de repente vívido y fresco(p.77) <形>

いきいき 作品名: 斜陽
お顔色も生き生きしていらいっしやる(p.109)
y su complexión fresca(p.91) <形>

いきいき 作品名: 斜陽
お顔は、生き活きとして(p.129)
Su rostro estaba tan animado(p.107) <形>

いきいき 作品名: 斜陽
両方が同時にいきいきして来る(p.58)
se complementaran animándose mutuamente(p.51) <動>

いきいきと 作品名: NP
微妙に違う色のそらとの継ぎ目も、いきいきとはためくパッチワークのように見えた。(p.211)
Y la línea de separación con el cielo se veía coloreada de un tono sutilmente diferente, como una labor de retazos que ondeara vivaz.(p.178) <形>

いそいそ 作品名: 砂
いそいそと、よろこびをかくしきれないといった歓迎ぶ

り(p.24)
casi la incontenible alegría con que ella lo recibió(p.28) <無視>

いぢいぢ 作品名：斜陽
いぢいぢお手にとって、(p.113)
los tomó una a uno(p.94) <副>

いらいら 作品名：齒車
彼らの一人はその拍子に「イライラしてね」と言ったら
しかった。(p.45)
unos de ellos dijo algo así como: (p.66) <形>

いらいら 作品名：斜陽
そのような私のいらいらした思いのあらわれの一つだっ
たのに違いない(p.30)
ha causado mi irascible estado ánimo(p.30) <形>

いらいら 作品名：NP
しかし、初めは声が出ないことがいやでいらいらしてい
た私も、母が気楽にやってらっしゃい、と放っておいて
くれたおかげでだんだん元気になってきた。(p.24)
A mí, al principio, me exasperada no tener voz, pero
gracias a mi madre, que me tranquilizó diciéndome
que no me preocupara, fui recobrando el ánimo poco a
poco.(p.27) <動>

いらいら 作品名：斜陽
私は妙にいらいらしていた(p.61)
La situación comenzó a alterarme los nervios(p.54) <
動+何とか>

いらいら (イライラ) 作品名：台所
、イライラして気が狂いそうな時は手を休めて深く呼吸
をした。(p.81)
Cuando estaba a punto de estallar de
nervios,respiraba hondo y me relajaba.(p.82) <形>

いらいら (イライラ) 作品名：齒車
「イライラする、 = Tantalizing = Tantalus =
Inferno・・・」(p.45)
(p.66) <動>

う

うきうき 作品名：台所
私は妙にうきうきして楽しかった。(p.112)
Yo me sentía extrañamente alegre e
ilusionada.(p.121) <形>

うじゃうじゃ 作品名：坊
うじゃうじゃしてる。(p.182)
Era como un hormiguero humano, (p.179) <名>

うっかり 作品名：銀河
今日はひるすぎうっかりして(p.218)
Esta tarde, distraído,(p.67) <形>

うっかり 作品名：斜陽
うっかりお庭にも降りられない(p.13)
ya no sería posible salir tranquilamente al
jardín(p.17) <副+ミス>

うっかり 作品名：砂
うっかり買って、あとになって、後悔したりするんじや
ないかしら(p.128)
te preguntas si no te arrepentirás espúés de
comprarlo(p.116) <無視>

うっかり 作品名：砂
うっかり手もふれられない(p.89)
no se podría siquiera tocar al descuido(p.85) <名>

うっすら 作品名：幻影
押入れの壁も蒲団もうっすらと白い粉をかぶっていた。
(p.57)
los lados del armario,al igual que la cama, estaban
cubiertos por un fino polvo blanco.(p.63) <形>

うっすら 作品名：幻影
・・・うっすらと埃をかぶった旧式な筆立てが隅のほう
に押しやられ、・・・(p.48)
該当箇所なし(p.53) <無視>

うっと 作品名：台所
すぐに息がうっとつまってしまい、苦しかった。(p.69)
Pronto me quedé sin aliento,casi me muero.(p.68) <無
視>

うっとり 作品名：藪

盗人にこう云われると、妻はうっとりと顔を擡げた。
(p.178)

Mi mujer le escuchó fascinada y alzó la cabeza.(p.19) <形>

うっとり 作品名：歯車

すると弟も微笑しながら、遠い下記の外の松林を眺め、何かうっとりと話つづけた。(p.72)

Mi cuñado también sonrió debilmente ,y con la mirada perdida en los lejanos pinos que veía a través del cerco ,habló como en éxtasis.(p.84) <比>

うっとり 作品名：斜陽

うっとりとひとりごとのようにおっしゃった(p.28)
como hablando consigo misma(p.29) <無視>

うつらうつら 作品名：幻影

・・・今日はいつもと違ってこのうつらうつらの合間にも、・・・(p.32)
dormirse(p.40) <無視>

うつらうつら 作品名：斜陽

いつもうつらうつらしていらして(p.123)
se pasaba el tiempo en su sopor(p.102) <名+比>

うとうと 作品名：斜陽

私はうとうとと、うたた寝をはじめた(p.109)
me quedé dormida(p.91) <形>

うとうと 作品名：斜陽

すぐにうとうとまどろんだ(p.152)
pronto me quedé dormida(p.125) <形>

うとうと 作品名：NP

うとうとしはじめたころ、隣の寝室に母が入ってゆくスリッパの音が聞こえる。(p.25)
Cuando empiece a adormilarme, oiré el rumor de las zapatillas de mamá que entra en el dormitorio, al lado del mío.(p.29) <動>

うとうと 作品名：台所

昼間の疲れで初め、うとうとしていた私は、(p.129)
Al principio,me adormecí por el cansancio,(p.128) <動>

うとうと 作品名：坊

うとうとしたら清の夢を見た。(p.26)

Me adormilé por fin, y soñé con Kiyō. (p.29) <動>

うとうと 作品名：斜陽

うとうとお昼寝をはじめた(p.44)
tomé una siesta(p.41) <無視>

うとうと 作品名：斜陽

僕も横になってうとうとしていたら(p.163)
Yo me había acostado sobre el tatami(p.133) <無視>

うとうと 作品名：坊

ついうとうと寝てしまった。(p.65)
acabé por quedarme dormido. (p.69) <無視>

うとうと 作品名：斜陽

ただ、うとうとしていらっしゃる(p.26)
ella no Salía de su sopor(p.27) <名>

うひゃー 作品名：台所

「うひゃー。お嫁さんみたい。」とぶつぶつ文句を言って、雄一は出て行った。(p.78)
¡Bah!Hablas como una esposa-y se marchó protestando.(p.78) <オノ>

うふふふ 作品名：失格

うふふふと笑ってしまいました。(p.134)
me puse a reír(p.124) <無視>

うやむや 作品名：羊

「・・・理由は病気のためだが、このあたりはうやむやなんだ。・・・」(p.96(上))
Se dio como razón una grave efermedad,pero sobre este extremo se alzó una cortina de humo muy espesa.(p.66) <形>

うろろろ 作品名：幻影

「・・・工事関係の方達はこのアパートの内部をうろろろされることだけは絶対に遠慮していただきたいのです。」(p.135)
los obreros entren y salgan(p.137) <何とか>

うろろろ 作品名：台所

そんな細い手足で、長い髪で、女の姿をして田辺くんの

前をうろろうするから、田辺くんはどんどんずるくなつてしまう。(p.100)

Y cada vez se siente más inseguro porque coqueteas con él con esos brazos y piernas delgados y con tu pelo largo.(p.99) <形>

うろろう 作品名：斜陽

その人の奥さんにこがれて、うろろうして(p.166)
me pasaba el tiempo dando vueltas(p.135) <動>

うろろう 作品名：幻影

・・・一日中アパートの中をうろろうしている、・・・(p.51)
該当箇所なし(p.55) <無視>

うん 作品名：坊

うんと考えこんだ。(p.139)
lo pensé todo despacio.(p.138) <ミス>

うん 作品名：坊

かためて、うんとやっつけるほうがいい。(p.199)
era mejor reunirme con “Puercoespín” para dárselo a fondo.(p.197) <副>

うん 作品名：坊

足をうんとのばすと、(p.55)
estirando los pies,(p.59) <無視>

うん 作品名：坊

うんと腕を曲げると、(p.155)
al flexionar el brazo,(p.152) <無視>

うん 作品名：坊

いきなり首筋をうんとつかんで引きもどした。(p.169)
agarró a “Histrión” por el cuello y lo tiró hacia atrás.(p.167) <無視>

うんうん 作品名：藪

(多襄丸は)馬から落ちたのでございましょう、粟田口の石橋の上に、うんうん呻っております。(p.168)
él había caído del caballo,y gemía echado sobre el Puente de Awataguchi.(p.12) <無視>

うんざり 作品名：羊

君ならきつとうんざりするだろうけれど(p.122(上))
Una persona como tú supongo que lo tendría

diffisil(p.85) <ミス>

うんざり 作品名：NP

ちょっとゴシック調で、うんざりするようなシリアスさで、ロマンチックで、逃避っぽくもあり。(p.97)

Es un poco gótico, y aun que tiene una profundidad que puede llegar a cansar, es romántico y tiene algo de evasión...(p.85) <何とか>

うんざり 作品名：NP

「・・・うんざりしてない?・・・」(p.56)
¿No estás harta ya ..(p.54) <形>

うんと 作品名：NP

それでうんと海に行きたくなくて・・・(p.37)
Deseé que le entraran muchas ganas de ir a la playa y que, ..(p.37) <何とか>

うんと 作品名：斜陽

寒いから、うんと熱くしてみたの(p.94)
Como hace frío la he calentado mucho(p.80) <副>

うんと 作品名：NP

「みんな年をうんととって、老成するころには自然と終わるだろう。」(p.58)

Terminar/a por sí misma cuando todos nosotros envejecamos, cuando seamos más maduros.(p.55) <無視>

え

えへへへ 作品名：坊

博物はえへへへと笑っていた。(p.157)
Mi colega de ciencias naturales rompió a reír.(p.154) <無視>

えへへへ(エへへへ) 作品名：坊

エへへへ大丈夫ですよ。(p.79)
- ¡Je, je, je! Tranquilo, que no hay peligro,(p.83) <オノ>

えへんえへん 作品名：坊

えへんえへんと二つばかり大きな咳払いをして席についた。(p.161)
Y tras un par de carraspeos lanzados entre toses,

“Puercoespín” se sentó. (p.157) <無視>

お

おいおい 作品名：失格

それから、おいおい声を放って泣きました。(p.117)
me puse a llorar a voces(p.110) <動>

おいおい 作品名：台所

・・・ちかちゃんはおいおい泣きはじめて・・・(p.118)
..empezó a sollozar,(p.117) <無視>

おいおい(オイオイ) 作品名：幻影

「・・・オイオイ泣き出したんですよ・・・」(p.156)
y lloró.(p.159) <無視>

おずおず 作品名：銀河

少しおずおずしながら(p.183)
un poco tímidamente.(p.35) <副>

おずおず(怯ず怯ず) 作品名：歯車

僕は怯ず怯ずふり返り、やっとこのバアの軒に吊った色
硝子のランタアンを発見した。(p.63)
Atemorizado,me volví con lentitud ,y vi una lámpara
roja que colgaba del alero del bar.(p.78) <形 + 副>

おずおず(怯ず怯ず) 作品名：歯車

僕は帽を脱いだまま、怯ず怯ずこう僕に話し掛けた。
(p.42)
Con la gorra en la mano ,comenzó a decir
tímidamente.(p.65) <副>

おずおず(怯ず怯ず) 作品名：歯車

僕は怯ず怯ず窓の前へ近づき、この風景を造っているも
のは実は庭の枯れ木や池だったことを発見した。(p.68)
Me acerqué con aprensión y descubrí que el paisaje era
sólo un reflejo del césped reseco y del lago del
jardín.(p.81) <副>

おどおど 作品名：幻影

・・・おどおどした視線を寿和からそらしていた。(p.101)
Noriko quedó estupefacta ante la visión de su
inesperada visitante,(p.105) <形>

おどおど 作品名：失格

自分のような、いやらしくおどおどして、(p.118)

Para alguien tan tímido como yo, cuya confianza en los
demás tenía una profunda grieta,(p.111) <形>

おどおど 作品名：斜陽

おどおどと、ほとんど卑屈に(p.133)
pregunté con timidez, casi con servilismo(p.111) <形+
副>

おろおろ 作品名：幻影

・・・無意味に部屋の中をおろおろと歩き廻った。(p.50)
Nerviosa, dio unas vueltas entregandose a un
sentimiento de desesperación(p.55) <何とか>

おろおろ 作品名：失格

ヨシ子は一生おろおろしなければならなかったのです。
(p.118)
ella quedó condenada a vivir asustada el resto de sus
días(p.111) <形>

おろおろ 作品名：失格

自分に対して、おろおろして、(p.122)
se mostraba hacia mí mucho más turbada (p.114) <形
>

おろおろ 作品名：NP

「・・・熱が出るとおろおろしたり・・・」(p.174)
...que se preocupe cuando el pequeño tiene
fiebre,...(p.144) <動>

おろおろ 作品名：幻影

・・・病院の受付に迷子の届けを出したただけでおろおろ
していたのでございます。(p.115)
該当箇所なし(p.121) <無視>

おろおろ 作品名：幻影

よね子はわざとおろおろしてみせた。(p.130)
該当箇所なし(p.133) <無視>

おろおろ 作品名：幻影

・・・傍でおろおろしている伊与田富子にいていた。
(p.173)
該当箇所なし(p.) <無視>

おろおろ 作品名：失格

いつも自分から視線をはずしておろおろしているヨシ子を見ると、(p.120)

Cuando veía a Yoshiko desviarme la mirada,(p.112) <無視>

おろおろ びくびく 作品名：失格

お道化をいっても、おろおろし、びくびくし、(p.118)
por más que intentase hacerla reír con mis bufonadas,parecía asustada y nerviosa(p.111) <形>

か

がくがく 作品名：砂

膝が、がくがくした(p.187)
sentía débiles sus rodillas(p.167) <何とか>

がくん 作品名：台所

がくん、と止まる前にムツとするのは自分がくたびれている証拠である。(p.48)

Cada vez que se detenía con brusquedad me ponía de malhumor y eso probaba que estaba agotada.(p.50) <副>

がくん 作品名：羊

急にがくと肩を落とした。(p.60(上))
Acto seguido,bajó los hombros.(p.41) <無視>

かさかさ 作品名：砂

女の顔も、かさかさになり(p.149)
su cara estaba también reseca(p.133) <形>

かさかさ 作品名：羊

はりのなり巨大な乳房とむくんだ足、かさかさした首筋。(p.244(上))
senos flácidos y enormes,piernas hinchadas ,cogote reseco(p.169) <形>

がさがさ 作品名：銀河

がさがさした、けれども親切そうな、大人の声が、(p.183)
una voz de persona mayor, áspera pero afable.(p.34) <形>

がさごそ (ガサゴメ) 作品名：幻影

押入れの中は新聞紙でガサゴモオたが結穀 g かった。(p.57)

El conjunto era un caos, pero al menos la cama era abrigada(p.63) <何とか>

かたかた 作品名：羊

エレベーターは肺病を病んだ大型犬みたいにかたかたと揺れた。(p.21(下))

El ascensor se cimbreaaba estrepitosamente ,como un perrazo aquejado de pulmonía.(p.179) <副>

かたかた 作品名：羊

羊たちが歯をかみあわすという音が牧舎の中にカスタネットの合奏のように響きわたっていた。(p.81(下))

El ruido que hacían, masca que te mascarás, resonaba en el interior de la silenciosa cañaba como un concierto de castañuelas.(p.223) <副>

かたかた 作品名：砂

闇の中で、カタカタと、白い牙の群れが舞いながら迫ってくる(p.184)

un círculo de colmillos blancos lo rodeaba en la oscuridad e iba estrechándose(p.164) <無視>

かたかた 作品名：斜陽

かたかたかたと、上原さんは走って(p.78)
con fuerte sonido de pasos(p.67) <名>

がたがた 作品名：斜陽

夜も昼もがたがたふるえているのです(p.72)
paso tembleando día y noche(p.63) <動>

がたがた 作品名：斜陽

がたがた震えた(p.79)
me quedé temblando entera de la impresión(p.68) <動+副>

がたがた 作品名：NP

・・おりの中のゴリラみたいにがたがた揺すった。(p.148)
...como un gorila en una jaula, sacudió la puerta con fuerza.(p.125) <副>

がたがた 作品名：銀河

がたがたふるえてはだしで立っていました。(p.193)
temblando violentamente.(p.43) <副>

がたがた 作品名：NP

また雨音が際立ち、窓で風ががたがた揺れた。(p.55)
De nuevo resonó, nítido, el fragor de la lluvia y el viento hizo vibrar la ventana.(p.53) <無視>

がたがた (ガタガタ) 作品名：幻影
・・・身体がガタガタ震え歯の根が合わない。(p.105)
Le castañeteaban los dientes y había perdido el control de sus emociones(p.109) <動>

かたかたかた 作品名：羊
かたかたかたというあの平板な歯音が地浮□「っていた。(p.109(下))
Con el monótono masca que mascarás de sus mandíbulas cubrían de ruido la faz de la tierra.(p.246) <副>

がたびし 作品名：失格
からだか、がたびしです。(p.137)
El cuerpo ya no me responde como antes.(p.128) <無視>

かたん 作品名：羊
エアコンのサーモスタットがかたんと音を立てた。(p.84(上))
El termostato del aire acondicionado lanzó un pitido.(p.57) <名>

かたん 作品名：羊
鼠は三本めのビールを一息に飲み干し、空き缶をかたんと床に置いた。(p.204(下))
Y el Ratón agotó de un trago su tercera cerveza ,tras lo cual dejó la lata vacía sobre el suelo ,de un golpe.(p.314) <名>

かたん 作品名：羊
かたんという乾いた音を立てて缶をテーブルの上に戻した。(p.192(下))
con un golpe seco colocó la lata sobre la mesa(p.306) <名+形>

かち 作品名：斜陽
カチと悲しい音がした(p.138)
produciendo un triste tintín(p.115) <オノ>

かちっ (カチッ) 作品名：幻影

・・・受話器の向うでカチッという切断音がきこえた。(p.41)
該当箇所なし(p.47) <無視>

かちっかちっ 作品名：銀河
カチッカチッと正しく時を刻んで行くのでした。(p.205)
se oía el pundulo del reloj que marcaba el tiempo con su preciso tic-tac.(p.54) <オノ>

がちゃがちゃ (ガチャガチャ) 作品名：台所
車のキーをガチャガチャ鳴らしながら雄一は戻ってきた。(p.19)
Yuichi volvió,al poco jugueteando con las llaves.(p.23) <何とか>

がちゃがちゃ (ガチャガチャ) 作品名：幻影
・・・額に汗を滲ませてはガチャガチャと廻し続けるばかり・・・(p.131)
pasó varios minutos insertando la llave en la cerradura y moviéndola de un lado a otro(p.134) <全体>

がちゃがちゃ (ガチャガチャ) 作品名：台所
そうして、ドアがガチャガチャと開いて、(p.16)
Entonces,la puerta se abrió.(p.21) <無視>

かちり 作品名：羊
彼女のうしろでドアがかちりってしまった。(p.115(上))
Al salir,cerró la puerta con un chasqhido.(p.81) <名>

がちゃん! (ガチャン!) 作品名：台所
するとガチャン!と電話が切れてしまったのだ。(p.92)
-Entonces se oyó un clic.Habían cortado.(p.93) <オノ>

がちゃんと (ガチャンと) 作品名：失格
ガチャンと鍵をおろされました。(p.132)
cerró la puerta con llave.(p.122) <無視>

かちり 作品名：羊
それから時間の扉を閉めるように、小さなかちりという音を立ててドアを閉じた。(p.208(下))
Después ,como si se cerraran las puertas del tiempo,la puerta cerró con un leve chasqhido.(p.317) <動>

かちり 作品名：羊

・・・かちりという気持の良い音を立てて錠が外れた。
(p.129(下))

La llave entró en el ojo de la cerradura sin dificultad.(p.262) <無視>

かちん 作品名：斜陽
カチンと強くコップを打ち合わせて(p.139)
chocando su vaso fuertemente(p.116) <動>

かちん 作品名：NP
翠が言い、かちんときて私は本当に黙った。(p.70)
Sus palabras me ofendieron y enmudecí.(p.65) <無視>

かっかっ 作品名：斜陽
残りくまなき、かっかっのほてり(p.68)
con la respiración cortada por la vergu+enza y el miedo de su desnudez(p.60) <形+何とか>

がっがっ 作品名：砂
いまのおれに必要なのは、このがっがつした情欲なのだ
(p.136)
lo que necesitaba ahora,se dijo , era una pasión feroz(p.123) <形>

がっかり 作品名：斜陽
かずりがっかり(p.95)
¡Vaya decepción!(p.80) <名>

かっきり 作品名：銀河
両足をかっきり六譜 x に開いて立って、(p.188)
con las piernas abiertas (p.39) <無視>

かっきり 作品名：銀河
その正面の青じろい時計はかっきり第二時を示し(p.205)
La pálida esfera del reloj señalaba la segunda hora.(p.54) <無視>

がっくり 作品名：砂
男の顔から、がっくり撫薫₁はげおちた(p.209)
la cara del hombre se vació de toda expresión(p.187) <全>

がっしり 作品名：羊
ベッドのわきにはオーク材のがっしりとしたチェストがあり、引き出しの中には・・・(p.132(下))

Junto a la cama había una sólida cómoda de roble.(p.264) <形>

がばっ 作品名：砂
両手を広げて、がばっと伏せる(p.191)
se estiró a lo largo, con los brazos extendidos(p.170) <何とか>

がむしやら 作品名：NP
がむしやらばかりじゃない人生を、と翠は言った。(p.152)
Al menos ahora he conseguido llevar una vida m/as ordenada, pero...(p.128) <何とか+形>

がやがや 作品名：坊
なんだか先鋒が急にがやがやさわぎでした。(p.173)
cuando en la cabecera de la formación se alzó, de improviso, un enorme parloteo, (p.171) <何とか>

がやがや 作品名：坊
がやがやなにかしゃべってる。(p.171)
charlaban desaforadamente. (p.168) <副>

がやがや 作品名：幻影
兎に角扉の外でがやがやといつまで騒ぎ立てていても仕方がないというので、・・・(p.131)
該当箇所なし(p.134) <無視>

がやがや 作品名：坊
教場のほうが急にがやがやする。(p.31)
Se oyó un animado bullicio por la zona de las aulas. (p.33) <名>

からから 作品名：砂
口がからからになっても、まだ砂はのこっていた(p.45)
a pesar de tener la boca por completo reseca,la arena seguía allí(p.46) <形>

からから 作品名：羊
口はからからに乾いて、体のどこからも声はでてこなかった。(p.65(上))
Tenía la boca reseca y no era capaz de articular sonido alguno.(p.45) <形>

からから 作品名：NP
・・・からからと氷を回して麦茶を飲んだ。(p.84)

Bebíamos mugicha haciendo tintinear el hielo al agitar los vasos, ..(p.75) <動>

からから 作品名：砂
こんなにカラカラに干上がっていや、仕事にもなりやしないじゃないか(p.140)
¿Quién puede trabajar en estas condiciones?(p.125) <無視>

がらがら 作品名：NP
こんなにがらがらに空いているのに、どうしてわざわざここに並ぶんだろう？(p.63)
<<¿Por qué se habrá puesto detrás de mí si no hay nadie más?>>(p.60) <何とか>

がらがら 作品名：羊
客席はがらがらにすいていた。(p.12(下))
El local estaba casi vacío(p.172) <形>

がらがら 作品名：斜陽
がらがらと浮刀戸のあく音が聞えて(p.141)
se oyó abrirse la puerta de la entrada(p.117) <無視>

がらがら 作品名：台所
・・・、あわてて窓をがらがら開けた。(p.135)
..y entonces, me abrió apresuradamente.(p.133) <無視>

がらがら 作品名：坊
きのうこの敷石の上を車でがらがらと通ったときは、(p.29)
Cuando, el día antes, recorrí en rikisha esta calzada, (p.31) <無視>

からからに 作品名：NP
口がからからに渴いていた。(p.182)
Tenía la boca reseca.(p.151) <無視>

からり 作品名：羊
翌日はからりと晴れわたり、(p.178(下))
Al día siguiente el horizonte estaba claro,(p.296) <形>

がらり 作品名：砂
女が、がらりと調子を変えて言った(p.85)
la mujer cambió súbitamente de tono y

preguntó(p.81) <何とか>

がらり 作品名：羊
状況はがらりと違ってくる。(p.110(上))
la situación cambia radicalmente.(p.76) <副>

からん 作品名：NP
庄司の骨は、ボストンバッグに入れるとき、からんという音をたてた。(p.201)
Cuando metí la caja en la maleta, los huesos de Shoji hicieron unos ruiditos secos.(p.168) <名>

がらん 作品名：銀河
がらんと空がひらけて(p.170)
apareció el cielo abierto(p.24) <形>

がらん 作品名：銀河
がらんとした冷いこだとは思われませんでした。(p.171)
no podía creer que era un lugar desierto y frío,(p.25) <形>

がらん 作品名：銀河
車室の中はがらんとなってしまいました。(p.179)
el tren quedó vacío(p.31) <形>

がらん 作品名：銀河
美しい美しい桔梗いろのがらんとした空(p.202)
el hermoso cielo azul violeta, hasta ese momento vacío(p.52) <形>

がらん 作品名：銀河
汽車の中はもう半分以上も空いてしまい俄かにがらんとしてさびしくなり(p.215)
El tren, ya medio vacío, tenía un aspecto desolado(p.62) <形>

がらん 作品名：羊
そして列車は再びがらんとして、話し声ひとつ聞こえなくなつた。(p.85(下))
El tren volvió a quedarse desierto, hasta el punto de no oírse ni una voz.(p.226) <形>

がらん 作品名：羊
がらんとして味も素気もなかった。(p.87(下))

estaba vacía y carecía de ambiente y personalidad.(p.228) <形>

がらん 作品名：羊

駅の正面にはがらんとして人気のない小さなロータリーがあった。(p.92(下))

De l ante de la estación se abría una plazuela circular,completamente desierta.(p.232) <形>

がらん 作品名：羊

実にはがらんとした部屋だった。(p.135(下))

Era , verdaderamente,una estancia desierta.(p.266) <形>

がらん 作品名：羊

がらんとした家の空気が僕にそれを教えていた。(p.138(下))

El aire desierto de la casa me lo decía.(p.268) <形>

がらん 作品名：銀河

風か水かがらんとした空か(p.182)

該当なし(p.34) <無視>

がらん 作品名：銀河

がらんとした桔梗いろの空から(p.188)

del cielo azul violeta(p.39) <無視>

がらん 作品名：砂

がらんとした部屋に出た(p.79)

entró en una habitación donde sólo había una mesa larga y angosta(p.76) <無視>

からんからん 作品名：坊

からんからんと駒下駄を引きずる音がする。(p.205)

Sonaron unas sandalias de madera como arrastrándose por la calle. (p.202) <無視>

がらんと 作品名：NP

昼前のがらんとした喫茶店で、向かい合ってコーヒーを飲んだ。(p.19)

Áun no era mediod/ia y la cafetería estaba desierta. Tomamos un caf/e sentados frente a frente.(p.24) <形>

がらんと 作品名：NP

咲のスペースががらんと片付いていて、また不安になっ

た。(p.203)

El espacio que ocupaba Saki estaba vacío y ordenado y, al verlo, me sentí inquieta de nuevo.(p.170) <形>

がらんと 作品名：台所

がらんとしているので声がよく響いた。(p.52)

Estaba vacío y la voz resonaba mucho.(p.54) <形>

がりがり 作品名：NP

目の前の砂利道を子供たちが、自転車をがりがり言わせながら走りぬけ、・・(p.76)

Los niños, montados en sus bicicletas, pasaban rápidamente por delante de nosotros haciendo crujir la grava,..(p.68) <動>

かかん(カン、カン) 作品名：NP

よく、真夜中にトイレに起きると閉ざされた母の部屋のドアの向こうから、「カン、カン(けんだまの音)」という不気味な音が聞こえてきたのを。(p.137)

Muchas veecs, cuando iba al banó a medianoche, a través de su puerta cerrada se oía un extraño clac-clac.(p.116) <オノ>

ぎ

ぎーぎーぶーぎーぎーぶー(ギーギーフーギーギーフー) 作品名：銀河

それから彗星がギーギーフーギーギーフーで云って来たねえ。(p.209)

Y entonces una estrella fugaz se acercó a toda velocidad,silbando...(p.58) <何とか>

きーっ(キーツ) 作品名：幻影

遠くの方で、車の急ブレーキを踏んだ時のキーツという嫌な音がした。(p.188)

oyó el súbito rechinar de unos frenos.(p.185) <名+形>

ぎいっと 作品名：台所

その時、ぎいっと音を立ててドアが開いて・・・(p.44)

Entonces,la puerta se abrió con un chirrido..(p.46) <名>

きいん 作品名：銀河

そこら中きいんと鳴るように思いました。(p.166)

como si un sonido ensordecedor(p.20) <形>

ぎくっ 作品名：銀河

まるでぎくっとしてしまいました。(p.216)
se llevó un susto terrible.(p.63) <名>

ぎくり 作品名：砂

女はさらにぎくりとした撫薫ヲ振り向いた(p.65)
la mujer se volvía a mirarlo asustaba(p.62) <何とか>

ぎくり 作品名：砂

そら、ぎくりとして、耳をそばだてるがいい(p.178)
en estos momentos,ya estaría alarmada. Aguzando el
oído(p.159) <何とか(2つの文にわけて卑下してある)>

ぎくり 作品名：砂

一瞬ぎくりとさせられる(p.56)
por un momento se alarmó(p.55) <動>

ぎくり 作品名：砂

ぎくりと、毛穴から、汗が吹き出した(p.163)
el susto le arrancó un sudor abundante por todos los
poros(p.145) <比>

ぎざぎざ 作品名：銀河

ぎざぎざの黒いくるみの実を持ちながら、(p.181)
Llevándose las negras y rugosas nueces,(p.33) <形>

きしきし 作品名：銀河

指できしきしさせながら、(p.179)
la hizo crujir con el dedo.(p.31) <動>

ぎしっと 作品名：NP

体が硬直して、ぎしっとこわばった。(p.131)
Noté mi cuerpo rígido, yerto.(p.110) <形>

きちっ 作品名：銀河

きちっと口を結んで(p.212)
con los labios fruncidos.(p.60) <無視>

きちん 作品名：羊

・・・男は実にきちんとした身なりをしていた。(p.88(上))
aquel hombre vestía de un modo serio y
elegantísimo.(p.) <形>

きちん 作品名：羊

鳥がさえずっているときちんと鳥のさえずりが聞こえた。
(p.69(上))

Si los pájaros trinaban,sus trinos nos
arrullaban.(p.47) <無視>

きちんと 作品名：NP

「・・・きちんと付き合っちゃうでしょう、その文章に。」
(p.135)

Te identificas demasiado con el texto, creo.(p.114) <動
+副>

きちんと 作品名：NP

・・・母に会う度にふいにきちんとした未来に、タイムマ
シンのにひゅっと運ばれた気がする。(p.134)

cada vez que veía a mamá tenía la impresión de ser
transportada una máquina del tiempo hacia el futuro,
hacia el tiempo real.(p.114) <副>

きちんと 作品名：銀河

みんなはきちんと立って(p.160)
todos de pie y en orden(p.15) <副>

きちんと 作品名：NP

「・・・人間ってなかなかきちんと何かを決められないわ
ね。」(p.73)

Por lo visto es difícil tomar una determinación,
¿verdad?(p.66) <無視>

きちんと 作品名：銀河

きちんとそろえて、一つずつ重ね直してはいたのでした。
(p.189)

había ordenado y amontonado
cuidadosamente(p.39) <無視>

きつ 作品名：坊

思わずきつとなった。(p.78)

instintivamente me puse a la escucha. (p.82) <全体 +
何とか>

きつ 作品名：斜陽

夕方になると、きつと風が出て(p.29)
se levantaba el viento(p.30) <無視>

ぎっしり 作品名：銀河

ほんとうにこんなようなさそりだの勇士だのそらにぎっ

しり居るだろうか(p.167)

si el cielo estaría en realidad lleno de galaxias como el Escorpión, el Cazador...(p.21) <形>

ぎっしり 作品名：羊

途中から通学する高校生の男女でぎっしりと満員になり、・・・(p.85(下))

se fue llenand de estudiantes de bachillerato camino del instituto,(p.226) <動>

ぎっしり 作品名：羊

・・・おそろしいほどの数の古書がぎっしりと並んでいた。(p.134(下))

atestada de libris viejos(p.265) <動>

ぎっしり 作品名：NP

本棚にぎっしりつまった洋書(p.100)

La estantería llena de libros extranjeros.(p.88) <無視>

ぎっしり 作品名：羊

そのあとには墓石のような高層ビルがぎっしりと建ち並んでいた。(p.140(上))

ahora se alineaban altos y macizos edificios, como lápidos sepulcrales (p.97) <無視>

きっちり 作品名：NP

紺のスーツを着て、きっちり化粧をして、窓の外を見ていた、(p.133)

Llevaba un traje azul marino, iba maquillada y estaba mirando hacia fuera.(p.113) <無視>

きっちり 作品名：砂

使い終わるとまたきっちりくるんで、輪ゴムでとめた(p.62)

luego de usarlo, cerró la bolsita y la ató con una banda de plástico(p.60) <無視>

きっぱり 作品名：銀河

カムパネルラのお父さんがきっぱり云いました。(p.221)

El padre de Campanella dijo con resolución:(p.69) <副>

きびきび 作品名：砂

きびきびと仕事に熱中している様子(p.38)

hubieran cumplido con empeño su tarea(p.39) <無視>

ぎゃー(ギャー) 作品名：幻影

・・・彼女の足元に黒い塊りが当り、ギャーと声をたてた。(p.105)

el susto venció su par/alisis(p.108) <全体>

ぎゃあぎゃあ 作品名：銀河

ぎゃあぎゃあ叫びながら、(p.188)

con gran algarabía,(p.39) <名>

きゅうきゅう 作品名：砂

体をよじって、きゅうきゅう笑い声をたてたりする(p.181)

onduladas tu cuerpo dando risas chillonas(p.161) <何とか>

ぎゅうぎゅう 作品名：坊

石や棒ちぎれをぎゅうぎゅう井戸の中へさしこんで、(p.9)

cegué con piedras y palos aquella boca del pozo.(p.11) <比>

ぎゅうっと 作品名：NP

・・・と言って彼は私の手をぎゅうっと握った。(p.125)

dijo, apretándome la mano con fuerza.(p.107) <副>

ぎゅっと 作品名：NP

「初めはそれも楽しめたけどだんだん、私がぎゅっと手を握っても暗い瞳で私を見るだけになっちゃった。」(p.77)

Al principio eso incluso vos divertía, pero, poco a poco, llegamos a un punto en que, aunque yo le estrechara la mano con fuerza, él no hacía más que mirarme con tristeza.(p.68) <副>

ぎゅっと 作品名：NP

ぎゅっとしほりこむように私を見つめていたその目を初めてのぞきこんだときのことを、私は忘れない。(p.64)

No olvidaré nunca el momento en que vi por primera vez aquellos ojos clavados en mí.(p.60) <無視>

ぎゅっと 作品名：NP

真っ青で、ぎゅっと緊張していて、そのくせどこかぼんやりしていた。(p.93)

Su rostro estaba muy pálido, tenso y, al mismo tiempo

ausente,(p.83) <無視>

ぎゅつと 作品名：失格

かえって強きぎゅつと握ってしまうみたいに、(p.98)
la aprieta con más fuerza entre sus manos(p.94) <名>

きゅんと 作品名：NP

だから私たちにとって、いちばんきゅんとくる母の風景は、台所の後姿ではない。(p.14)

...por eso, la imagen de mamá que recuerdo con más cariño no es su silueta de espaldas en la cocina,...(p.20) <何とか>

ぎよつ 作品名：NP

ノックの音がして、ぎよつとした。(p.51)
Cuando llamaron a la puerta me sobresalté.(p.51) <動>

ぎよつ 作品名：斜陽

ぎよつとした(p.32)
Me di cuenta de quela culpa del incendioera mía.(p.32) <無視>

ぎよつと 作品名：地獄

この思いもよらない出来事には、いくら横道な良秀でも、ぎよつと致したのでございましょう。(p.114)

Ante esta eventualidad ,el mismo Yoshihide se precipitó.(p.41) <ミス+何とか>

ぎよつと 作品名：失格

ぎよつとしました。(p.112)
Tuve un sobresalto.(p.106) <全体>

ぎよつと 作品名：斜陽

私は、ぎよつとした(p.122)
Me dió un sobresalto(p.101) <全体>

ぎよつと 作品名：NP

咲が隣でぎよつとしたのがわかった。(p.159)
Noté que, a mi lado, Saki se sobrecofia.(p.133) <動>

ぎよつと 作品名：NP

私はぎよつとした。(p.172)
Me quedé helada.(p.143) <動>

きよとん 作品名：台所

「なにが？」と本当に不思議そうにきよとんとした。(p.40)

-¿El qué?-dijo realmente asombrado,con aire de extrañeza.(p.42) <ミス>

きよとん 作品名：NP

・・きよとんとして、翠が言った。(p.95)
...dijo con aire de extrañeza.(p.84) <副>

きよとんと 作品名：斜陽

私は、きよとんとしていました(p.90)
Sus palabras me sorprendieron mucho(p.76) <何とか+ミス>

きよとんと 作品名：台所

雄一はすぐくびっくりした目できよとんと私を見つめていた。(p.58)
Yuichi me miraba con ojos atónitos.(p.59) <形>

きよとんと 作品名：台所

きよとんとしたままの雄一にそう言うと、(p.70)
Al oírme,Yuichi,que estaba perplejo,(p.70) <形>

きよとんと 作品名：NP

振り向くと翠はえ？と言ってきよとんとした目で私を見た。(p.131)
Sui se volvió y soltó una exclamación, mirándome con sorpresa.(p.110) <副+名>

きよろきよろ 作品名：坊

なにかきよろきよろしていたが、(p.127)
echó un vistazo rápido en torno suyo (p.126) <形+副>

キラキラ 作品名：羊

秋の太陽の下でそれはキラキラ光るカフェ・オ・レの放水路のように見えた。(p.90(下))

bajo el sol otónal parecía un caudal centelleante de café con leche ya asomándose, ya escondiéndose.(p.230) <形>

きらきら 作品名：NP

・・きらきらと揺れる水面や・・(p.77)
..la superficie del agua que brillaba levantando olas pequeñas,...(p.69) <動>

きらきら 作品名：銀河

赤や緑やきらきら燃えて光っているのです。(p.204)
brillaban verdes, rojas,(p.53) <無視>

きらきら 作品名：台所

夜景#烽、雨は上がって湿気を含んだ透明な大気にきら
きら輝いて、それは見事に映っていた。(p.24)

El paisaje en la noche...tras la lluvia,relucía en el aire
transparente lleno de humedad y brillaba de una
manera magnífica.(p.28) <無視>

きらきら 作品名：羊

「白くてキラキラしてるんだ。そしてみんな凍りつくん
だ。」(p.156(下))

todo es blanco y resplandeciente.(p.280) <無視>

ぎらぎら 作品名：NP

ぎらぎら照りつける陽は私たちの尻の下のコンクリを暖
め、・・(p.129)

El sol brillaba abrasador, caldeando el cemento donde
estábamos sentadas y reverberando con una luz
blanca.(p.109) <形>

ぎらぎら 作品名：NP

「貧乏で、思春期で、ぎらぎらしてて、下町で、母は行
方知れず。」(p.151)

Yo era pobre, adolescente, inquieta, vivía en los barrios
bajos y ni siquiera conocía el paradero de mi
madre.(p.127) <形>

ぎらぎら 作品名：羊

眼光だけがぎらぎらと光っていた。(p.45(下))

sólo el brillo de sus ojos permanecía
inalterado(p.196) <形>

ぎらぎら 作品名：NP

目を開けていられないほどの、ぎらぎらの陽射し！(p.62)

¡El sol brillaba con tanta fuerza que apenas podía
mantener los ojos abiertos!(p.59) <副>

きらきらして 作品名：NP

歩けない、というほどではないけれど、世の中がきらき
らして見える程度には変だった。(p.123)

No tanto como para no poder tenerme en pie , pero sí

para ver brillar el mundo a mi alrededor.(p.105) <動>

きらきらして 作品名：NP

きらきら光って波だっていた。(p.129)

Las crestas del agua centelleaban.(p.109) <動>

きらっ 作品名：銀河

眼鏡をきらっとさせて、(p.181)

lanzando un reflejo con sus gafas(p.33) <無視>

ぎらっ 作品名：銀河

見えない天の川の水がぎらっと光って(p.208)

las aguas invisibles de la Vía Láctea
centellearon(p.57) <動>

ぎらっ 作品名：銀河

虹のようにぎらっと光ったり(p.174)

de todos los colores del arco iris.(p.27) <無視>

きらっきらっ 作品名：銀河

電しんばしらの碍子がきらっきらっと続いて二つばかり
光って(p.207)

Los aislantes de un par de postes telegráficos brillaron
un instante(p.56) <ミス>

きらっきらっ 作品名：銀河

きらっきらっと白く腹を光らせて(p.208)

con sus blancos vientres brillando(p.57) <無視>

きらっと 作品名：斜陽

お二人の眼に涙がきらっと光った(p.128)

en sus ojos brillaban las lágrimas(p.106) <動>

きらり 作品名：羊

それは正面から光を受けると義眼のようにきらりと光っ
た。(p.100(下))

Al recibir la luz de lfrente, brillaban con viveza, como
si fueran de cristal.(p.239) <動>

きらり 作品名：羊

闇の中で彼らはきらりと瞳を光らせ、じっと僕を見つめ
ていた。(p.109(下))

En las tinieblas les brillaban los ojos,(p.246) <動>

きらり 作品名：藪

女はそれを一目見るなり、何時の間に懐から出していたか、きらりと小刀を引き抜きました。(p.172)
pero al llegar ,ni bien advirtió la situación del hombre ,sacó un puñal.]o supe cuándo・(p.15) <無視>

きりきり 作品名：台所
えりこさんの香水の匂いがかすかにして、胸がきりきりした。(p.76)
Olía ligeramente al perfume de Eriko y sentí una punzada en el corazón.(p.76) <何とか>

きりきり 作品名：台所
えりこさんの笑顔が浮かんで胸がきりきりとしたが、体を動かしたかった。(p.79)
,apareció la cara sonriente de Eriko y me dolió el corazón.(p.80) <動>

きりきり 作品名：地獄
(蛇は)きりきりと自分の体へ巻きつきましたが、(p.114)
La serpiente, retorciendo el cuerpo(p.41) <無視>

きりきり 作品名：地獄
(蛇が耳木兎の体に)きりきりと捲きついているのでございます。(p.119)
Una víbora negra se había enroscado al ave,apresandole el cuello y una de las alas.(p.44) <無視>

ぎりぎり 作品名：NP
理解ぎりぎりの親かな熱情になのか、庄司の骨そのものになのか、わからなかった。(p.120)
No sabía si por aquel afecto al límite de lo comprensible o por los fragmentos de hueso de Shoji.(p.103) <名>

ぎりぎり(ギリギリ) 作品名：台所
私はいつもギリギリにならないと動けない。今回も本当にギリギリのところまでこうしてあたたかいベッドが与えられたことを、・・感謝していた。(p.32)
...nunca me he movido hasta llegar al límite.También entonces,cuando estaba en un momento realmente desesperado,aparecio alguien y me ofreció una cama caliente,y eso, exista o no,se lo agradecí a Dios de corazón.(p.35) <形+何とか>

ぎりぎりになら(ギリギリになら) 作品名：台所

私はいつもギリギリにならないと動けない。今回も本当にギリギリのところまでこうしてあたたかいベッドが与えられたことを、・・感謝していた。(p.32)
...nunca me he movido hasta llegar al límite.También entonces,cuando estaba en un momento realmente desesperado,aparecio alguien y me ofreció una cama caliente,y eso, exista o no,se lo agradecí a Dios de corazón.(p.35) <動>

きれぎれ 作品名：銀河
子供らの歌う声や口笛、きれぎれの叫び声もかすかに聞えて来るのでした。(p.170)
De vez en cuando se escuchaban débilmente las canciones, silbidos y risas de los niños.(p.24) <無視>



ぐい 作品名：坊
力まかせにぐいと引いたら、(p.66)
con toda la fuerza del tirón, (p.69) <無視>

ぐいぐい 作品名：坊
ぐいぐいたぐりよせた。(p.75)
Y empecé a recoger hilo con prisas. (p.79) <何とか>

ぐいぐい 作品名：坊
おれと山嵐をぐいぐい引っぱってゆく。(p.165)
nos arrastraron a “Puercoespín” y a mí, a fuerza de tirones intermitentes. (p.161) <副>

ぐいっと 作品名：台所
・・・、ぐいっと力を入れてもう片方の手を飾り屋根の上に肘までのせてかわらをしっかりつかんだ。(p.133)
Luego,con fuerza,coloqué el otro brazo hasta el codo sobre el tejado falso y así una teja.(p.131) <無視>

ぐいと 作品名：斜陽
ぐいと飲む(p.138)
bebieron su sake(p.115) <無視>

ぐいと 作品名：地獄
その鎖の端を邪険にぐいと引きましたからたまりません。(p.113)
Ajustó con tanta violencia la punta de la cadena(p.40) <無視>

ぐう 作品名：坊

自分の領分へまっさかさまに落ちて、ぐうといった。(p.9)
Cayó de coronilla en su propia parcela con un sordo
“¡cataplum!”. (p.11) <オノ>

ぐうぐう 作品名：NP

ぐうぐうとうるさい音を立てて寝てしまった。(p.60)
Finalmente, se quedó dormido y empezó a roncar
ruidosamente.(p.57) <何とか>

ぐうぐう 作品名：NP

「・・・こんな時にぐうぐう寝てるなんて、乙彦って本当
にばかよね」(p.145)
En estos momentos, estar dormiendo tranquilamente
como hace Otohiko es una estupidez.(p.122) <副>

ぐうぐう 作品名：斜陽

ぐうぐう大いびきで(p.77)
roncaba estrepitosamente(p.66) <副>

ぐうぐう 作品名：坊

ぐうぐう寝てしまった。(p.88)
quedé profundamente dormido. (p.91) <副>

ぐうぐう 作品名：坊

山嵐もおれも疲れて、ぐうぐう寝こんで (p.211)
Tanto “Puercoespín” como yo estábamos agotados y
dormimos como leños (p.208) <副>

グーグー (グーグー) 作品名：台所

・・・雄一を見たら、またグーグー寝ている。(p.92)
Miré a Yuichi.Todavía dormía profundamente.(p.93) <
副>

くさくさ 作品名：坊

くさくさした。(p.50)
¡Era deprimente! (p.55) <形>

くしゃくしゃ 作品名：羊

鼠の手紙は・・・郵便受けにくしゃくしゃになってつ
っこまれていた。(p.125(上))
Encontré la carta del Ratón enbutida de mala manera
en mi buzón, (p.86) <形 + 名>

くしゃくしゃ 作品名：銀河

くしゃくしゃの皺曲をあらわしたのや、(p.180)
Los pliegues de los estratos se habían hecho
visibles(p.32) <無視>

ぐしゃぐしゃ 作品名：羊

悪魔は腹を立てるとぐしゃぐしゃとした緑色のフルーゼ
リーのような体を震わせて怒った。(p.13(下))
Cuando montaba en cólera, el cuerpo del Diablo.que
era de una brillante gelatina verdosa, se estremecía
furiosamente.(p.173) <形>

ぐしゃぐしゃ 作品名：斜陽

ぐしゃぐしゃにこわして(p.9)
me dediqué a desmenuzarlo con los palillos(p.15) <動>

ぐしゃぐしゃ 作品名：台所

、現実の雄一は寝ぼけたブスな顔でぐしゃぐしゃそう言
った。(p.57)
Farfulló atontado,con la cara abotagada,el Yuichi
real,..(p.59) <動>

ぐしゃぐしゃ 作品名：羊

雪溶けで地面がぐしゃぐしゃとした季節だ。(p.103(上))
Tal vez la época del deshielo,cuando el tierro es
propenso a enfagangarse.(p.72) <動>

くすくす 作品名：砂

男は、くすくす笑って、靴を脱いだ(p.171)
el hombre soltó una risita y se quitó los
zapatos(p.152) <何とか>

くすくす 作品名：坊

ささやきあってはくすくす笑うわけがない。(p.191)
¿a qué venía que murmurasen entre ellos de ese modo
y se carcajearan de nosotros?(p.190) <動>

くすくす 作品名：羊

女子高生の二人連れがくすくすと笑った。(p.13(下))
Un par de chicas,con aspecto de estudiantes de
bachillerato, que iban juntas,se desternillaron de
risa.(p.173) <動>

くすくす 作品名：坊

なんだか二人がくすくす笑いだした。(p.78)

los dos se echaron a reír con disimulo. (p.82) <副>

くすくす 作品名：斜陽

ひとりでくすくす笑った(p.43)

me reí de mis propias palabras(p.40) <副+何とか>

くすくす 作品名：NP

翠が私の背中にくすくすと笑いを響かせて言った。
(p.130)

...dijo Sui riendo. Sentí la vibración de su risa a través de mi espalda.(p.110) <無視>

くすくす 作品名：台所

二人が白いエプロンで光の中、くすくす笑っている様子は、(p.96)

Quando se reían con el delantal blanco,bajo la luz,(p.96) <無視>

くすくす 作品名：台所

くすくすお母さんは笑った。(p.27)

Se rió con una risilla sofocada.(p.31) <名>

ぐずぐず 作品名：羊

羊男はそれからもまだぐずぐずしていた。(p.154(下))

El hombre carnero , ante esto, mostró cierto desconcierto.(p.279) <形>

ぐずぐず 作品名：斜陽

髪を直したりしてぐずぐずして(p.35)

de modo que me quedé arrglándome el cabello(p.34) <無視>

くすっ 作品名：銀河

くすっと笑いました。(p.158)

se rió en su cara.(p.13) <無視>

くたくた 作品名：砂

やがてくたくたになってしまうだろう(p.74)

quedaría exhausta(p.71) <形>

ぐちゃぐちゃ 作品名：NP

「ぐちゃぐちゃで、頭も少し混乱していて、何が正しいのか悪いのかさっぱりわからなかった。」(p.151)

Estaba hecha un lío, con la cabeza confusa y no tenía la mínima noción del bien y del mal.(p.127) <動>

ぐちゃり 作品名：坊

尻の下でぐちゃりと踏みつぶしたのが一つ、(p.55)

uno que aplasté de lleno con el trasero (p.60) <副>

ぐちゃり 作品名：坊

玉子がぐちゃりと割れて(p.209)

Los huevos estallaron (p.205) <無視>

くつきり 作品名：幻影

・・・牛乳瓶についた指紋がくつきりと浮かび上がった。
(p.65)

revelaron sus huellas digitales(p.73) <何とか>

くつきり 作品名：斜陽

湖の底に、私の脚の影がくつきりと写っていて(p.56)

en el fondo el lago se recortaba a la perfección mi sombra moviéndose(p.50) <副>

くつきり 作品名：羊

何もかもがくつきりと輝いていた。(p.178(下))

Todo brillaba distintamente.(p.297) <副>

くつきり 作品名：NP

満面の、力いっぱい、インドの子供たちみたいにくつきりした笑顔だった。(p.132)

Su rostro nítido mostraba sonrisa radiante y llena de energía de un niño de la India.(p.111) <無視>

くつきり 作品名：銀河

くつきり白いその羽は(p.206)

las plumas blancas(p.55) <無視>

くつきり 作品名：銀河

人の集りがくつきりまっ黒に立っていました。(p.219)

se veían las sombras negras de un grupo de gente.(p.68) <無視>

くつきり 作品名：砂

いやにくつきりとくびれ目がついていた(p.111)

se notaba una arruga desagradable(p.102) <無視>

くつきり 作品名：羊

羊の背中にはくつきりと星型の斑紋が入っていた。
(p.179(上))

Sobre el lomo del carnero se distinguía con claridad meridiana el lunar en forma de estrella.(p.122) <名>

くつきり 作品名：羊

細かいところが実にくつきりとしていて(p.213(上))
sus detalles parecen obedecer a algún designio(p.146) <名>

くつきりと 作品名：NP

沈黙を包む波音は、夜が明けるとともにくつきりと鮮やかに聞こえてくるような気がした。(p.218)
Me daba la sensación de que a medida que avanzaba la noche, el rumor del oleaje, que envolvía el silencio, se oía de una manera más nítida.(p.182) <無視>

くつくつ 作品名：銀河

もう大丈夫だと安心しながらジョバンニはそっちを見あげてくつくつ笑いました。(p.191)
Giovanni, levantando la vista hacia él y riéndose despreocupadamente.(p.41) <無視>

ぐっしょり 作品名：砂

髪の毛が、ぐっしょり濡れている(p.193)
tenía el pelo empapado en sudor(p.171) <形>

ぐっしょり 作品名：羊

そのくせ体だけはぐっしょりと濡れてしまいそうな細かな雨だ。(p.145(上))
era una lluvia tan fina que a veces dudaba de que estuviera lloviendo,pero lo cierto es que mi ropa estaba cada vez más empapada(p.100) <形>

ぐっしょり 作品名：羊

毛布や下着がぐっしょりと濡れ、(p.209(下))
La manta y la ropa interior se empaparon de sudor,(p.317) <動>

ぐっしょり 作品名：砂

髪の毛までが、水をかぶったように、ぐっしょり濡れていた(p.219)
sus pelos estaban como empapados de agua(p.195) <名>

ぐっすり 作品名：幻影

そのうち、昼間牛乳瓶の水差しを作った疲れてぐっすり

眠ってしまったのである。(p.69)
se quedó dormida con estas agradables ideas(p.78) <何とか>

ぐっすり 作品名：砂

ぐっすり眠っておくことにする(p.158)
permaneció en cama toda la noche anterior(p.141) <全>

ぐっすり 作品名：NP

ドアの外で少し泣いて、また部屋に入ったらあなたはぐっすり寝た。(p.196)
Lloré un poco detrás de la puerta y, cuando volví a entrar en la habitación, tú estabas ya profundamente dormida.(p.164) <副>

ぐっすり 作品名：砂

ぐっすり眠ってやる(p.73)
dormiría profundamente durante la noche(p.70) <副>

ぐっすり 作品名：砂

ぐっすり、寝過ぎてしまってくれるに違いない(p.160)
dormiría profundamente hasta la noche(p.142) <副>

ぐっすり 作品名：歯車

とにかくぐっすりと眠ることにした。(p.53)
me dispuse a dormir profundamente.(p.72) <副>

ぐっすり 作品名：台所

雄一は、ヤ t アーでそのままぐっすり眠ってしまった。(p.92)
Yuichi se quedó profundamente dormido en la sofá.(p.92) <副>

ぐっすり 作品名：坊

ぐっすり寝た。(p.36)
dormí como un bendito. (p.39) <副>

ぐっすり 作品名：羊

我々は二人ともいつのまにかぐっすり寝込んでいて、・・・(p.91(下))
Los dos nos habíamos quedado profundamente dormidos,(p.231) <副>

ぐっすり 作品名：羊

彼女は僕の胸の上でぐっすりと眠り込んでいた。
(p.73(上))
se había quedado dormida sobre mi pecho.(p.50) <無視>

ぐっすり 作品名：羊

そして処齊梓ノ電気を消してぐっすりと眠った。
(p.233(上))
A las once apagué la luz, y me dormí como un tronco.(p.161) <名>

ぐったり 作品名：幻影

教祖の言葉で巫子はぐったりとし、・・・(p.173)
la médium permaneció en silencio e inmóvil(p.174) <何とか>

ぐったり 作品名：砂

男は、ぐったり砂の壁によりかかった(p.147)
el hombre, extenuado ,se apoyó en la pared de arena(p.132) <形>

ぐったり 作品名：羊

緊張のためにもうぐったりと疲れ切っていた。(p.89(上))
estaba exhausta,acausa dela tensión que llenaba el ambiente.(p.60) <形>

ぐったり 作品名：銀河

あの姉弟はもうつかれてめいめいぐったり・・・眠っていました。(p.198)
Los dos hermanos, agotados, se habían quedado dormidos reclinados en sus asientos.(p.46) <無視>

ぐったり 作品名：砂

ぐったり、全身を女の手にゆだねてしまっても、さして気にならない(p.73)
no le intimidaba abandonar su cuerpo en manos de la mujer(p.70) <無視>

ぐったりと 作品名：台所

・・・、あまりの寒さに暖房をつけっぱなしで私はぐったりと眠り込んだ。(p.141)
..como hacía mucho frío,me dormí,agotada,con la calefacción encendida.(p.139) <形>

ぐったりと 作品名：台所

やっとひとりになったらぐったりと疲れているのに気づいた。(p.78)
..y quedé sola,me di cuenta de que estaba muy cansada.(p.78) <無視>

ぐにゃり 作品名：砂

鈍い物音が、ぐにゃりと彼の胸板にのしかかってきた(p.70)
hubo un ruido sordo que hizo presión en su pecho(p.66) <無視>

ぐにゃり 作品名：砂

ぐにゃりと膝を折って、眼をとじた(p.142)
se le doblaron las rodillas y cerró los ojos(p.128) <無視>

くねくね 作品名：羊

蛇のようにくねくねした湧水の流れが幾筋か地面を横切っていた。(p.122(下))
Varios regatos de bullente agua fresca cortaron culebreando nuestro camino.(p.256) <動>

くよくよ 作品名：斜陽

もうくよくよすまい、と思って(p.35)
Decidiendo dejar de recriminarme por lo acontecido(p.35) <動>

くらくら 作品名：台所

こんなに並ぶたくさんの同じようなお部屋たちを見ていたら、くらくらしてしまった。(p.9)
pero al ver,uno tras otro ,tantos apartamentos parecidos,me mareé. (p.14) <動>

くらくら 作品名：斜陽

私はくらくらと目まいした(p.123)
Me dió un mareo(p.102) <動+全体>

くらくら 作品名：斜陽

くらくら目まいをしていなければならなかったんです(p.155)
Siempre me sentía mareado(p.127) <無視>

ぐらぐら 作品名：羊

管理人はぐらぐらと揺れるハンドルを握りしめたまま、(p.117(下))

El pastor ,agarrando con fuerza entre sus manos el volante.(p.252) <ミス>

ぐらぐら 作品名：失格

自分は、ぐらぐら目まいしながら、(p.116)
con la cabeza dándome vueltas(p.109) <動+名>

ぐらぐら 作品名：坊

そでの中にある勘太郎の頭が右左へぐらぐらなびいた。
(p.9)
la cabeza de Kantaro se movía al compás para todos
lados dentro de mi manga.(p.11) <副>

くらっと 作品名：台所

ちょっとくらっとするくらいつらいけれど、それは確かなことだ。(p.61)
Es tan doloroso que me hacer durar,pero es evidente.(p.62) <ミス>

くらっと 作品名：台所

・・・、今、生まれたすり傷がいちめん赤く染まっていたくらとした。(p.133)
..y vi los rasguños teñidos en rojo que me acababa de hacer,creí que me desmayaba.(p.132) <無視>

ぐり 作品名：坊

会議のときに金壺眼をぐりつかせて、おれをにらめたときは(p.134)
Cuando en la asamblea me miró echando chispas, en el momento de clavar en mí sus ojos (p.133) <何とか>

ぐり 作品名：坊

やっぱり目をぐりつかせて、山嵐をにらめてやった。
(p.96)
yo también puse a girar mis ojos para intimidar a “Puercoespín” con la mirada.(p.99) <動>

くるくる 作品名：砂

膝の上でくるくるまわしているのは、どうやら双眼鏡らしい(p.20)
daba vueltas sobre sus rodillas(p.25) <動>

くるくる 作品名：失格

・・・などと頭脳に走馬燈がくるくる廻っていた時に、
(p.115)

Estos pensamientos cruzaron mi mente como caballos al galope.(p.108) <動>

くるくる 作品名：銀河

手ばやくくるくと解きました。(p.185)
lo desató con movimientos rápidos.(p.36) <無視>

くるくる 作品名：銀河

またくるくと包んで紐でくくりました。(p.185)
volviendo a atar el fardo con un cordel.(p.37) <無視>

くるくる 作品名：銀河

しずかにくるくとまわっていました。(p.190)
giraban lentamente.(p.40) <無視>

くるくる 作品名：銀河

白いきれでそれをくるくる包んだり、(p.192)
las envolvía en su fardo blanco(p.42) <無視>

くるくる 作品名：銀河

くるくるコルク抜きのような形になって(p.200)
tomado forma de sacacorchos, (p.48) <無視>

ぐるぐる 作品名：NP

「なんか、身内でぐるぐる回ってて、恥ずかしいってらないわ。」(p.86)
No sabes la verguena que me da estar dandole vueltas constantemnete a los asuntos de mi familia.(p.76) <何とか>

ぐるぐる 作品名：幻影

・・・アパートの人々の顔がぐるぐると廻った。(p.51)
Le daba vueltas la cabeza. Ante sus ojos pasó la imagen de los rostros de las residentes del edificio(p.55) <何とか>

ぐるぐる 作品名：坊

目をぐるぐるまわしちゃ、ときどきおれのほうを見る。
(p.96)
con esos ojos que le daban vueltas de impaciencia, me lanzaba de vez en cuando severas miradas. (p.99) <何とか>

ぐるぐる 作品名：砂

蜘蛛が一匹、ランプの周りを、ぐるぐる廻りはじめた

(p.195)

pero ágil , empezó a dar vueltas alrededor de la lámpara(p.174) <全>

ぐるぐる 作品名：台所

頭がぐるぐるまわった。(p.67)

La cabeza me daba vueltas.(p.66) <全体>

ぐるぐる 作品名：坊

ぐるぐる、閑静で住みよさそうなところをあるいてるうち、(p.109)

Después de merodear por la zona donde se vivía bien y sosegadamente, (p.112) <動>

ぐるぐる 作品名：地獄

その儘両腕を捻じあげて、(鎖で体を)ぐるぐる巻きに致してしまいました。(p.113)

Rodeó su cuerpo con varias vueltas oprimiéndolo con brutalidad,(p.40) <副>

ぐるぐる 作品名：羊

ただそれがぐるぐるまわっていただけの話よ。・・・」(p.113(下))

el caso es que se trata de un ciclo que se repite una y otra vez.(p.249) <副>

ぐるぐる 作品名：銀河

しきりにぐるぐるまわして(p.173)

giraba sin cesar.(p.27) <無視>

ぐるぐる 作品名：銀河

ぐるぐるにわたこのやぶをまわって(p.195)

dando vueltas entre los arbustos del jardín(p.44) <無視>

ぐるぐる 作品名：銀河

その葉はぐるぐるに縮れ(p.204)

las hojas rizadas(p.53) <無視>

くるっ 作品名：銀河

僕の影法師はコムパスだ。あんなにくるっとまわって、前の方へ来た(p.166)

Mi sombra ha girado como una brújula y ha quedado delante de mí.(p.20) <無視 (brújula は、コンパスはコンパスでも、羅針盤のことを示す)>

くるっくるっ 作品名：銀河

赤い眼が、くるっくるっとうごいたり、(p.166)

cuyos ojos rojos se movían de derecha a izquierda(p.21) <副>

ぐるっと 作品名：砂

家の周りだけでも、ぐるっと一あたり(p.39)

una vuelta alrededor de la casa(p.40) <名>

くるり 作品名：砂

くるりろ振り向いて待ち受ける(p.13)

da la vuelta y espera(p.18) <動>

くるり 作品名：砂

それからくるりと背をむけ、うつぶせになった(p.49)

luego, dándole la espalda ,encogió el cuerpo (p.49) <無視>

くるり 作品名：斜陽

立ち止まり、くるりと私のほうに向き直って(p.43)

se detuvo y se volvió(p.40) <無視>

くるり 作品名：歯車

T君はその前に杖の柄をくるりと左へ向け、(p.33)

girando su bastón hacia la izquierda,(p.59) <無視 + 動>

ぐるり 作品名：羊

僕は腕を組んだままもう一度ぐるりと庭を見渡した。

(p.111(上))

Con los brazos cruzados,eché otra ojeada al jardín,a mi alrededor.(p.78) <何とか>

ぐるり 作品名：砂

ぐるりと取りまかれ(p.152)

estaba totalmente rodeado(p.135) <形>

ぐるり 作品名：坊

舟は島を右に見てぐるりとまわった。(p.71)

Nuestra barca fue dejando la isla a la derecha, y rodeándola por ese lado. (p.76) <動>

ぐるり 作品名：羊

街をとりあえずぐるりと一周してから(p.122(上))

Lo primero que hago es darme una vuelta por la ciudad.(p.84) <動>

ぐるり 作品名：羊

・・・ハンドルに手を置いたままぐるりとこちらを向き、
(p.113(下))
se volvió hacia nosotros y la miró la cara(p.249) <動>

ぐるり 作品名：羊

鍵は僕の手の中でぐるりと回転し、・・・(p.129(下))
Giró accionaba por mi mano,(p.262) <動>

ぐるり 作品名：坊

ぐるりとまわることがある。(p.184)
daban la vuelta en redondo (p.181) <副>

ぐるり 作品名：地獄

まだ焼筆で図取りだけしか出来ていない屏風が、ぐるりと立て廻してあったそうでございます。(p.110)
Podía verse el boceto del biombo hecho al carbón y colocado en posición vertical.(p.39) <無視>

ぐるり 作品名：坊

二足前へだした踵をぐるりと返して (p.132)
cuando los había adelantado un par de pasos, me volví sobre mis talones (p.131) <無視>

ぐるり 作品名：羊

ジープはぐるりとカーブをまわって姿を消し、・・・
(p.121(下))
El jeep cogió la curva y desapareció(p.255) <無視>

ぐるり 作品名：砂

ぐるりとだっている？(p.39)
¿una vuelta alrededor de la casa?(p.40) <名>

ぐるりぐるり 作品名：坊

力こぶがぐるりぐるりと皮の中で回転する。(p.155)
la bola del músculo rodaba bajo su piel. (p.152) <無視>

ぐるりと 作品名：NP

静かに息づいているぐるりと遠い水平線。(p.211)
La línea lejana del horizonte en el mar que se extendía suspirando en silencio.(p.177) <動>

ぐるりと 作品名：NP

高いビルに囲まれ、魚になったようにぐるりと世界が閉じられて見えた。(p.127)
Alrededor de nosotros, unos edificios altos nos encerraban en un mundo parecido a un acuario.(p.107) <副・動>

ぐるんと 作品名：NP

あんまり驚いて、天地がぐるんと回った気さえした。
(p.157)
Me sorprendió tanto que el orden entre el cielo y la tierra pareció invertirse.(p.131) <動>

ぐん 作品名：台所

・・・、瞳がぐんと近く見えて、目が離せなかった。(p.11)
me quedé mirándolo fijamente a los ojos,(p.15) <無視>

ぐんぐん 作品名：羊

シェパードの仔犬は犬小屋から首を出して、僕に向かってぐんぐんと鼻を鳴らした。(p.107(下))
El pequeño perro pastor se asomó a la puerta de su caseta y me dedicó unos cuantos ladridos amistosos.(p.245) <動>

ぐんぐん 作品名：台所

細い坂道をぐんぐん登ってゆく。(p.130)
Subimos rápidamente por una cuesta estrecha.(p.129) <副>

ぐんぐん 作品名：NP

低空をぐんぐん飛ぶ鳥の視点みたいに、情景の方から無理やり頭に入ってくるのを止められなかった。(p.147)
No podía frenar las imágenes que irrumpían en mi mente como en el campo visual de un pájaro que vuela bajo.(p.124) <無視>

ぐんと 作品名：台所

すべてが熱気の向こうにあるようにシュールに美しくゆがんで光り、目の前にぐんとせまってくる。(p.69)
Todo brillaba irrealmente, bonito y deformado, como una ilusión, y se acercaba a mis ojos con rapidez.(p.69) <副>

ぐんと 作品名：台所

一階と二階の間にある飾り屋根のへりがぐんと近く見え

た。(p.132)

Entonces,vi muy cerca el alero del tejado falso,de adorno,que estaba entre la planta y el primer piso,(p.131) <副>

ぐんと 作品名：台所

こんなにも世界がぐんと広がって、(p.16)
un mundo amplio,(p.20) <無視>

ぐんと 作品名：台所

、受話器が瞬間、ぐんと遠ざかった。(p.66)
..y el auricular del teléfono se alejó un instante.(p.65) <無視>

ぐんと 作品名：台所

下を見ると、さっき足元だった辺りはぐんと暗く、遠い。
(p.133)
Al mirar abajo,el sitio donde poco antes había apoyado los pies se veía oscuro,lejano.(p.132) <無視>

イナ

げえげえ 作品名：NP

あきれているひまもなく、げえげえ吐く音とか水音とか
が聞こえてきた。(p.53)
Oí al instante cómo vomitaba y los ruidos del agua al correr.(p.53) <無視>

げっそり 作品名：羊

顔はげっそりとやせて(p.45(下))
Tenía la cara demacrada (p.196) <形>

げっそり 作品名：羊

顔色はいやに白んで、一晩で頬の肉がげっそりと落ちて
いた。(p.212(下))
y las mijillas se me habían quedado chupadas en una sola noche(p.319) <形>

げつと 作品名：斜陽

げつとなった。(p.6)
daban ganas de vomitar(p.12) <全体>

けらけら 作品名：NP

翠はけらけら笑った。(p.169)
...rió Sui.(p.141) <無視>

げらげら 作品名：NP

私はげらげら笑ってしまった。(p.154)
Me eché a reír a carcajadas.(p.129) <動>

げらげら 作品名：NP

・・・と咲はげらげら笑った。(p.85)
...dijo Saki, soltando una carcajada.(p.76) <名+動>

げろ(ゲロ) 作品名：NP

つわりのゲロの方が、母に殴られるよりまだ甘いを知
った。(p.197)
He descubierto que las náuseas matutinas son todavía más dulces que los coscorriones que me propinaba mi madre.(p.164) <名>

ご

ごうごう 作品名：NP

ごうごう大げさに吹きゆく風。(p.59)
El viento que rugía, con unos silbidos exagerados.(p.56) <何とか>

ごうごう 作品名：砂

砂がごうごう淹みたいに流れだしましてね(p.30)
la arena empieza a tronar como si fuera una catarata(p.33) <動>

ごうごう 作品名：台所

、あたたかい風がごうごう吹いていた。(p.41)
Fuera rugía un viento tibio..(p.43) <動>

ごうごうと 作品名：NP

電気がごうごうとついた部屋はがらんとして、・・・
(p.167)
La habitación tenía todas las luces encendidas pero estaba vacía.(p.140) <何とか>

ごうんごうんと 作品名：台所

乾燥機にかけてごうんごうんと回っているのを見ている
うちに、(p.80)
Lavé todos los paños de cocina hasta que quedaron muy blancos y sentí que,(p.80) <無視>

ごくごく 作品名：砂

顔の内側がごくごく脈うちながら火照りだした(p.121)
le asaltó una fuerte palpitación en la cara, seguida de
ardor(p.111) <比>

ごくごく 作品名：NP

・・・とコップに水を注いで渡すと、彼はそれをごくごく
飲んだ。(p.54)

Lo bebió con avidez.(p.53) <副>

ごくごく 作品名：NP

なまぬるいそれをごくごく飲むと、やっとなんか自分の
部屋でないことに気づいて、そして、・・・(p.182)

Después de beberme aquel agua un poco tibia,
comprendí , al fin, que no estaba en mi
habitación.(p.151) <無視>

ごしごし 作品名：台所

みがき粉でシンクをごしごしこすり、(p.80)

Froté la cocina de gas y el fregadero con el
estropajo.(p.80) <無視>

こじんまり 作品名：羊

「こじんまりとしていて、余計なものもなさそうだし」

(p.18(下))

Cómodo, y sin lujos superfluos, al parecer.(p.176) <形>

こせこせ 作品名：坊

かげでこせこせ生意気な悪いたづらをして、(p.60)

cometer incesantes travesuras egoístas en la oscuridad,
(p.64) <形>

こそこそ 作品名：地獄

黙ってこそこそ引き返したと垂れ幕でございますが、
(p.120)

se alejó rápidamente.(p.45) <副+ミス>

こそこそ 作品名：地獄

やがて師匠に黙礼をして、こそこそ部屋の外へ引き下が
ってしまいました。(p.119)

pero se apresuraron a saldar al maestro y a retirarse
del taller(p.44) <無視>

ごそごそ 作品名：羊

そしてごそごそと身をよじって羊の衣装に体をなじませ
てから、(p.157(下))

Luego,hizo unas cuantas contorsiones para adaptarse
mejor la indumentaria al cuerpo.(p.281) <動>

ごそごそ 作品名：NP

私はバッグからごそごそと庄司の形見の分のコピーを出
した。(p.94)

Saqué la libreta de Shoji de la bolsa.(p.84) <無視>

ごそごそ 作品名：NP

私はかばんからごそごそと木箱を出して、火の中に入れ
た。(p.211)

Saqué la caja de madera y la eché al fuego.(p.178) <無
視>

ごそごそと 作品名：NP

乙彦が言い、かばんからごそごそと薄いタイプ用紙の束
を出した。(p.212)

...dijo Otohiko sacando de su bolsa un delgado pliego
de hojas mecanografiadas.(p.178) <無視>

ごそっと 作品名：台所

それから、化粧台の引き出しにごそっと入っていたとい
う彼女の遺言状を(p.74)

Luego,Yuichi me dio el testamento de ella,que estaba
en un cajón del tocador.(p.73) <無視>

ごたごた 作品名：羊

・・・小さなデパートがあり、ごたごたとしたメインス
トリートがあり、・・・(p.85(下))

Tenía algunos pequeños comercios , una calle mayor
sin grandes pretensiones,(p.227) <形>

ごちごち 作品名：羊

「・・・あたりには雪しなくなつて、ごちごちに凍り
ついちゃうんだ。」(p.155(下))

No hay mas/ que nieve y hielo.(p.280) <無視>

ごちゃごちゃ 作品名：NP

モザイクみたいに乱れてごちゃごちゃになった彼女の心
は、(p.179)

Sus pensamientos, confusos y fragmentados, como
pequeñas teselas desordenadas de un
mosaico,...(p.147) <形>

コツコツ 作品名：羊

暖炉のわきにある柱時計だけがこつこつと時を刻んでいた。(p.130(下))

S/olo un reloj de pesas ,situado junto a la chimenea, desmenuzaba el tiempo con su tictac.(p.262) <オノ>

コツコツ 作品名：羊

分銅が上っている限り、時はコツコツと音を立てて流れる。(p.136(下))

Mientras las pesas estaban altas,el tiempo transcurría al compás de su tictac.(p.266) <オノ>

こつこつ 作品名：斜陽

こつこつと靴の音をさせてやって来て(p.44)

oí el sonido fuerte de unos pasos(p.41) <形>

コツコツ 作品名：羊

ウェイターの靴底がコツコツと気持ちの良い音を立てていた。(p.52(上))

y al andar sobre él ,las suelas de los zapatos del camarero emitían un sonido crujiente,muy agradable.(p.36) <形>

コツコツ 作品名：羊

彼女たちのサンダルのコツコツという音がタイル唐閨7舗道に響いていた。(p.202(上))

el rítmico taconeo de sus sandalias resonaba sobre el pavimento de las aceras.(p.137) <動>

こつこつ 作品名：銀河

足をこつこつ鳴らし、(p.174)

Zapateando(p.27) <動(オノ?)>

こつこつ 作品名：斜陽

また、こつこつと靴の音が聞こえて来て(p.44)

escuché de nuevo el sonido de pasos(p.41) <無視>

コツコツ 作品名：羊

ボールペンが机を叩くコツコツという音だけが長い間部屋を支配していた。(p.84(上))

El ruidito acompasado del bolígrafo golpeando en la mesa resonó durante un buen rato en solitario a lo largo y lo ancho de la habitación.(p.57) <名+形>

ごつごつ 作品名：NP

エレベーターもない、ごつごつした灰色の、3階建ての

マンション。(p.146)

Era una casa de tres plantas, con ásperas paredes de color gris, sin ascensor.(p.124) <無視>

ごつごつ 作品名：台所

・・・、大きな波音を響かせるごつごつした岩陰の巨大なのを見ていたら、(p.143)

..y la enormidad de las rocas que hacían resonar el rugido de las olas,(p.142) <無視>

こつこつ(コツコツ) 作品名：幻影

コツコツとまた扉をノックする音が聞えた。(p.146)

En ese momento, Yoneko oyó unos golpecillos furtivos en su puerta.(p.150) <形>

こつこつ(コツコツ) 作品名：幻影

・・・弓の背で譜面台をコツコツとたたくと子供を促した。(p.60)

dijo golpeando el atril con el arco(p.69) <無視>

こつこつ(コツコツ) 作品名：幻影

今度はコツコツというハイヒールの音である。(p.89)

oyó pasos en el corredor(p.95) <無視>

こつこつ(コツコツ) 作品名：台所

・・・と冷たく言い放ち、コツコツ音を立ててドアへ歩いていった。そして、ばーん、とドアをすごい音で閉めて、出ていった。(p.102)

dijo con frialdad y se fue pisando con fuerza.Salió dando un portazo.(p.101) <無視>

こっそり 作品名：幻影

則子は廊下に落ちている物を拾う仕草でこっそりと背後をうかがった。(p.85)

Noriko fingió buscar algo en el suelo para echar una mirada por el corredor.(p.91) <何とか>

こっそり 作品名：砂

その抑揚のない、こっそりとした調子には、おろかしいほどの確信がこめられている(p.59)

había una estúpida confianza en su voz serena y monótona(p.57) <形>

こっそり 作品名：NP

だからこっそり持ち出した。(p.214)

...así que lo saqué de casa a escondidas.(p.179) <副>

こっそり 作品名：砂

その下でこっそり自分の食事にとりかかる(p.63)

empezó a comer en silencio(p.61) <副>

こっそり 作品名：砂

こっそりロープの用意をし始めた(p.156)

en secreto, empszó a fabricar una sogap.(p.138) <副>

こっそり 作品名：斜陽

こっそり上原さんのアパートにとどけさせたものだが(p.74)

En secreto, envié a O-seki al apartamento del señor Uehara(p.64) <副>

こっそり 作品名：斜陽

質屋の番頭をこっそり家へ連れて来て(p.67)

sin que nadie me viera, he traído a casa a un empleado de tienda de empeños(p.59) <副+何とか>

こっそり 作品名：NP

「焼き場からでてきたとき、拾うふりしてこっそり盗んできたの。焼きたてのほやほやを。」(p.120)

Quando los sacaron del horno crematorio, fingí que iba a ponerlos en una hornacina y los robé. Estaban recién incinerados, todavía calientes.(p.102) <無視>

こっそり 作品名：斜陽

こっそり相談したら(p.80)

Quando consulté a mamá(p.69) <無視>

こっそり 作品名：羊

借金取りの方はすっかりあきらめたようだという返事が来た。(p.78(下))

unas discretas consultas, realizadas por carta.(p.221) <無視>

ごっそり 作品名：NP

びんにごっそりと生けた百合をテーブルに飾りながら翠は言った。(p.170)

...dijo Sui, poniendo sobre la mesa un jarrón donde había colocado todas las flores.(p.142) <何とか>

ごっちゃ 作品名：NP

もう、ごっちゃだなあ。(p.172)

No lo comprendo.(p.143) <全体>

ごっちゃ 作品名：斜陽

畑仕事の疲れと、悲しみがごっちゃになって(p.53)

una mezcla de agotamiento u tristeza(p.48) <名>

ごつん 作品名：羊

窓ガラスにあたるたびにごつんという音がした。(p.161(下))

Quando daba en los cristales de las ventanas, repiqueteaba estrepitosamente.(p.284) <動>

ごごと 作品名：銀河

ごごと鳴る汽車のひびきと、(p.184)

Al traqueteo del tren (p.36) <名>

ことごと(コトコト) 作品名：失格

コトコト松葉杖について (p.129)

haciendo sonar sus muletas(p.120) <無視>

ごごとごとごと 作品名：銀河

ごごとごとごと汽車は・・・進みました。(p.198)

Traqueteando, el tren continuó avanzando (p.46) <動>

ごごとごとごと 作品名：銀河

ごごとごとごと、ジョパンニの乗っている小さな列車が走りつづけていたのです。(p.172)

el pequeño tren traqueteaba.(p.26) <動(オノ?)>

ごごとごとごと 作品名：銀河

ごごとごとごと、その小さなきれいな汽車は・・・走って行くのです。(p.175)

el pequeño tren continuaba su marcha (p.28) <無視>

ことごと(コトコト) 作品名：失格

松葉杖をコトコトと突きながら、(p.126)

Apoyándose en las muletas,(p.116) <無視>

ことごと(コトコト) 作品名：失格

コトコトと松葉杖の音をさせて、(p.128)

Haciendo sonar las muletas(p.119) <無視>

ことり 作品名：羊

みんな日かげにおかれたミイラみたいにことりとも音を

立てずに部屋にこもっているようだった。(p.36(下))
 todos parecían estar recliidos en sus habitaciones sin
 hacer el menor ruido, como momias guardadas en una
 pirámide.(p.190) <形 + 名>

ことり(コトリ) 作品名：幻影
 いつものように中ではコトリという物音もしなかった。
 (p.187)
 caminó cautelosamente para no ser oída.(p.185) <全体
 >

こまごま 作品名：羊
 通りの向かい側にはいるかホテルと同じ程度にわけのわ
 からないこまごまとしたビルが並んでいるのが見えた。
 (p.22(下))
 pude ver qye al otoro lado de la calle se alineaba una
 serie de edificios de oficinas tan anodimos en cada
 detalle como el propio Hotel del Delfín(p.179) <形>

こりこり 作品名：羊
 クルトンをこりこりと齧った。(p.56(下))
 masticó un pedazo de pan(p.203) <動>

こりこり 作品名：羊
 管理人は顔を天井に向けてこりこりと首筋をまわした。
 (p.112(下))
 El pastor miró al techo y giró la cabeza con un cruji d o
 de sus vértebras cervicales.(p.248) <名>

ごろごろ 作品名：台所
 いくらでもあげられる面倒を思いついては絶望してごろ
 ごろ寝ていたら(p.9)
 Enumerando todas las dificultades que se me
 ocurrían,me desanimaba y me pasaba los días sin
 hacer nada. (p.14) <何とか>

ごろごろ 作品名：坊
 ごろごろと五分ばかり動いたと思ったら、(p.25)
 Cuando, según mis cálculos, llevábamos cinco minutos
 de marcha renqueante, (p.27) <形>

ごろごろ 作品名：羅生
 (死骸は皆)口をあいたり手を延ばしたりして、ごろご
 ろ床の上にごろがっていた。(p.10)
 Unos con la boca abierta y otros con los brazos

extendidos,algunos cadáveres tirados negligentemente
 en el suelo.(p.23) <副>

ごろごろと 作品名：NP
 すぐに紙片は黒くて軽い固まりになって、ごろごろと風
 に押されて浜を転がっていった。(p.214)
 Los papeles, convertidos en jirones retorcidos y
 negruzcos, comenzaron dispersarse por la playa
 barridos por el viento.(p.179) <無視>

ごろり 作品名：坊
 ごろりところごって、(p.176)
 me tumbé cuan largo era, (p.173) <副>

ごろり 作品名：地獄
 弟子の体ははずみ食って、勢よく床を鳴らしながら、
 ごろりそこへ横倒しに倒れてしまったのでございます。
 (p.113)
 el discípulo perdió el equilibrio cayendo ruidosamente
 sobre el piso.(p.40) <無視>

ごろりと 作品名：NP
 そして私の横にごろりと寝た。(p.154)
 Se tumbó a mi lado.(p.129) <動>

ごろりと 作品名：失格
 仰向にごろりと寝ました。(p.113)
 estaba tirado en el suelo.(p.107) <動>

ころんころん 作品名：銀河
 ころんころんと水の湧くような音が(p.184)
 algo parecido al borboteo del agua hirviendo(p.36) <無
 視(borboteo は、「湧く」ではなく「沸く」という意味。)
 >

ごろんごろん 作品名：NP
 ごろんごろんと 2 つ。びっくりするほど大きいあの缶。
 (p.124)
 Dos latas enormes cayeron con un gran grito
 metálico.(p.106) <何とか>

ごろんと 作品名：台所
 ごろんと寝ころがると、(p.79)
 Al tenderme en el sofá,(p.79) <無視>

ごろんと 作品名：台所

チャターにごろんとうつぶせになって雄一はそう言った後で、(p.91)

Yuichi,tendido boca arriba en el sofá,dijo:(p.91) <無視>

こわごわ 作品名：砂

こわごわ、水甕をのぞきこむ(p.151)

miró con aprensión dentro de la tinaja(p.134) <何とか>

ごわごわ 作品名：羊

下着はごわごわとした防寒用のものにした。(p.65(下))

nos procuramos...gruesa ropa interior de lana(p.211) <形>

ごわごわ 作品名：羊

羊男のまとまった羊の毛皮はひどく汚れ、毛は油でごわごわとしていた、(p.151(下))

la piel que el hombre carnero llevaba puesta estaba horriblemente sucia,llena de grisa.(p.277) <無視>

さ

ざざざ 作品名：坊

しばらくすると井戸ばたでざざざ音がするから、(p.14)

Al rato oí un ruido de agua, "plas, plas", (p.15) <オノ>

ざざざ 作品名：NP

私は部屋にいて、歩道がざざざ洗われる音を聞いていた。(p.91)

En mi habitación, sentía rumor de la lluvia que lavaba la acera.(p.81) <無視>

ざざざ 作品名：台所

・・・、高くから細い滝がざざざ音を立てて、こけむした岩へと落ちていた。(p.132)

...y la estrecha cascada caía desde lo alto con estrépito sobre las rocas cubiertas de musgo.(p.130) <無視>

ざあっ 作品名：銀河

ジョバンニはなぜかさあっと胸が冷たくなったように思いました。(p.219)

A Giovanni le dio un vuelco el corazón.(p.68) <ミス>

ざあっ 作品名：銀河

眼の前がざあっと明るくなって、(p.172)

該当なし(p.25) <無視>

ざあっ 作品名：羅生

雨は、羅生門をつつんで、遠くから、ざあっというを集めてくる。(p.8)

La lluvia parecía recoger su impetus desde lejos,para descargarlo estrepitosamente sobre Rashomon ,como envolviendolo.(p.21) <副+比>

ざあっ 作品名：銀河

ざあっと雨のような音がして(p.202)

se oyó un sonido parecido a la lluvia (p.52) <無視>

さくさく 作品名：台所

砂が、ひんやり、さくさくしていた。(p.143)

La arena helada crujía.(p.141) <動>

ざくざく 作品名：羊

足もとで雪がざくざくと音を立てた。(p.213(下))

A mis pies crujía la nieve.(p.320) <動>

ざぐり 作品名：坊

おれの乗っていた舟は磯の砂へざぐりと、舳をつきこんで動かなくなった。(p.85)

nuestra barca tocaba ya la arena de la playa, donde hundió su proa para quedar inmóvil. (p.88) <無視>

さっ 作品名：銀河

青年はさっと顔いろが青ざめ、(p.201)

De repente, el joven palideció(p.49) <無視>

ざっ 作品名：羊

僕は洗面所でざっと顔を洗ったが、(p.105(上))

Me dirigí a los aseos,donde me lavé la cara a todo correr(p.73) <名>

さっさ 作品名：幻影

・・・身軽に立ち廻るとさっさと梯子をかけ、・・・(p.132)

Uno de ellos trepó a una silla y se deslizó por el montante de la puerta(p.134) <動>

さっさ 作品名：坊

さっさと講義をすまして控所へ帰ってきた。(p.46)

Di la clase precipitadamente y me volví a la sala de profesores. (p.51) <副>

ざっさ 作品名：坊

ざっさと出かけた。(p.53)

Y me puse rápidamente en camino. (p.57) <副>

ざっさ 作品名：坊

ざっさと学校へ帰ってきた。(p.54)

enseguida reemprendí mi marcha y me volví a la escuela. (p.59) <副>

ざっさ 作品名：坊

ざっさとでてきた。(p.109)

me fui sin más de la pensión. (p.111) <副>

ざっさ 作品名：銀河

ざっさと青じろく時々光って(p.202)

se podía ver un pálido destello.(p.50) <無視>

ざっさと 作品名：砂

ざっさと追い出してしまわなければ、(p.74)

si no le liberaban de inmediato,(p.71) <形>

ざっさと 作品名：砂

ざっさとまた元の席へと戻って行かなければならぬのだ(p.138)

debe volver de inmediato a su situación anterior.(p.125) <形>

ざっさと 作品名：砂

ざっさと部屋に引き返して来てしまった(p.41)

se dirigió rápidamente a la habitación(p.41) <副>

ざっさと 作品名：砂

いいかげんにして、ざっさと出してくれよ(p.49)

¡saque la escala! ¡pronto!(p.49) <副>

ざっさと 作品名：失格

ざっさと妻を離縁して、(p.119)

se separase enseguida de su esposa(p.111) <副>

ざっさと 作品名：斜陽

涼しくざっさと走り寄る(p.114)

volviendo a casa con prisa, tan fresca(p.94) <副>

ざっさと 作品名：斜陽

ざっさと、向こうへ行っておくれ(p.123)

¡Márchate ensaguida!(p.102) <副>

ざっさと 作品名：砂

あんまり面倒なことにならないうちに、ざっさと手離してしまっただろうが利口だろう(p.77)

lo aconsejable que para ellos sería deshacerse de él antes de que se convirtiera en un problema(p.73) <無視>

ざっさと 作品名：齒車

何か不吉な心持ちを感じ、ざっさともとの道を引き返して行った。(p.46)

Un mal presentimiento se apoderó de mi ,y decidí volver sobre mis pasos. (p.67) <無視>

ざっさと 作品名：斜陽

ざっさとアパートの廊下を先に立って歩かれた(p.76)

salió antes que yo caminando por el pasillo de los apartamentos(p.65) <無視>

ざっさと 作品名：斜陽

ざっさと家の中へはいつて(p.151)

entró a casa (p.124) <無視>

ざつと 作品名：斜陽

スプウンを横にしてざつと掬って(p.6)

introduce liera la cuchara en la sopa(p.12) <形>

ざつと 作品名：地獄

するとその夜風が又一渡り、御庭の木々の梢にざつと通う = と誰でも、思いましたろう。(p.135)

En ese momento ,como si el viento hubiese renovado su intensidad, vimos un remolino en las copas de los árboles agitados de pronto por una ráfaga o un ruido extraño.(p.54) <全体>

ざつと 作品名：斜陽

ざつと、お顔の色が変わったけれども(p.129)

su color varió bruscamente(p.107) <副>

ざつぱり 作品名：羊

「長く泊まるにはこれくらい小さくてざつぱりとしたホ

テルの方がいいのよ」(p.22(下))

Para una larga estancia, no hay nada como un hotelito cómodo, al estirado de éste.(p.179) <形>

さっぱり 作品名：羊

さっぱりとした気持ちの良い味のワインだった(p.38(下))

El vino...estaba fresco y pasaba lamar de bien(p.191) <形>

さっぱり 作品名：NP

「ぐちゃぐちゃで、頭も少し混乱していて、何が正しいのか悪いのかさっぱりわからなかった。」(p.151)

Estaba hecha un lío, con la cabeza confusa y no tenía la mínima noción del bien y del mal.(p.127) <形+名>

さっぱり 作品名：砂

さっぱりわけが分からんね(p.41)

de verdad no entiendo nada(p.41) <副>

さっぱり 作品名：砂

さっぱり分かりゃしない(p.76)

no sé realmente en qué está pensando(p.72) <無視>

さっぱり 作品名：坊

どうしていいかさっぱりわからない。(p.64)

no tenía ni idea de qué rumbo tomar. (p.68) <無視>

さっぱり 作品名：羊

たぶん君には何のことだかさっぱりわからないだろうな。(p.127(上))

tal vez no te enteres de qué va la cosa.(p.88) <無視>

ざぶざぶ 作品名：坊

おれは海の中で手をざぶざぶと洗って、(p.75)

Yo metí las manos en el mar para lavarlas un poco (p.79) <ミス>

ざぶり 作品名：坊

ざぶりと飛びこんで、(p.26)

me zambullí en él sin más dilación, (p.28) <何とか>

ざぶり 作品名：地獄

(水を)ざぶりとあの男の顔へ浴びせかけました。(p.112)

Le arrojé entonces al rostro el agua(p.40) <無視>

さめざめ 作品名：銀河

さめざめと光りながら(p.201)

brillando tristemente(p.49) <副>

さやさや 作品名：銀河

さやさや風にゆらぎ(p.204)

ondeaban y susurraban al viento.(p.53) <オノ>

さらさら 作品名：NP

さらさらいう髪音。(p.181)

El frufrú de su cabello.(p.149) <オノ>

さらさら 作品名：砂

細やかな砂がさらさらと流れ落ち(p.48)

la arena resbaló suavemente (p.48) <何とか>

さらさら 作品名：砂

つもった砂がさらさらと流れ落ちた(p.44)

la arena que se había depositado cayó susurrando(p.45) <動>

さらさら 作品名：羊

庭の樹木が夕暮れ近くの風に葉をさらさらとすりあわせていた。(p.193(上))

Murmurabala albodea del jardín al rozarse sus innumerables hojas ,movidas por el viento del crepúsculo.(p.134) <動>

さらさら 作品名：NP

髪をさらさらいわせたり、大きな口で笑ったり・・・(p.102)

Su cabello crujía con un frufrú.(p.89) <動+名+オノ>

さらさら 作品名：砂

足元の砂がさらさらと流れだした(p.19)

sintió que la arena se deslizaba como un susurro bajo sus pies(p.24) <比>

さらさら 作品名：砂

軒や壁の隙間から、さらさらと灰色の血をこぼしはじめる(p.51)

una sangre gris goteaba susurrante por la nueva grieta abierta en el tejado y la pared(p.50) <副>

さらさら 作品名：台所

肩にかかる髪がさらさら揺れた。(p.60)

El cabello que caía sobre su hombro ondeaba.(p.62) <無視>

ざらざら 作品名：坊

ざらざらして蚤のようでもないから、(p.55)

Algo como bichos muy ágiles que no parecían piojos.
(p.60) <ミス>

ざらざら 作品名：坊

おまけに砂でざらざらしている。(p.45)

para remate, asqueroso de polvo y arenilla; (p.50) <何とか>

ざらざら 作品名：幻影

・・・手に触れるものが何となく埃っぽくざらざらして
いて、部屋全体が黴臭い。(p.133)

estaba polvorienta (p.136) <形>

ざらざら 作品名：地獄

(良秀は)細い鉄の鎖をざらざらと手繰りながら、(p.113)

Yosihide extrajo de no se sabe donde una fina cadena
de hierro,y haciendola sonar,(p.40) <動+置き換え>

ざらざら 作品名：砂

熱くほてった、ざらざらのまぶたから(p.44)

de susu párpados afiebrados (p.45) <無視>

ざらざら 作品名：坊

するとざらざらと当たったものが、(p.55)

aquella plaga (p.60) <無視>

さらさら(サラサラ) 作品名：幻影

・・・まわりの部分が割れるとサラサラと床に山を作っ
てこぼれ落ちた。(p.16)

該当箇所なし(p.17) <無視>

ざらざら(ザラザラ) 作品名：幻影

・・・手に触れるものは何でもザラザラしていて気が
悪い。(p.22)

todo cuanto había sobre el escritorio quedó
rápidamente cubierto de polvo y parecía
arenoso(p.27) <形>

ざらざら(ザラザラ) 作品名：幻影

・・・土ばかりでザラザラになった机の上の、・・・(p.193)

sobre la mesa polvorienta(p.193) <形>

さらさらさら 作品名：羊

さらさらさら。「他には？」(p.227(上))

¿Qué más?(p.157) <無視>

さらさらさらさら 作品名：銀河

すすきが、もうまるでいちめん、風にさらさらさらさら、
ゆれてうごいて、(p.174)

estaba cubierta de cañizos que susurraban y
balanceaban con el viento(p.27) <オノ>

ざらざらした 作品名：NP

濃い潮の香り、ざらざらした砂の感触。(p.211)

El intenso aroma del mar y el tacto rugoso de la
arena.(p.177) <形>

さらりさらり 作品名：坊

四尺あまりの半切れがさらりさらりと鳴って、(p.121)

El metro largo de papel que sostenían mis manos inició
un alegre tableteo al viento (p.121) <ミス>

さらりと 作品名：台所

満月だった。雲にかくれ、さらりとまた姿を現す。(p.130)

Había luna llena.Se escondía y volvía a
aparecer.(p.128) <無視>

さらりと 作品名：NP

普通の言い方で、さらりと。(p.98)

Su tono de era el de estar diciendo una cosa
intrascendente,(p.86) <名+形>

ざわざわ 作品名：銀河

またすすきがざわざわ鳴って、とうとうすっかり見えな
くなくなりました。(p.178)

se perdió de vista entre las susurrantes
hierbas.(p.30) <オノ>

ざわざわ 作品名：銀河

さまざまの楽の音や草花の匂のようなもの口笛や人々の
ざわざわ云う声やらを聞きました。(p.211)

comenzaron a oír el sonido de diversos instrumentos,
al que se mezclaba el perfume de las flores silvestres y
las voces y canciones lejanas de mucha gente.(p.59) <
無視>

ざわざわ 作品名：銀河

汽車の中がまるでざわざわしました。(p.214)

En los vagones se sintió una gran agitación.(p.61) <名>

>

さんさん 作品名：銀河

たくさんのくるみの木が葉をさんさんと光らして(p.215)

un gran número de nogales, cuyas hojas brillaban(p.62) <無視>

さんさんと 作品名：台所

さんさんと晴れて日陰のない冬の真昼の街を急いで歩いた。(p.115)

Caminé deprisa por la calle de aquel mediodía soleado, sin sombra alguna, de invierno.(p.113) <無視>

し

じいっと 作品名：NP

穴のあくほど、長い間じいっと見つめた。(p.161)

Mantuvo la vista clavada en ella durante unos instantes.(p.135) <名>

しいん 作品名：銀河

いつでも家中まだしいんとしているからな。(p.164)

a esa hora siempre la casa está en silencio.(p.19) <副>

しいん 作品名：銀河

家の中はしいんとして(p.168)

la casa estaba en completo silencio.(p.22) <名>

しいん 作品名：銀河

車の中はしいんとなりました。(p.203)

El vagón quedó en completo silencio.(p.53) <名>

しいん 作品名：銀河

それからしばらくしいんしました。(p.203)

se hizo un breve silencio. (p.52) <名>

しくしく 作品名：地獄

(娘は)よく袷の袖を噛んで、しくしく泣いておりました。(p.105)

se la veía llorar, conteniendo los sollozos con la manga del kimono.(p.35) <動>

しくしく 作品名：銀河

しくしく泣いてしまいました。(p.194)

se puso a llorar en silencio.(p.44) <副>

じくじく 作品名：砂

じくじく粘りつくようなふとんから(p.80)

en el colchón húmedo y pegajoso de sudor(p.77) <形>

しげしげ 作品名：銀河

しげしげジョバンニを見ていましたが(p.221)

le observó fijamente.(p.69) <副>

じたばた 作品名：砂

いまさら、じたばたしてもはじまるまい(p.73)

de nada le serviría preocuparse por eso(p.70) <何とか>

>

しっ 作品名：砂

しっ、早く伏せろ！(p.168)

¡ Al suelo , rápido ! (p.150) <無視>

じっ 作品名：幻影

ボクの顔をじっと見ている。(p.172)

Me mira... Mira mi cara...(p.173) <何とか>

じっ 作品名：坊

でてくるのをじっとして待ってるのはなおつらい。(p.207)

Pero fue aún más duro estar aguardando en plan de alerta a que saliera. (p.203) <何とか>

じっ 作品名：幻影

・・・一時もじっとしておられない子供でございましたから、・・・(p.115)

él siempre había sido un niño inquieto.(p.120) <形>

じっ 作品名：幻影

・・・よね子の手元をじっと覗きこんでいるのである。(p.140)

advirtió la mirada fija de la mujer(p.143) <形>

じっ 作品名：幻影

・・・割れ目をつくっているのをじっとみつめていた。(p.15)

Lo miró con atención(p.17) <副>

じっ 作品名：幻影

女は旅行鞆の中でじっとしている子供を・・・(p.14)
el cuerpecillo envuelto en la manta(p.16) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・都電の停留所の方へとゆれて行くのをじっと見送っていた。(p.70)
Miró cómo la figurilla saltaba bajo la lluvia hasta llegar a la parada del tranvía(p.78) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・燃えるような、それでいて哀愁をおびたあのまな差しで私をじっと見つめたのだった。(p.72)
André Dore me miró.(p.80) <無視>

じっ 作品名：幻影

いつ来るかも分らない相手を、じっと不安のうちに待っていることは耐え難いことであった。(p.77)
該当箇所なし(p.84) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・自分の部屋にじっとしていた方が、まだまだとということに気がついたのである。(p.108)
parecía mejor quedarse en la celdita de hormigón que era su cuarto(p.114) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・その生徒の名前を口の中で繰り返し、じっとしていた。(p.110)
repetía una y otra vez su nombre hasta que recuperaba su imagen como una burbuja de gas atrapada en lo profundo de un pantano(p.115) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・よね子の目をじっと見たまま答えた。(p.180)
miró a Yoneko a los ojos(p.179) <無視>

じっ 作品名：幻影

・・・じっと立っていたのだった。(p.184)
esperó unos minutos(p.182) <無視>

じっ 作品名：坊

じっとしてただ見ていた。(p.165)

no podía hacer otra cosa que mirar con los ojos bien abiertos. (p.161) <無視>

しっ、しっ(シツ、シツ) 作品名：幻影

・・・”シツ、シツ”と声をたてて追い払った。(p.53)
La sombra grande siseaba a la pequeña(p.59) <動>

しっかり 作品名：銀河

僕たちしっかりやろうねえ。(p.216)
vamos a ser fuertes, ¿verdad?(p.63) <何とか>

しっかり 作品名：斜陽

とにかくまだ意識はしっかりしているし(p.129)
Como mamá tenía la mente lúcida(p.106) <形>

しっかり 作品名：銀河

男の子の手をしっかりひいて(p.194)
le tomaba la mano con fuerza.(p.43) <副>

しっかり 作品名：銀河

腰掛にしっかりしがみついていた。(p.207)
se sujetaban con fuerza a los asientos.(p.56) <副>

しっかり 作品名：齒車

努めてしっかりと歩いて行った。(p.58)
traté de avanzar con firmeza(p.75) <副>

しっかり 作品名：幻影

・・・牛乳瓶が一本しっかりと握りしめられていた。(p.64)
Llevaba una botella de leche(p.72) <無視>

しっかり 作品名：砂

採集箱をしっかりと片手にひきよせた(p.100)
aferró con una mano la caja de insectos(p.94) <無視>

しっくり 作品名：羊

アルコールが入ると自分がまともで感じの良い人間であるという考え方にしっくり同化できそうな気がしたからだ。(p.77(上))

Porque le parecía que ,mientras el alcohol entrase en su cuerpo ,podría encarnar a las mil maravillas el ideal de persona recta y sensible.(p.51) <何とか>

しっくり 作品名：NP

それがばれてもめたとき、初めて祖父母と本当にしっく

りいったという気がしたな。(p.27)

Cuando lo descubrieron y tuve problemas, me sentí unido a mis abelos por primera vez.(p.30) <形>

しっくり 作品名：羊

僕が僕だというのも、どうもしっくり来ない。(p.222(上))
Ni tampoco tengo nada claro que yo sea yo.(p.153) <全体>

しっくり 作品名：羊

朝の光は心地良く、チャーターはしっくりと体になじんでいた。(p.143(下))
el sofá se amoldaba a mi cuerpo como un guante ala mano(p.272) <動>

じっと 作品名：銀河

みんなもじっと河を見ていました。(p.220)
Todos miraban el agua sin decir palabra.(p.69) <何とか>

じっと 作品名：砂

じっと呼吸をととのえる(p.91)
él trató de calmarse,conteniendo la respiración(p.86) <何とか>

じっと 作品名：銀河

じっとそらを見ていたのです。(p.188)
los ojos fijos en el cielo.(p.38) <形>

じっと 作品名：歯車

彼は焦茶色の鳥打ち帽をかぶり、妙にじっと目を据えたまま、ハンドルの上へ身をかがめていた。(p.74)
Llevaba un sombrero de color sepia oscuro y ,con la mirada extrañamente fija ,veía inclinado sobre el manubrio.(p.85) <形>

じっと 作品名：斜陽

しばらくじっとしていらっしゃったが(p.80)
se quedó inmóvil durante unos momentos(p.69) <形>

じっと 作品名：斜陽

私の働きぶりを、ただ、じっと見ていらっしゃる(p.46)
se queda quieta observando cómo trabajo(p.43) <形+動>

じっと 作品名：砂

じっと、胸のあたりに目をすえたまま(p.211)
fijó su vista a la altura del pecho del hombre(p.188) <動>

じっと 作品名：砂

男は、しめ上げられたように、じっとつ立ったまま、(p.217)
el hombre permaneció inmóvil como si lo estuvieran ahorcando(p.192) <動>

じっと 作品名：歯車

じっと運転手の背中を眺めていた。(p.45)
Concentrado la mirada en la espalda del chofer.(p.67) <動>

じっと 作品名：斜陽

私の畑仕事をじっと見ていらして(p.46)
mientras me veía trabajar(p.43) <動>

じっと 作品名：地獄

じっとそこに立ちすくんでおりました。(p.124)
por un largo rato permanecí de pie,(p.47) <動>

じっと 作品名：羊

羊博士はしばらくのあいだじっと口を閉じていた。(p.63(下))
El profesor Ovino permaneció un rato callado.(p.209) <動>

じっと 作品名：銀河

右手に持った時計をじっと見つめていたのです。(p.220)
el reloj en la mano, no apartaba la vista del río.(p.69) <動(日本文では時計を見ていたとなっているが、西語文では時計を持って川をみていると書かれている。)>

じっと 作品名：羅生

老婆は、見開いていた目をいっそう大きくして、じっと下人の顔を見守った。(p.14)
La vieja abrió aún más los ojos y clavó su mirada en el hombre;(p.24) <比>

じっと 作品名：NP

じっと見た。(p.64)

Me quedé mirándola fijamente.(p.61) <副>

じっと 作品名：NP

じっと見ていると自分が流れていくように思えた。
(p.131)

Al mirar el río en silencio sentí que también yo estaba
fluyendo.(p.111) <副>

じっと 作品名：銀河

また川下の銀河のいっばいのうつた方へじっと眼を送
りました。(p.222)

esto miraba fijamente el lugar, río abajo, donde se
reflejaba la Vía Láctea.(p.70) <副>

じっと 作品名：砂

じっと自分を見下ろしていうような気がした(p.154)
sintió como si sus ojos observaran fijamente a la
pareja(p.137) <副>

じっと 作品名：歯車

彼はじっと僕の顔を見つめた。(p.51)
Me miró fijamente.(p.71) <副>

じっと 作品名：斜陽

私の手もとをじっと見つめて(p.124)
dijo sin apartar la vista de las agujas(p.103) <副>

じっと 作品名：羊

じっと眺めていると目が痛くなっていくほどだった。
(p.84(下))
Los ojos llegaban a dolernos , de tanto mirar.(p.226) <
副>

じっと 作品名：藪

(妻は)じっと膝へ目をやっている。(p.177)
se miraba las rodillas con obstinación.(p.18) <副>

じっと 作品名：藪

盗人はじっと妻を見た儘、殺すとも殺さぬとも返事をし
ない。(p.178)
El la miró fijamente y no contestó.(p.19) <副>

じっと 作品名：藪

俺は縄を解きながら、じっと耳を澄ませて見た。(p.179)
Mientras me quitaba las sogas escuché con

atención.(p.19) <副>

じっと 作品名：NP

私がじっと見ていると、・・・(p.113)

Cuando se dio cuenta de que me había quedado
mirándomlo, dijo.(p.98) <無視>

じっと 作品名：NP

あなたをじっと観察していたら、・・・(p.199)

...si hubiera observado tus imperfecciones,...(p.165) <
無視>

じっと 作品名：銀河

先生は意外なようにしばらくじっとカムパネルラを見て
いましたが(p.158)

Extrañado, el maestro observó a Campanella(p.14) <
無視>

じっと 作品名：銀河

じっと川の微光を受けているのです。(p.201)
該当なし(p.49) <無視>

じっと 作品名：砂

男が三人、じっと地面にしゃがみこんで(p.20)
sentados en el suelo,tres hombres parecían
esperar(p.25) <無視>

じっと 作品名：砂

叫びだしそうになるのを、じっとこらえて(p.48)
conteniendo el deseo de gritar (p.48) <無視>

じっと 作品名：砂

いつの間にやら女が戸口に立って、じっとこちらをうか
がっているのだった(p.69)
la mujer que , de pie en la entrada de la casa , lo
miraba(p.65) <無視>

じっと 作品名：歯車

じっと鏡に僕の顔を映した。(p.36)
me miré en el espejo.(p.61) <無視>

じっと 作品名：歯車

じっと夜のあけるのを待つことにした。(p.54)
decidí esperar que amaneciera,(p.73) <無視>

じっと 作品名：歯車

三助₁ばかりだった後、僕は僕の二階で仰向けになり、じっと目をつぶったまま、烈しい頭痛をこらえていた。(p.74)

Treinta minutos después me encontraba en el primer piso de mi casa echado de espaldas y con los ojos cerrados, resistiendo el terrible dolor de cabeza. (p.85) <無視>

じっと 作品名：斜陽

じっと寝ていらっしやるの、おいやでしょう(p.112)
¿No te desagrada estar acostada en una habitación oscura?(p.93) <無視>

じっと 作品名：斜陽

動かないで、じっと私を見つめていた(p.115)
sin moverse, que me miraba(p.96) <無視>

じっと 作品名：地獄

良秀は、やや腹立たしそうな容子でじっと目を伏せながら、(p.125)
con la cabeza inclinada y gesto hosco(p.48) <無視>

じっと 作品名：地獄

(大殿様は)眼も離さずにじっと車のほうを御見つめになっていらっしやいます。(p.134)
No apartaba la vista del carruaje.(p.53) <無視>

しっとり 作品名：幻影

瓶は(中略)しっとりと濡れていた。(p.64)
se había formado un ligero rocío en el vidrio(p.72) <形>

しっとり 作品名：羊

道を埋め尽くした落葉は二日前の雨を吸い込んだまましっとりと湿っていた。(p.123(下))
Las hojas caídas que sepultaban el camino estaban empapadas de humedad por la lluvia de la víspera.(p.257) <形>

しっとり 作品名：羊

朝の光の中で、あらゆるものがしっとりと濡れて輝いていた。(p.142(下))
Bajo la luz matinal, todo centelleaba húmedo por a lluvia.(p.271) <形>

しっとり 作品名：斜陽

みどり色の霧でしっとり濡れていた(p.109)
Las losas de la fachada setaban empapadas de la niebla verdosa(p.91) <形+何とか>

じっとり 作品名：幻影

脂汗のじっとりと浮いた額を手の甲で拭いながら、・・・(p.35)
secándose el sudor de la frente con el dorso de una mano...(p.42) <無視>

しとしと 作品名：NP

雨はしとしとと小降りになっていた。(p.96)
Llovía poco en aquel momento.(p.85) <無視>

しとしと 作品名：NP

窓の外から、しとしとと暗い音が聞こえてきた。(p.186)
A través de la ventana llegaba el rumor triste de la lluvia.(p.154) <無視>

しとしと 作品名：台所

しとしと、あたたかい雨が街を包む煙った春の夜を、(p.12)
en la noche brumosa de primavera mientras una lluvia tibia envolvía las calles.(p.17) <無視>

しぶしぶ 作品名：NP

雨で面倒くさく、しぶしぶノートをまとめていてふいに思いついた。(p.91)
Era fastidioso hacerlo a causa de la lluvia.(p.81) <形>

しみじみ 作品名：斜陽

しみじみ、いいお母さまだと思うと同時に(p.58)
Mientras pensaba emocionada en la buena madre que tenía(p.52) <形>

じめじめ 作品名：斜陽

じめじめして蒸し暑い日が続いた(p.116)
siguieron los días calurosos y húmedos(p.97) <形>

じゃぶ 作品名：砂

ジャブ、ジャブ、ジャブ、ジャブ 何の音?(p.71)
zyabu, zyabu,zyabu,zyabu, ¿Que ruido es ése?(p.69) <オノ(イタリック)で赴 L されており、特に翻訳されていない

い) >

しゃん 作品名：羊

彼女はスプーン・スプーンをテーブルに置くと、しゃんと背筋をと伸ばし、・・・(p.60(上))

Dejó sobre la mesa la cuchara, enderezó la espina dorsal.(p.41) <形>

しゃん 作品名：羊

体はしゃんとしている。(p.52(下))

su cuerpo parecía firme y vigoroso(p.201) <形>

しゃん 作品名：羊

運転手がしゃんとした姿勢で立っていた。(p.105(上))

esperaba en posición de firmes su conductor(p.73) <名>

しゃんと 作品名：斜陽

お顔をしゃんと挙げて(p.6)

con el rostro levantado(p.12) <形>

じゅ(ジュ) 作品名：坊

吸いかけた巻煙草を海の中へたたきこんだら、ジュと音がして (p.80)

Y tiré por la borda la colilla de mi cigarrillo. Al tocar el mar chisporroteó apagándose, (p.84) <動>

しゅうしゅう 作品名：台所

しゅうしゅう音を立てて、闇に消えていく。(p.69)

..desaparecía con un silbido en la oscuridad.(p.69) <名>

しゅくしゅく(肅々) 作品名：坊

師範学校のほうは肅々として行進をはじめた。(p.174)

Entonces los alumnos de la escuela normal iniciaron ceremoniosamente su avance. (p.172) <副>

しゅつ 作品名：坊

黒い団子が、しゅつと秋の空を射ぬくようにあがると、(p.182)

una esfera negra disparada contra el cielo de otoño surcó el aire (p.179) <名+動>

しゅるしゅるしゅ 作品名：斜陽

ギロチン、ギロチン、シュルシュルシュ(p.138)

¡Guillotina, guillotina, shuru-shuru-shu!(p.115) <オノ>

しゅん(シュン) 作品名：幻影

・・・お湯がシュン、シュンと沸いていた。(p.122)

tetera a punto de quedar sin agua y quemarse(p.127) <全体>

しょぼくれ 作品名：NP

彼は言ったが、しょぼくれている。(p.203)

comentó él, y, sin embargo, parecía estar terriblemente triste.(p.170) <形>

じょろじょろ 作品名：台所

あんまりびっくりして、手に持っていた紅茶のカップを傾けて、お皿にじょろじょろこぼしてしまったくらいだ。(p.35)

Me sobresalté tanto que ladeé la taza que tenía en la mano y acabé vertiendo mucho té en el plato.(p.38) <無視>

しょんぼり 作品名：銀河

しょんぼりひとりの子供が立って(p.207)

estaba de pie un niño pequeño de aspecto triste(p.56) <名>

しらしら 作品名：銀河

天の川がしらしらと南から北へと亘っているのが見え (p.170)

la Vía Láctea, que se extendía blanquecina de sur a norte(p.24) <形>

じりじり 作品名：砂

穴の底をじりじりと焦がしはじめていた(p.46)

lentamente empezaba a calentar el fondo de pozo(p.47) <何とか>

じりじり 作品名：齒車

妻の母の家を後ろにした後、僕は枝一つ動かさない松林の中を歩きながら、じりじり憂鬱になって行った。(p.73)

Luego de despedirme, camine por el bosque de pinos donde ni una rama se movía, y paulatinamente fui presa de un estado de ánimo depresivo.(p.84) <副>

じりじり 作品名：NP

入り組んだ地図に沿って、じりじりと暑い路地を歩いていった。(p.99)

Fui andando por callejones calurosos siguiendo el complicado mapa.(p.87) <無視>

じりじり 作品名：NP

私はじりじりと体を起こした。(p.180)

Me incorporé despacio.(p.148) <無視>

じりじり 作品名：台所

闇の中、切り立った崖つづちをじりじり歩き、(p.83)

Suspiro con alivio al salir a la carretera nacional después de andar por el borde de un precipicio en la oscuridad.(p.84) <無視>

じりじり(ジリジリ) 作品名：台所

、しっかり目覚ましをかけておいたのがジリジリうるさいなあ・・・と(p.92)

Por eso creí que sonaba el despertador,pero cuando alargué la mano...(p.93) <無視>

じろじろ 作品名：NP

道行く人がみんなじろじろ見た。(p.93)

Los transeúntes nos miraban fijamente.(p.83) <ミス>

じろじろ 作品名：地獄

猫のような鳥を、気味悪そうにじろじろ眺めますと、(p.116)

el discípulo observaba con temor el ave de orejas de gato,(p.42) <全体>

じろじろ 作品名：地獄

(僧都様は)良秀のほうをじろじろ睨めつけていらしたのが、(p.138)

el sozu ,que habitualmente menospreciaba a Yoshihide ,(p.56) <全体>

じろじろ 作品名：羊

まわりの車のドライバーやバスの乗客は、我々の乗った化け物のような車をじろじろと眺めた。(p.198(上))

Los conductores de otros automóviles ,así como los pasajeros de los autobuses,contemplaban fijamente aquel vehículo fantasmal en que viajábamos.(p.137) <動+副>

じろじろ 作品名：幻影

人の部屋をあまりじろじろ見廻しては悪いと思い、・・・(p.123)

該当箇所なし(p.127,128) <無視>

じろじろ 作品名：斜陽

私の姿を、いやにじろじろ見るようになった(p.42)

no me sacaban la mirada aprensiva de encima(p.40) <名>

しわくちゃ 作品名：坊

清はしわくちゃだらけのばあさんだが、(p.77)

Kiyo era una viejecita surcada de arrugas, (p.81) <形>

じわじわ 作品名：砂

じわじわと滲みはじめた汗さえ、(p.170)

a pesar del sudor que le empezaba a correr en forma lenta y continua(p.152) <副>

じわじわと 作品名：NP

ずっと黙って車を走らせているだけでも、隣にいたらその内面の暗黒がじわじわと伝わってきた。(p.209)

En el coche, pese a haberse limitado a conducir en silencio, Otohiko me había ido transmitiendo su tristeza, lenta y inexorablemente.(p.175) <副>

しん 作品名：NP

・・部屋も外もしんとしていた。(p.36)

Sí, aquella mañana todo estaba tan silencioso, tanto dentro como fuera de la casa,(p.37) <形>

しん 作品名：羊

小鳥が飛び去ってしまったあとのしんとした椎の木みた이었다。(p.142(下))

Algo así como lo que debía de sentir aquel roble cuando se quedó en calma porque los pájaros se macharon volando.(p.271) <形>

しん 作品名：藪

一層あたりがしんとしてしまった。(p.179)

todo a mi alrededor se volvía silencioso y solemne.(p.19) <形>

しん 作品名：羊

映画館はいやにしんとしていた。(p.14(下))

La sala de cine estaba sumida en un silencio ominoso.(p.173) <形 + 名>

しん 作品名：羊

いるかホテルのロビーはいつものようにしんとしていた、(p.67(下))

El salón del Hotel del Delfín estaba, como siempre, sumido en el silencio.(p.212) <形 + 名>

しん 作品名：羊

隣の仕事場もしんとしていた。(p.101(上))

Las mesas de trabajo del resto del personal también permanecían en reposo.(p.70) <動>

しん 作品名：羊

玄関はとしていた。必要以上にとしていた。(p.27(上))

El recibidor estaba sumido en el silencio.Un silencio excesivo, de tan intenso. (p.18) <名>

しん 作品名：羊

そして何もかもがしんとした。(p.115(上))

Luego,todo qhedó en silencio.(p.81) <名>

しん 作品名：羊

家の中はあいかわらずしんとしていた。(p.193(上))

El interior de la casa seguía sumido en el silencio.(p.134) <名>

しん 作品名：羊

戸口から眺める無人の部屋は不自然なくらいとしていた。(p.234(上))

Mirando el interior deshabitado del apartamento desde la puerta, me impresionó por su raro silencio.(p.161) <名>

しん 作品名：羊

空気はしんと澄み切っていた。(p.84(下))

El aire era todo silencio y claridad.(p.226) <名 + 形>

しんしん 作品名：銀河

眼がしんしんと痛むのです。(p.216)

le dolieron los ojos,(p.63) <無視>

じんじん 作品名：台所

濡れた足に風がじんじんしみた頃、部屋の明かりが突然

ぱつとついて、(p.134)

Cuando el viento se infiltraba ya en mis pies mojados,se encendió la luz.(p.133) <無視>

しんと 作品名：NP

「うん、しんとしてる。」(p.216)

Sí, todo está muy tranquilo.(p.181) <形>

しんと 作品名：台所

借りた寝まきに着替えて、しんとした部屋に出て行った。ぺたぺたとはだして台所をもう一度見に行く。(p.24)

Me puse el pijama que me había dejado y Salí al salón silencioso.Descalza,fui a ver la cocina de nuevo.(p.27) <形>

しんと 作品名：台所

しんと暗く、なにも息づいていない。(p.32)

Silenciosa y oscura,no hay vida.(p.35) <形>

しんと 作品名：台所

透明にしんとした時間が、(p.41)

El tiempo,transparente y silencioso,(p.43) <形>

しんと 作品名：台所

天を、星が動いてゆく音が耳の奥に聞こえてきそうなくらいに、しんとしている孤独な夜中だ。(p.57)

Era una noche tan silenciosa y solitaria que parecía que el ruido de las estrellas al deslizarse por el cielo llegaba hasta el fondo del oído.(p.58) <形>

しんと 作品名：台所

部屋は、秒を刻む時間を感じさせないほどにしんとして、(p.78)

La habitación estaba tan silenciosa que no se sentía el tiempo que marcaban los segundos.(p.78) <形>

しんと 作品名：台所

・・・、しんと光る台所にふとんを敷いた。(p.8)

expendí el futon en la cocina,que brillaba en silencio.(p.13) <副>

しんと 作品名：台所

その中で動いている人々も、上下するエレベーターも、みんなしんと輝いて(p.47)

La gente que movía dentro,y los ascensores que subían

y bajaban, brillaban en silencio..(p.49) <副>

しんと 作品名：台所

しんと、私は思っていた。(p.143)

..pensé en silencio.(p.142) <副>

しんと 作品名：台所

小さな蛍光灯に照らされて、しんと出番を待つ食器類、光るグラス。ちょっと見ると全くバラバラでも、妙に品のいいものばかりだった。(p.15)

El pequeño fluorescente iluminaba los vasos de cristal brillantes y los cacharros que aguardaban silenciosamente su turno. Estos objetos, a pesar de no ser uniformes, tenían una elegancia extraña.(p.19) <副>

しんと 作品名：台所

しんと静まるその後で、(p.130)

Luego, quedaba el silencio.(p.128) <名>

しんと 作品名：斜陽

私はかえって、しんと落ちついて言った(p.121)

dije con una inesperada calma(p.100) <名+何とか>

じんと 作品名：台所

恥ずかしさより、なつかしさにじんときた。(p.115)

Sentí más nostalgia que vergüenza.(p.114) <無視>

しんと(森と) 作品名：地獄

あたりはどこもしん森と静まり返って、(p.122)

hallé insólito este ruido repentino en medio de aquella quietud.(p.46) <名>

しんとした 作品名：台所

彼女には、そういうことが持つ、しんとした淋しさがしみ込んでいた。(p.28)

Llevaba todo esto consigo y una soledad silenciosa la impregnaba.(p.31) <形>

しんみり 作品名：失格

しんみりした口調で(p.130)

en un tono apacible que parecía lleno de compasión(p.121) <形>

しんみり 作品名：斜陽

しんみりおっしゃった(p.38)

añadió conmovida(p.36) <形>

しんみり 作品名：斜陽

首を振ってしんみり言い(p.44)

sacudió la cabeza conmovido(p.41) <形>

しんみり 作品名：斜陽

なぜだか、しんみりした口調で言った(p.141)

dijo en tono afectuoso(p.117) <副>

す

すうっ 作品名：銀河

すうっと、灰いろに光って蒸発してしまうのです。(p.200)

brilló de color gris por un instante y se evaporó(p.48) <無視>

すうっ 作品名：銀河

銀いろの霧が川下の方からすうっと流れて来て(p.215)

una niebla plateaba que subía de río abajo(p.62) <無視>

すうっ 作品名：銀河

そのときすうっと霧がはれかかりました。(p.215)

La niebla se fue disipando (p.62) <無視>

すーっと 作品名：NP

私を降ろすと、じゃあね、と言ってすーっと行ってしまった。(p.82)

Cuando me apeé dijo escuetamente:<>, y se fue.(p.73) <無視>

ずうっと 作品名：NP

ずうっとしてるのね。(p.134)

Hace mucho tiempo que traduces.(p.114) <全体>

ずうっと 作品名：NP

窓の外は青く染め上げられた木綿の空がずうっと続いていた。(p.112)

Al otro lado de la ventana, el cielo algodonoso teñido de azul se extendía hasta el infinito.(p.97) <動>

ずうっと 作品名：NP

ずうっと続く街灯もいつもよりかなり高く、空に近く見えたし、(p.125)

Las luces de los faroles que se perdían en la distancia se veían más altas y cercanas al cielo,...(p.106) <動>

ずうっと 作品名：NP

ずうっと、永遠に嵐が続くようなるささだった。(p.55)
El estruendo era tan intenso que parecía que la tormenta iba a durar eternamente.(p.53) <無視>

ずーっと 作品名：NP

「ずーっと飲んでる。」(p.141)

He estado bebiendo toda la noche.(p.120) <副>

ずきっ 作品名：銀河

まっすぐにずきっと立ったのです。(p.172)

該当なし(p.25) <無視>

ずきっ 作品名：銀河

ずきっとした金いろの円光をいただいて、(p.177)

rodeada de un halo dorado(p.30) <無視>

ずしん 作品名：NP

後頭部にずしん、と何かが当たった。(p.92)

Fue en aquel instante cuando oí unas pisadas enérgicas a mis espaldas y sentí que algo me golpeaba en la nuca.(p.82) <無視>

ずずっと 作品名：台所

ずずっと音がして、熱い痛みが右の腕に走った。(p.133)

Oí el frasss de un roce y sentí un dolor que me abrasaba el brazo derecho.(p.132) <オノ>

ずたずた 作品名：坊

ずたずた帰ってきてやった。(p.48)

me volví como un rayo a la pensión.(p.52) <副>

ずたずた 作品名：坊

ずたずたやってきた。(p.109)

Y nos echamos a caminar a paso vivo.(p.112) <副>

ずたずた 作品名：坊

二人してずたずたあるきでした。(p.211)

“Puercoespín” y yo echamos a andar deprisa.(p.207) <副>

ずたずた 作品名：坊

ずたずた急ぎ足にやってきたが、(p.53)

Venía acercándose en mi dirección con paso apresurado.(p.57) <無視>

ずたずた 作品名：羊

そんな風にして囚人の睡眠をずたずたに分断してしまうんだ。(p.185(上))

lo deslumbran con focos...,ultizan todos los recursos en fin ,para que no duerma (p.127) <動>

ずたずた 作品名：歯車

僕はこういう一行に Black and White というウスキイの名を思い出し、ずたずたにこの手紙を破ってしまった。(p.66)

Ese párrafo me trajo el recuerdo del Black and White :rompí la carta en mil pedazos.(p.80) <副 + 比>

ずたずた 作品名：坊

紋付の一重羽織をずたずたにして、(p.187)

su haori de gala, donde ostentaba el blasón familiar, estaba hecho jirones;(p.185) <名 + 動>

ずっ 作品名：銀河

ずっとはなれました。(p.186)

se desprendió fácilmente.(p.37) <副>

ずっ 作品名：銀河

とうとうずっとはなれて、(p.190)

Finalmente se separaron,(p.40) <無視>

すっかり 作品名：坊

おれのかわりに山嵐がすっかりいってくれたようなものだ。(p.105)

se me había adelantado “Puercoespín” en decirlo por mí tal cual yo lo tenía en mi mente(p.107) <何とか>

すっかり 作品名：羊

ジェイズ・パーはすっかり変わっていた。(p.138(上))

El bar de Yei había cambiado por completo.(p.95) <形>

すっかり 作品名：砂

彼は、ニワハンミヨウに、すっかりとりこにされてしまったのである(p.13)

él quedó cautivado por el escarabajo(p.18) <動>

すっかり 作品名：砂

すっかり魅せられてしまったことだけは、もはや疑えないことだった(p.13)

el hombre quedó fascinado (p.19) <動>

すっかり 作品名：NP

旅行に行く考えに取りつかれて、すっかり忘れていた。(p.202)

Absorta en los preparativos de mi viaje lo había olvidado completamente.(p.169) <副>

すっかり 作品名：幻影

すっかり慌てている様子だ。(p.29)

¡Está completamente aterrorizada!(p.34) <副>

すっかり 作品名：歯車

轢死した彼は、汽車のために顔もすっかり肉塊になり、(p.43)

después de ser arrastrado por el tren, le había quedado la cara totalmente destrozada,(p.66) <副>

すっかり 作品名：歯車

昼間は晴れていた空もいつかもうすっかり曇っていた。(p.49)

el cielo ,despejado durante el día ,se había nublado por completo.(p.69) <副>

すっかり 作品名：羊

今は五月で、雪もすっかり溶けた。(p.129(上))

Ahora ya estamos en mayo,y la nieve se ha fundido del todo.(p.89) <副>

すっかり 作品名：羊

しかし一週間たって人々がもうすっかりあきらめた頃、・・・(p.45(下))

Sin embargo,transcurrida una semana,cuando ya se había abandonado toda esperanza,(p.196) <副>

すっかり 作品名：幻影

・・・長い黒髪がすっかり顔を覆ってしまうと、・・・(p.152) cayendo a veces hacia adelante hasta tapar su rostro(p.156) <無視>

すっかり 作品名：砂

すっかり気分を害して、口をきく気もなくなってしまった(p.64)

malhumorado , perdió todo deseo de hablarle a la mujer(p.61) <無視>

すっかり 作品名：砂

すっかり変色してしまっていた(p.158)

las tabletas descoloridas denunciaban su (p.141) <無視>

すっかり 作品名：羊

すっかりぬるくなってしまった麦茶の残りを飲んだ。(p.97(上))

se bebió el resto ,ahora ya tibio, del té.(p.67) <無視>

すっかり 作品名：羊

「・・・五年たてばいろんなことはすっかり変わっちゃうのよ」(p.152(上))

Cinco años hacen que cambien muchas cosas.(p.104) <無視>

すっかり 作品名：羊

「・・・父親は羊と関りあってからすっかり人が変わってしまったんです・・・」(p.50(下))

Mi padre no es el mismo desde que tovo aquella relación con el carnero.2(p.199) <無視>

すつきり 作品名：NP

・・・目が覚めたようなすつきりした顔で出てきたので、何だか緊張した。(p.96)

Al verla salir con el rostro fresco como si acabara de levantarse, volví a inquietarme sinsaber por qué.(p.85) <形>

すつきり 作品名：NP

「・・・すつきりするんじゃないかしら？」(p.117)

Quizá te sentirías mejor si lo hicieras.(p.101) <形>

すつきり 作品名：羊

やっとすつきりした気分になった。(p.207(上))

y me sentí limpio(p.143) <形>

すつきり 作品名：羊

職を失ってしまうとすつきりした。(p.232(上))

Al haberme librado del trabajo, me encontré muy a gusto.(p.160) <形>

ずっきり 作品名：NP

「ああ、ずっきりした。」(p.215)

Ahora me siento mucho mejor(p.180) <動>

ずっきり 作品名：NP

「・・・何かはずっきり終わったのよ・・・」(p.191)

...es que hay algo que ha terminado definitivamente.(p.158) <副>

ずっしり 作品名：砂

まぶたの裏側に、ずっしりとしたピロートの幕がたれた(p.110)

en el fondo de sus ojos cae una pesada cortina de terciopelo(p.102) <何とか>

ずっしり 作品名：NP

腕にはめるとそれはずっしり重く、黒い文字盤のガラスが寒く光った。(p.36)

Al ponérmelo, sentí su peso macizo y el cristal de la esfera de números negros brilló con un destello frío.(p.37) <形>

ずっしり 作品名：砂

空には星がずっしりとたれこめていた(p.33)

el cielo estaba cargado de estrellas(p.35) <形>

ずっしり 作品名：台所

だからこそ、こんなにも今、心がずっしり重い。(p.79)

Justamente por eso me pesaba tanto el corazón.(p.79) <副>

ずっしり 作品名：NP

口レックスのずっしり重い時計(p.12)

...un pesado Rolex.(p.17) <無視>

ずっしり 作品名：砂

シャツもズボンも、砂をふくんで、ずっしりと重かった(p.46)

tenía la camisa y los pantalones llenos de arena(p.46) <無視>

ずっしり 作品名：砂

じらす楽しみに、ずっしり重みがくわえられることになってしまった(p.95)

empezó a sentir un placer que crecía con el fastidio del otro(p.90) <無視>

ずっしりと 作品名：台所

山々の黒い影が、闇よりもずっしりと黒く街を見つめている。(p.112)

Las siluetas sombrías de las montañas contemplaban la calle, más negra que la oscuridad.(p.120) <無視>

ずっと 作品名：斜陽

ずっとお立ちになり(p.51)

se levantó(p.47) <動>

ずっと 作品名：斜陽

いつでも花の匂いがお部屋にずっと流れてきた(p.29)

el aroma de los ciruelos penetraba en las habitaciones(p.30) <動+なんとか>

ずっと 作品名：斜陽

ずっと、ふすまがあいて(p.116)

Mamá abrió la puerta corrediza(p.96) <無視>

ずっと 作品名：砂

たしかにずっと涼しくなっていた(p.33)

había realmente enfriado mucho(p.35) <形>

ずっと 作品名：砂

ずっと安上がりらしいんです(p.40)

sale mucho más barato hacerlo de esta manera(p.41) <形>

ずっと 作品名：NP

ずっと。(望んでいた。)(p.194)

Siempre lo había deseado.(p.162) <副>

ずっと 作品名：歯車

ずっと長い途を歩いてきた僕は僕の部屋へ帰る力を失い、(p.50)

Después de la caminata me flaqueaban las piernas, y al no sentirme con fuerzas para volver a mi cuarto, (p.70) <無視>

ずっと 作品名：斜陽

午前中はずっと新聞やご本を読んでいらして(p.109)
se pasaba la mañana leyendo el periódico o algún
libro(p.91) <無視>

すっぼり 作品名：砂

すっぼり手拭をかぶっていたし、口から下は隠れている
ので(p.70)

tenían la cabeza envuelta en toallas(p.66) <動>

すっぼり 作品名：砂

証文のマントにすっぼり埋まってしまった(p.133)

queda sepultado bajo un manto de certificados
(p.120) <動>

すっぼり 作品名：幻影

赤い襟巻を頭からすっぼりとかぶり・・・(p.9)

Llevaba la cabeza completamente oculta por una
bujanda roja ...(p.9) <副>

すっぼり 作品名：幻影

その部分にすっぼり身体を横たえて埋めると気持ちいい
のである。(p.57)

En el centro había una cavidad permanente donde el
cuerpo de la anciana se acomodaba de manera
satisfactoria(p.63) <副>

すっぼり 作品名：羊

・・・まるで「スイスのロビンヤ刀」vに出てくる樹上家
屋のように建物をすっぼりと包んでいた。(p.128(下))

como ocurría con la cabaña de troncos descrita en Los
Robinsones suizos ,a envolvían por completo.(p.260) <
副>

すっぼり 作品名：砂

膝の上まですっぼり埋まって、(p.47)

se encontró enterrado hasta el rodillas(p.48) <無視>

すっぼり 作品名：羊

空は湿っばい灰色の雲にすっぼりと覆われていた。
(p.121(下))

El cielo estaba tapado hasta el horizonte por
cenicientas nubes(p.255) <無視>

すっぼりと 作品名：NP

・・・心の中にすっぼりと包まれて巨大な天空の、あれほ

ど高い空の回転の中の今移動中のこの位置からの景色に
入っていた。(p.206)

...todo quedaba completamente envuelto en el corazón
y ahora se sumergía en el paisaje que avanzaba hacia
nosotros moviéndose velozmente, en la rotación de las
esferas celestas y en el cielo inmenso.(p.172) <副>

すどん 作品名：台所

・・・すどん。と幕のように沈黙が落ちてきた。(p.107)

Cayó el silencio con un ruido seco, como un
telón.(p.105) <何とか>

すどん 作品名：坊

からだはすどんと前へほうりだされた。(p.63)

mientras yo caía adelante, cuan largo era. (p.67) <副>

すどん 作品名：坊

すどんとたおれた。(p.170)

éste se derrumbó por el suelo de un golpetazo.
(p.167) <副>

ずぶずぶ 作品名：砂

こんどは膝まで、ずぶずぶともぐってしまった(p.190)

el otro se enterró rápidamente hasta la
rodilla(p.170) <何とか>

ずぶり 作品名：藪

夫の縹の水干の胸へ、ずぶりと小刀を刺し通しました。
(p.176)

clavé la daga en su pecho, a través del kimono de color
lila.(p.18) <無視>

すべすべ 作品名：斜陽

頬が蠟のようにすべすべして(p.129)

tenía las mejillas tan tersas como si fueran de
cera(p.107) <形>

すやすや 作品名：幻影

・・・その子供がすやすやと眠っているように見えた。
(p.14)

unos rasgos diminutos sumidos, al parecer, en un
sueño tranquilo(p.16) <比>

すやすや 作品名：地獄

良秀は肘を枕にして、まるで疲れ切った人間のように、

すやすや、寝入ってしまいました、(p.110)

El maestro se acostó,y poco después dormitaba con la cabeza apoyada sobre un brazo.(p.39) <無視>

すらすら 作品名：幻影

・・・すべてがすらすらと解決して行くので、・・・(p.182)

A medida que cada pieza iba encontrando su lugar,(p.180) <何とか>

すらすら 作品名：斜陽

何だか私もすらすら話せるような気がするものだから (p.48)

me da la impresión de que hoy puedo hablarte sin dificultad(p.44) <副>

すらすら 作品名：坊

なにか、すらすらとでて、骨がおれなくて、そうして清がおもしろがるようなものはないかしらん、(p.176)

“¿Dónde estará ese tema que me salga sin tropiezos y no me obligue a romperme la cabeza, y al mismo tiempo le resulte interesante a Kiyō?” (p.173) <副>

すらり 作品名：羊

夏の終わりを告げるすらりとした風がビルのあいだを滑り抜けて、(p.202(上))

Una brisa que anunciaba el final del verano se deslizaba por entre los edificios.(p.139) <無視>

ずらり 作品名：羊

「・・・日本中がまったいらになって山も海岸も湖もなく、そこに均質な公園住宅をずらりと並べることが正しいことなのかな？」(p.188(上))

donde se alzaban fila tras fila de uniformes bloques de viviendas.¿Tegustaría eso?(p.130) <副>

ずらりと 作品名：NP

ぐると振り向くと、リゾート地らしく、浜を取り囲むようにずらりと巨大なホテル群がそびえたっていた。(p.216)

Me volví. A nuestro alrededor se alzaban una serie de hoteles en fila, como si reedaran la playa.(p.181) <無視>

するする 作品名：斜陽

(蛇が) するすると逃げて(p.15)

que salió reptando(p.18) <動>

するする 作品名：斜陽

するするとおどんを嘍って(p.143)

sorbiendo con rapidez los bifeos(p.118) <動>

するする 作品名：羊

ぶ厚いガラスがするするとせりあがってきて、(p.108(上))

Un grueso cristal se deslizó suavemente(p.75) <副>

するする 作品名：台所

横着な祖母が、楽しんでするする皮がむけると喜んだものだ。(p.15)

Mi abuela, que era muy perezosa, estaba encantada con lo fácil que resultaba pelar con él las verduras.(p.19) <無視>

ずるずる 作品名：NP

床をずるずる引きずられていた。(p.177)

Me arrastraba por el suelo.(p.146) <無視>

ずるずる 作品名：砂

羽ばたく暇もなく、ずるずると砂に吸い込まれていく (p.201)

tragado por la arena antes de poder siquiera abrir las alas(p.181) <無視>

ずんぐり 作品名：砂

あの、ずんぐりした掘立て小屋の赤犬が、(p.186)

el perro gordo y fornido de la cabaña(p.166) <形>

ずんずん 作品名：銀河

船はもうずんずん沈みますから、(p.196)

el barco se hundía rápidamente(p.45) <副>

ずんずん 作品名：歯車

ペンは僕にも不思議だったくらい、ずんずんと原稿用紙の上を走って行った。(p.58)

La pluma corría sobre el papel en forma admirable,tanto que yo mismo me sorprendí.(p.75) <副>

せ

せいせい 作品名：銀河

ああせいせいした。(p.189)

¡Ah, que satisfacción!(p.39) <何とか>

せいせい 作品名：銀河

鷺をつかまえてせいせいしたとよるこんだり、(p.192)
se mostraba tan satisfecho con su captura(p.42) <無視>

せかせか 作品名：斜陽

せかせかした調子でおっしゃって(p.88)
dijo algo azorado(p.75) <形>

せっせ 作品名：砂

せっせと幻の祭典のまねごとを塗りたくる(p.93)
se dedican a pintar pacientemente ese festival ficticio
(p.88) <何とか>

せっせ 作品名：砂

女は、せっせと砂掻きに余念がない(p.91)
la mujer estaba entregada a su trabajo(p.86) <動>

せっせ 作品名：砂

せっせと片道切符のブルースを口ずさんだりすることにもなるわけだ(p.155)
por eso canturrean sin cesar (p.138) <副>

せっせと 作品名：齒車

(僕は)せっせと往來を歩いて行った。(p.35)
Proseguí caminando ansiosamente(p.60) <副>

せっせと 作品名：齒車

せっせと前の小説をつづけていった。(p.60)
proseguí febrilmente el relato que había
comenzado.(p.76) <副>

せっせと 作品名：齒車

雪解けの道をせっせと姉の家へ歩いて行った。(p.41)
caminé afanosamente hacia la casa de mi hermana por
el camino sembrado de charcos(p.64) <副+ミス>

そ

そうそう 作品名：坊

そうそう糸を巻いてしまった。(p.76)
A toda prisa recogí mi sedal y lo guardé. (p.79) <副>

そうと 作品名：台所

まだ若い月が、そうと空をわたってゆこうとしている
のが目に止まった時、(p.48)
Cuando posé los ojos en una luna todavía creciente que
cruzaba el cielo despacio.(p.50) <副>

ぞおと 作品名：NP

・・背筋がぞおと寒くなった。(p.131)
...un frío gélido fue extendiéndose por todos mis
músculos.(p.110) <形+動>

ぞくぞく 作品名：台所

毎日、明日が来てまたチャレンジできるのが楽しみでぞくぞくした。(p.83)
Cada día temblaba de emoción al poder luchar de
nuevo cuando llegara la luz.(p.84) <全体>

ぞく 作品名：銀河

青年はぞくとしてからだをふるうようにしました。
(p.200)
El joven se estremeció y tembló de pies a
cabeza.(p.49) <動>

ぞく 作品名：NP

ぞくとした。(p.79)
Sentí un escalofrío.(p.70) <名>

そそくさ 作品名：斜陽

そそくさと歩み去る(p.66)
huye deprisa(p.58) <副>

そ 作品名：幻影

・・・壊れ物でも持つようにそと机の上に置いた。(p.48)
Lo colocó con gran cuidado sobre el escritorio(p.53) <副>

そ 作品名：幻影

それで、そと身体をずらし、たたきの上の履物を探したのである。(p.153)
fue apresuradamente al recibidor(p.157) <副>

そ 作品名：幻影

・・・三〇五号室の前に立ち止まると扉にそと耳をあてた。(p.51)

Poniendo la oreja contra la puerta,(p.56) <無視>

ぞつ 作品名：NP

ぞつとした。(p.36)

Me horroricé.(p.37) <動>

ぞつ 作品名：羊

「・・・そういうのって考えるだけでぞつとするだろう？」
(p.202(下))

¿No tienes escalofríos sólo de pensarlo?(p.313) <動>

そっくり 作品名：幻影

赤いりボンが新しすぎるほかは金具の光り具合といい大きさといいそっくりなのである。(p.128)

las llaves parecían idénticas(p.131) <形>

そっくり 作品名：幻影

・・・アパートをそっくり動かして御覧に入れます。(p.24)
pueden llenar un vaso con agua y cuando movamos el edificio, no se derramará ni una gota(p.28) <全体>

そっくり 作品名：羊

水の少ない時期には流れはそっくり砂地に吸い込まれ,(p.145(上))

En la época del estiaje la corriente es absorbida por el lecho poroso,(p.100) <副>

そっくり 作品名：幻影

「・・・この建物の下をそっくり掘ろうというのですから、・・・」(p.135)

sacarán a la luz los cimientos(p.137) <無視>

そつと 作品名：地獄

あの男が絵を描いている所を、そつと物陰から覗いて見ると、38(p.109)

Esto sostenían quienes decían haberlo espiado mientras pintaba(p.) <動>

そつと 作品名：地獄

耳木兔の脊中の毛を、そつと下から撫で上げました。(p.117)

acarició el lomo del ave de abajo hacia arriba.(p.43) <動>

そつと 作品名：NP

そつと開けてみた。(p.119)

Abrí la caja con cuidado.(p.102) <副>

そつと 作品名：銀河

指でそつと・・・さわりました。(p.185)

tocando con delicadeza (p.36) <副>

そつと 作品名：銀河

女の子がそつとカムパネルラにたずねました。(p.203)

preguntó la niña en voz baja a Campanella.(p.52) <副>

そつと 作品名：銀河

姉がひとりごとのようにこちちを見ながらそつと云いました。(p.205)

dijo la niña, mirando hacia ellos, en voz muy baja, como para sí misma.(p.54) <副>

そつと 作品名：砂

そつと起上がって、土間におりる(p.82)

se levantó sin ruido y bajó al piso de tierra(p.78) <副>

そつと 作品名：砂

そつと起き出して服をつける(p.90)

se levantó sigilosamente y se vistió(p.86) <副>

そつと 作品名：砂

女が、そつと注意してくれた(p.149)

aconsejó ella discretamente(p.133) <副>

そつと 作品名：齒車

僕はT君と話しながら、そつと彼女を眺めていた。(p.34)

Mientras hablaba con mi amigo la observé discretamente(p.59) <副>

そつと 作品名：齒車

誰か僕の眠っているうちに、そつと絞め殺してくれるものはないか？(p.75)

No querrá alguien apretarme el cuello,calladamente,mientras yo duermo?(p.86) <副>

そつと 作品名：斜陽

そつとお立ちになり(p.10)

se había levantado en silencio(p.15) <副>

ぞっと 作品名：斜陽

私はぞっと立って(p.139)

Me levanté discretamente(p.116) <副>

ぞっと 作品名：坊

音をたてないように靴の底をぞっと落とす。(p.90)

dejaba que la suela de sus zapatos fuera reposando en silencio sobre el suelo. (p.94) <副>

ぞっと 作品名：銀河

青年は教えるようにぞっと姉弟にまた云いました。

(p.195)

該当なし(p.44) <無視>

ぞっと 作品名：失格

自分は、音を立てないようにぞっとコップに水を満たし、(p.121)

Sin hacer el menor ruido,llené un vaso de agua,(p.113) <無視>

ぞっと 作品名：斜陽

それきりまたぞっとお膳の上におかえしになって(p.117)

lo devolvió a la bandeja(p.97) <無視>

ぞっと 作品名：斜陽

ぞっと病室から出て(p.120)

Salimos ambos de la habitación(p.100) <無視>

ぞっと 作品名：斜陽

手をお蒲団の中へぞっとおいれになった(p.128)

volvió a ponerlas bajo el edredón(p.106) <無視>

ぞっと 作品名：斜陽

僕にぞっと毛布をかけてくださった親切は(p.163)

Su amabilidad al cubrirme con una manta(p.133) <無視>

ぞっと 作品名：台所

手紙をもとのようにぞっとたたんだ。(p.76)

..la doblé tal como estaba antes.(p.76) <無視>

ぞっと 作品名：地獄

そうして私も自分ながら、何か見てはならないようなものを見たような、不安な心もちに脅されて、誰にとまなく恥しい思いをしながら、ぞっと元来た方へ歩き出しま

した。(p.124)

Regresé por el corredor un poco avergonzada y con un peso en mi conciencia ,al saber que había sido testigo de algo que no me concernía y me asaltó un temor irracional.(p.47) <無視>

ぞっと 作品名：地獄

もし狼藉物でもあったなら、目にも見せてくれようと、ぞっとその遣り戸の外へ、息をひそめながら身をよせました。(p.122)

Al acercarme a la puerta corrediza de donde provenía,escuché con atención para ver si se trataba de ladrones, en cuyo caso pensaba enfrentarlos decididamente.(p.46) <無視 + 何とか>

ぞっと 作品名：砂

ぞっとして足をひいた(p.19)

alarmado,se echó hacia atrás(p.24) <形>

ぞっと 作品名：台所

部屋のすみに息づき、押ししてくるぞっとするような静けさ、(p.30)

un silencio escalofriante que se respiraba en los rincones iba llenándolo todo,(p.33) <形>

ぞっと 作品名：斜陽

私はなぜだか、ぞっとした(p.146)

me dió un escalofrío(p.121) <全体>

ぞっと 作品名：砂

ぞっとして、立ちすくむ(p.32)

se estremeció,y quedó como petrificado(p.35) <動>

ぞっと 作品名：砂

男は妖しいまでの人恋しさに、ぞっとしてしまった(p.172)

estremeció al hombre con un inquietamente deseo de ver gente(p.155) <動>

ぞっと 作品名：NP

錦の上に、ぞっとするほど白いけらが入っていた。(p.119)

Sobre una tela de algodón había unos fragmentos blancos que me hicieron sentir escalofríos(p.102) <副>

ぞっと 作品名：台所
私のカンはその瞬間、ぞっとするほど冴えていた。(p.125)
Mi intuición era terriblemente aguda en aquel instante.(p.124) <副>

そろそろ 作品名：砂
そろそろと、体重をかけていく(p.163)
empezó a izarse lentamente(p.145) <何とか>

そろそろ 作品名：銀河
そろそろと出て来て(p.168)
se le acercó despacio(p.22) <形>

そろそろ 作品名：坊
そろそろ女のほうへあるきだしたんで、(p.126)
se encaminó despacio hacia ella, (p.126) <副>

そろそろ 作品名：失格
そろそろ自分の定まった職業になりかけてきた漫画の仕事に精を出し、(p.106)
me dedicué de lleno a mi trabajo de dibujar historietas.(p.101) <無視>

そろそろ 作品名：斜陽
そろそろ引上げていかれた(p.34)
se marcharon(p.34) <無視>

ぞろぞろ 作品名：坊
待ちあわせた連中はぞろぞろ、われがちに乗りこむ。(p.128)
Estos vieron finalizada la espera y fueron entrando cada uno a su aire, aunque sin atropellarse. (p.127) <何とか>

ぞろぞろ 作品名：台所
、人々は並んでぞろぞろ乗り込む。(p.47)
..y los pasajeros,en fila,van subiendo uno tras otro.(p.50) <無視>

そわそわ 作品名：銀河
そわそわ立って支度をはじめました(p.212)
se levantó excitada y empezó con los preparativos,(p.60) <ミス>

そわそわ 作品名：羊

羊男は少しそわそわした感じでチャーターに戻った。(p.153(下))
El hombre carnero volvió al sofá, un tanto picado, al parecer.(p.279) <形>

た

たっぶり 作品名：砂
口元までたっぶり補充されていた(p.151)
la habían vuelto a llenar hasta el borde(p.135) <何とか>

たっぶり 作品名：羊
たっぶり三助b間を置いてから(p.29(上))
Tras una larga pausa,como de medio minuto,(p.20) <何とか>

たっぶり 作品名：羊
たっぶり三助b間を置いてから(p.29(上))
Tras una larga pausa,como de medio minuto,(p.20) <何とか>

たっぶり 作品名：羊
・・・山の緑は満足そうにたっぶりと六月の雨を吸い込んでいた。(p.155(上))
el velde de los montes absorbía a placer la copiosa lluvia de junio.(p.106) <形>

たっぶり 作品名：砂
彼でさえ、もうたっぶり寝足りていた(p.87)
él mismo había dormido lo suficiente(p.83) <副>

たっぶり 作品名：羊
石油をたっぶりかけて完全に焼いてから、(p.24(下))
Rocíalos bien de petróleo , (p.181) <副>

たっぶり 作品名：砂
もうたっぶり、露をすっていますからね(p.36)
la arena ya ha absorbido una buena cantidad de neblina(p.38) <名>

だぶだぶ 作品名：銀河
だぶだぶの白いシャツを着た人に(p.161)
該当なし(p.16) <無視>

だらだら 作品名：坊
だらだらと空中に流れこんだ。(p.182)
refluyó con toda calma cielo adentro. (p.179) <副>

だらだら 作品名：坊

鼻の先から黄味がだらだら流れだした。(p.209)
su contenido amarillento empezó a chorrear por la nariz de "Histrión". (p.205) <無視>

だらだらと 作品名：斜陽
だらだらと石から垂れ落ちて行った(p.123)
bajaba de la piedra con parsimonia(p.102) <副>

だらり 作品名：歯車
レエン・コートは今度もまた僕の横にあった長椅子の背中に如何にもだらりと脱ぎかけてあった。(p.37)
Un raincoat colgaba lánguidamente del respaldo del sofá que tenía a mi lado.(p.61) <副>

だらりと 作品名：砂
手足が、水枕のようにだらりと重かった(p.139)
sintió sus pies y sus manos como pesadas bolas de agua.(p.125) <無視>

たん 作品名：坊
たんとめしあがれ (p.177)
tome toda la que quiera. (p.174) <何とか>

たんとたんと 作品名：斜陽
直治がたんとたんと親孝行するといいいい(p.51)
si él se portara como un buen hijo, mejor(p.46) <無視>

ち

チーン(チ-ン) 作品名：坊
チ-ンと九時半の柱時計が鳴った。(p.204)
Un reloj de pared sonó abajo, dando las nueve y media. (p.201) <無視>

ちかちか 作品名：台所
ふいに明るくなった視界に目がちかちかした。(p.135)
Aquella repentina claridad me deslumbró.(p.134) <動>

ちかちか 作品名：砂
首筋に、ちかちか砂の粒が突き刺さった(p.165)
dardos de arena vinieron a golpear su cara y su cuello(p.147) <無視>

ちくちく 作品名：羊

太陽の光で、目の奥がちくちくと痛んだ。(p.34(上))
La luz del sol me producía un intenso escozor en los ojos, que llegaron a dolerme.(p.24) <全体>

ちびちび 作品名：羊
僕はちびちびとビールを飲み、(p.139(上))
Allí bebía mi cerveza a pequeños sorbos,(p.96) <形+名>

ちびちび 作品名：羊
羊男はブランデーをグラスについてちびちびと飲み、(p.183(下))
Se sirvió coñac y lo fue bebiendo a pequeños sorbos.(p.300) <副>

ちびちび 作品名：NP
翠はそのあいだビールをちびちびと飲みながら、小さな背中でテレビを見ていた。(p.177)
Mientras tanto, Sui, bebiendo una cerveza a sorbos, miraba la televisión dándome la espalda.(p.146) <副+イディオム>

ちゃりちゃり 作品名：台所
カギをちゃりちゃりいわせながら星空の下を歩いていたら、(p.69)
Caminaba bajo el cielo estrellado haciendo tintinear las llaves..(p.68) <動>

ちゃんと 作品名：斜陽
ちゃんと識っていらして(p.58)
porque sabía lo armonioso(p.52) <無視>

ちゅー(チュー) 作品名：坊
あちらでもチュー、こちらでもチュー、という音がする。(p.162)
se empezaron a oír sorbetones aquí y ahí. (p.158) <ミス>

ちよっぴり 作品名：砂
戸口の上に、ちよっぴりのぞいている空は(p.123)
el cielo, apenas visible desde la puerta(p.111) <副>

ちよろちよろ 作品名：坊
じつは一間ぐらいな、ちよろちよろした流れで、(p.131)
en realidad, era un alborotado riachuelo de dos metros

escasos de anchura; (p.130) <ミス>

ちよろちよろした 作品名：NP

やっとおきた火は何だかちよろちよろした炎で、浜の闇の迫力の方がよっぽど強かった。(p.209)

Frente a las imponentes tinieblas que cubrían la playa, un fuego prendido a duras penas ardía con unas llamas débiles.(p.176) <形>

ちらちら 作品名：銀河

黒い川の水はちらちら小さな波をたてて流れている (p.220)

recorrían sin cesar la corriente iluminando las pequeños olas negras.(p.69) <形>

ちらちら 作品名：坊

目がちらちらするのか (p.210)

bien porque tenían los ojos ofuscados y no veían. (p.207) <形>

ちらちら 作品名：銀河

ちらちら紫いろのこまかな波をたてたり、(p.174)

se formaban pequeños olas, que por momentos parecían una ilusión, centelleando violetas(p.27) <動>

ちらちら 作品名：銀河

ちらちらゆれたり顫えたりしました。(p.175)

parpadeaban y se balanceaban.(p.28) <動(オノ?)>

ちらちら 作品名：地獄

金物の黄金の星のように、ちらちら光らせているのを眺めると、(p.130)

Tenía las varas apoyadas en una especie de mesa,y sus ornamentos de oro refulgían como estrellas,(p.51) <動+何とか>

ちらちら 作品名：地獄

(まるで黒い油のようなものが)ちらちらと光りながら、(p.114)

brillando con intermitencias(p.41) <比>

ちらちら 作品名：NP

風が吹いて、水面がちらちら揺れた。(p.80)

Un soplo de viento encrespó la superficie del lago.(p.72) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

青い琴の星が、三つにも四つにもなって、ちらちら瞬き、(p.171)

la azulada estrella Vega parecía que se dividiese en tres o cuatro puntos brillantes(p.25) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

うつくしい燐光をあげて、ちらちらと燃えるように見えたので(p.180)

brillaron con una atractiva luz fosforescente como si ardieran.(p.32) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

その鳥捕りの時々大したもんだというようにちらちらこっちを見ているのが(p.192)

las miradas de admiración del cogepájaros.(p.42) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

見えない天の川の波もときどきちらちら針のように赤く光りました。(p.210)

las aguas invisibles de la Vía Láctea lanzaron destellos púrrouras.(p.58) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

黄金の円光をもった電気栗鼠が可愛い顔をその中からちらちらのぞいているだけでした。(p.215)

una ardilla eléctrica, con un aura dorada, asomaba su linda carita.(p.62) <無視>

ちらちら 作品名：台所

海は真っ黒で、時折レースのふちどりがちらちら光った。(p.143)

Sobre el mar,negrísimo,brillaban de vez en cuando sus crestas de encaje.(p.141) <無視>

ちらちら 作品名：銀河

天の川は・・・いままでよほど激しく流れて来たらしくときどきちらちら光ってながれているのでした。(p.207)

la Vía Láctea, cuyas aguas fluían con mucha más fuerza que antes, lanzando algún destello.(p.56) <名>

ちらちら 作品名：羊

樹木は高く、まだらの光が林を抜ける砂利道の上にちら

ちらと揺れていた。(p.99(下))

La luz que se filtraba por la fronda del bosquecillo se derramaba formand brillantes manchones movedizos sobre el camino de grava.(p.238) <形>

ちらちら 作品名：羊

鉄橋の影が本の上でちらちらと揺れた。(p.82(下))

Las sombras de un puente metálico pasaron temblorosas sobre sus páginas abiertas.(p.224) <名>

ちらちらと 作品名：NP

ちらちらと光る海辺の街灯り。(p.211)

Las luces de la costa que brillaban a lo lejos.(p.177) <何とか>

ちらちらと 作品名：台所

窓の外に美しい夜景がちらちらとまたたくのを、(p.73)
..contemplé el parpadeo del hermoso paisaje nocturno al otro lado de la ventana.(p.73) <無視>

ちらっ 作品名：銀河

ちらっとそれを見て(p.191)

echando una rápida ojeada.(p.41) <形>

ちらっ 作品名：銀河

ちらっと窓のそとを過ぎ、(p.178)

pasaban rápidamente ante la ventenilla.(p.30) <副>

ちらっ 作品名：銀河

ちらっとこっちを見てわらいました(p.184)

les miró y también se río(p.35) <無視>

ちらっ 作品名：銀河

ちらっと大きなとうもろこしの木を見ました。(p.204)

apareció una gran planta de maíz.(p.53) <無視>

ちらっ 作品名：銀河

真珠のような実もちらっと見えたのです。(p.204)

該当なし(p.53) <無視>

ちらっ 作品名：幻影

・・・ちらっと部屋の中を覗いてみたら、・・・(p.43)

había observado una pila de manuscritos que estaban sobre el escritorio(p.48) <無視>

ちらっ(チラッ) 作品名：幻影

「・・・バイオリンの姿をチラッと見ただけで、・・・」(p.156)

Cuando vio en qué estado se hallaba el violín (p.159) <無視>

ちらっと 作品名：NP

翠はふらりと立ち上がり、私をちらっと見て玄関に向かっていった。(p.179)

Sui se levantó con desmayo, me miró fijamente y se dirigió al recibidor.(p.147) <ミス>

ちらっと 作品名：NP

きっと神様がその暖かいまなざしで、ちらっとここを見たのだろう。(p.126)

Seguramente, la cálida mirada de Dios se había posado en nosotros unos instantes.(p.107) <動>

ちらと 作品名：斜陽

ちらと沓脱石のほうを見ると(p.123)

Al mirar de nuevo(p.102) <副>

ちらと 作品名：斜陽

淋しいお顔で私のほうをちらと見た(p.113)

me miró con tristeza(p.94) <無視>

ちらと はっと 作品名：失格

ちらとそれが、頭脳の片隅をかすめて通り、はっと思いました。(p.115)

Estas parabras pasaron fugazmente por un rincón de mi cerebro,causándome un sobresalto.(p.108) <副・名>

ちらり 作品名：羊

彼は近づいていく僕の姿を遠くから一度ちらりと眺め、・・・(p.102(下))

Me echó un vistado desde lejos mientras me acercaba,(p.241) <動>

ちらり 作品名：藪

ちらりと女の顔が見えたのです。(p.170)

y lo vi apenas. (p.14) <副>

ちりちり 作品名：NP

ベランダにぶら下がっている風鈴が、うるさいくらいにちりちり揺れた。(p.114)

El fuurin tintineaba al viento sin descanso , resultando un poco ruidoso.(p.99) <動>

チリチリ 作品名：羊

・・・チリチリというふるい電気スタンドの音だけが、沈黙の重さを際立たせていた。(p.54(下))

en tanto que el leve crepitar de la vieja lámpara eléctrica subrayaba la pesadez del silencio(p.202) <動>

ちりぢり 作品名：台所

いつか必ず、誰もが時の間の中へちりぢりになって消えてしまう。(p.30)

...Alguna vez,sin falta,todos iremos dispersándonos en la oscuridad del tiempo y desapareceremos.(p.34) <動>

フ

つかつか 作品名：地獄

(仕丁の一人は)つかつかと車に近づくと、矢庭に片手をさし伸ばして、簾をさらりと揚げて見せました。(p.132) uno de los sirvientes se acercó a la carroza y mientras con una mano sostenía la antorcha ,levantó con la otra la cortina.(p.52) <無視>

つくづく 作品名：斜陽

寝顔をつくづく眺めた(p.153)

Observé con atención el rostro del hombre(p.125) <副>

つっけんどん 作品名：砂

女がつっけんどんとも思える調子で(p.37)

la mujer dijo en tono más cortante y áspero(p.39) <形>

つと 作品名：斜陽

つとお立ちになって(p.9)

mamá se levantó de repente(p.14) <副>

つと 作品名：斜陽

つと立って食堂へ行ったら(p.117)

me levanté de pronto y me marché al comedor(p.98) <副>

つと 作品名：斜陽

つと立って(p.123)

Me levanté enseguida(p.102) <副>

つと 作品名：斜陽

つと立ち上がって支那間のほうへ(p.106)

el doctor Miyake se dirigió a la sala china(p.89) <無視>

つやつや 作品名：銀河

つやつやした黒い髪(p.193)

debrillante pelo negro,(p.43) <形>

つるつる 作品名：銀河

つるつるした標札が(p.180)

un lustroso letrero (p.32) <形>

つるつる、ちゅちゅ 作品名：坊

何かつるつる、ちゅちゅ食ってた連中が、(p.45)

Un grupo de tres personas que comía en un rincón, sorbiendo a intervalos su sopa de fideos,(p.50) <動>

つるつるに 作品名：NP

海はつるつるに光って、・・・(p.211)

El mar brillaba liso,...(p.178) <形>

つるり 作品名：羊

谷に沿った道の前方に奇妙なほどつるりとした円錐形の山が見えた。(p.117(下))

Camino adelante, en el extremo del valle,se alzaba un monte cónico ,extrañamente calvo de toda vegetación.(p.252) <形>

つるん 作品名：NP

その、白いポロシャツや、つるんとしたほほの印象とはまるで折り合わない、暗い目をしていた。(p.19)

Tenía unos ojos sombríos que no casaban en absoluto ni con sus mejillas suaves ni con la camiseta que llamaba.(p.24) <形>

つん 作品名：砂

腐った魚の臭いが、つんと鼻をつく(p.208)

el hedor del pescado podrido le llenó la nariz(p.186) <何とか>

つん 作品名：坊

芸者はつんとすました。(p.167)

contestó la geisha con frialdad, (p.164) <副>

つんと 作品名：NP

つんとして歩いてゆく後ろ姿が、愛玩犬みたいに生意気でかっこよかった。(p.81)

Su figura esbelta, vista de espaldas mientras caminaba despacio, tenía el aire orgulloso de un perrito mimado.(p.72) <形>

つんと 作品名：台所

冬のつんと澄んだ青空の下で、(p.119)

Bajo el cielo azul transparente de invierno,(p.118) <無視>

て

てきばき 作品名：砂

てきばきと、いかにも調子に乗った仕事ぶりだ(p.38) trabajan con rapidez y eficacia(p.39) <副>

てらてら 作品名：NP

娘の遠い海鳴りのようなささやき、人魚のしっぽのような、月明かりにてらてら光る細い足首。(p.47)

El murmullo de la hija, como el rumor lejano del mar, y sus tobillos finos brillando a la luz de la luna como la cola de una sirena.(p.48) <無視>

と

とうとう 作品名：坊

とうとうと弁じたてる。(p.172)

me liarían con su verborrea. (p.170) <何とか>

とうとう 作品名：坊

いうなら人をおどろかすようにとうとうと述べたてなくっちゃつまらない、(p.101)

Pero puesto uno a hablar, ha de hacerlo con una elocuencia arrasadora; (p.104) <無視>

どうどう 作品名：NP

川の水はどうどうと激しい音を立てていた。(p.129)

El río rugía imponente.(p.109) <無視>

どお 作品名：銀河

どおと烈しい音がしました。(p.208)

con gran estruendo.(p.57) <名>

どかっと 作品名：砂

それが午後になって乾ききると、いっぺんにどかっと(p.37)

se viene abajo toda de golpe(p.38) <名>

どかどか 作品名：銀河

どかどかするからだを、つめたい草に投げました。(p.170)

echó su cuerpo cansado sobre la hierba fresca(p.24) <ミス>

どかりと 作品名：斜陽

私の傍にどかりとあぐらをかき(p.143)

se dejó caer sentado con las piernas cruzadas a mi lado(p.118) <何とか>

どきっ 作品名：銀河

ジョバンニは思わずどきっとして(p.169)

Giovanni, sobresaltado,(p.23) <形>

どきどき 作品名：銀河

ジョバンニは、まるでどきどきして、頭をやけに振りました。(p.175)

Giovanni sentía que le daba vueltas la cabeza.(p.28) <ミス>

どきどき 作品名：斜陽

絶えず不安で、ドキドキして(p.157)

con mi cuerpo sobresaltando(p.129) <形>

どきどき 作品名：NP

私はなんだかどきどきした。(p.106)

El corazón latía con fuerza en mi pecho.(p.92) <全体>

どきどき 作品名：NP

さすがに少しどきどきしながらたずねた。(p.154)

...pregunté de improviso, mientras me paltipaba fuertemente el corazón.(p.129) <動>

どきどき(ドキドキ) 作品名：幻影

内心はドキドキでしたけどね。(p.145)

¡Debo admitir que estaba muy asustada...(p.150) <形>

どきまぎ 作品名：銀河

ジョバンニはもうどぎまぎしてまっ赤になってしまいました。(p.158)

Giovanni, rojo de bochorno.(p.13) <何とか>

どぎまぎ 作品名：斜陽

私が不安と恐怖で胸をどぎまぎさせながら(p.43)

Yo tenía el pecho aprisionada por la incertidumbre y el miedo(p.40) <形+ミス>

どきり 作品名：NP

・・・と翠が言い、私をどきりとさせた。(p.69)

..dijo Sui, y me dio un vuelco el corazón.(p.64) <全体>

どきり 作品名：NP

どきり。(p.142)

Me dio un vuelco el corazón.(p.121) <全体>

どきり 作品名：坊

おれは思わずどきりとした。(p.205)

yo me puse instintivamente en actitud de alerta.
(p.202) <全体>

ドキリ(どきり) 作品名：幻影

・・・思わずドキリとしたりした。(p.185)

sentía náuseas.(p.183) <ミス>

どきりと 作品名：台所

私の心がどきりと音を立てた。(p.116)

Me dio un vuelco el corazón.(p.114) <全体>

どきりと 作品名：台所

その堂々とした笑顔が私をどきりとさせた。(p.42)

Su cara sonriente,magnífica,me asustó.(p.44) <動>

どきん 作品名：斜陽

わたしは、どきんとして(p.22)

Me dio un vuelco el corazón(p.24) <動>

とくとく 作品名：羊

羊男は半分溶けた氷の上にとくとくとウスキーを注ぎ、
(p.150(下))

El hombre carnero echó más whisky sobre su hielo semiderretido,(p.277) <無視>

トクトクトク 作品名：羊

トラクターのトクトクトクというエンジン音が風に乗っていつまでも小さく聞こえていた。(p.110(下))

El estrepitoso traqueteo de su motor se oía sin parar,por más que se iba atenuando con la distancia.(p.247) <無視>

どさっと 作品名：NP

買ってきたもの、花火やワインやフライドチキンを夕闇の砂浜にどさっと置いて。(p.208)

Esparcimos sobre la arena oscura lo que habíamos comprado: vino, pollo frito , fuegos artificiales...(p.175) <無視>

どしどし 作品名：銀河

けれどもジョバンニは手を大きく振ってどしどし学校の門を出て来ました。(p.160)

A l pasar junto a ellos, Giovanni les saludó con un gesto enérgico de la mano y se marchó a toda prisa.(p.16) <ミス>

どしどし 作品名：斜陽

どしどし病室へは行って来られて(p.119)

salió disparado hacia la habitación de mamá(p.99) <形>

どしん 作品名：坊

いくら、どしんとたおれてもかまわない。(p.55)

por mucho estrépito que armase al dejarme caer sentado, no pasaría nada. (p.59) <名>

どたばた 作品名：坊

どたばたあばれていたのが、(p.62)

ese alboroto infernal (p.66) <形>

どたばた 作品名：羊

「・・・そうなると三日くらいはどたばたやってるね」
(p.115(下))

Por causas así pueden tener combates que duran hasta tres días.(p.251) <全体>

どたばた 作品名：坊

縁側をどたばたいわして、(p.164)

levantando estrépito en la galería. (p.160) <名>

どたり 作品名：坊

そいつは、どたりとあおむけにたおれた。(p.66)
 conseguí hacerlo caer pesadamente de espaldas.
 (p.70) <副>

どっかんと 作品名：台所
 店のおばさんが忙しそうにやってきて、どっかんと水を
 置いた。(p.116)
 La dueña vino con aire atareado y me sirvió un vaso de
 agua.(p.114) <無視>

どっしり 作品名：羊
 四頭の熊が同時に爪を研げそうなほど、どっしりとした
 白樺だ。(p.103(上))
 Eran abedules corpulentos, en los que cuatro osos a la
 vez hubieran podido afilar sus garras.(p.72) <形>

どっと 作品名：砂
 砂がどっと吐き出されてきた(p.67)
 la arena caía rápidamente (p.63) <何とか>

どっぶり 作品名：斜陽
 日がどっぶり暮れて(p.101)
 se puso el sol(p.85) <動>

とほほほ 作品名：台所
 午後の光が射す調理室に立ちつくしたままで、私は、と
 ほほほ、と思った。(p.102)
 Y yo, sin moverme, me quedé de pie en la cocina donde
 penetraba la luz de la tarde y pensé que estaba en una
 situación lastimosa; ¡Ay, ay, ay!(p.101) <オノ>

どぼん 作品名：銀河
 天の川のところに大きなまっくらな孔がどぼんとあいて
 いるのです。(p.216)
 En un lugar cerca de la Vía Láctea se veía un agujero
 negro.(p.63) <無視>

どぼん 作品名：坊
 どぼんと錘と糸をほうりこんで (p.75)
 En éstas, lancé mi sedal (p.78) <無視>

どやどや 作品名：幻影
 「・・・いくら工事関係の方でもどやどやと入って来る
 ことはぜったいにお断りします。・・・」(p.136)
 todo quisque entrando y saliendo(p.138) <何とか>

どろどろ 作品名：NP
 「人ってもっと、変で薄汚くて、どろどろしてて、情け
 なくて・・・」(p.153)

Siempre he pensado que las personas eran más
 extrañas, deshonestas, desordenadas,
 viles,...(p.129) <形>

とん 作品名：坊
 とんと尻もちをついて、あおむけになった。(p.55)
 me acosté tendiéndome boca arriba, no sin dar antes
 un sonoro culazo en el suelo. (p.59) <形>

とん 作品名：坊
 とぎれとぎれでとんと要領を得ない。(p.78)
 me llegaba tan a retazos que no logré cogerle el hilo
 para nada. (p.82) <副>

とん 作品名：坊
 とんと尻もちをつくのは、(p.55)
 dando un culazo. (p.59) <無視>

とん 作品名：坊
 とんとうすがわからないが、(p.95)
 así que no sabía de qué iba. (p.97) <無視>

どん 作品名：坊
 どんと腰をおろした。(p.105)
 se sentó con gravedad. (p.107) <副>

どん、どん、どん 作品名：坊
 二階が落ちこちるほどどん、どん、どんと拍子をとって
 床板を踏みならす音がした。(p.62)
 se oyó un ruido acompasada, como estuvieran
 pateando el suelo de madera casi para echarlo abajo
 sobre mí. (p.65) <無視>

とんと 作品名：斜陽
 トンと強く足踏みして(p.123)
 después de dar un fuerte golpe con el pie(p.102) <何とか>

とんと 作品名：斜陽
 上原さんは私の肩をとんとこぶしで叩いて(p.150)
 dándome un ligero golpe con el puño en el

hombro(p.123) <形>

どんどこ、どんのちゃんちきりん 作品名：坊
 どんどこ、どんのちゃんちきりん。(p.167)
 Pón porrompón, pón porrompón. (p.163) <オノ>

とんとん 作品名：羊
 作業靴の底で地面をとんとんと叩いた。(p.118(下))
 pateó repetidas veces el terreno con la suela de sus
 botas(p.253) <無視>

どんどん 作品名：幻影
 今や、もつれた糸がどんどんとけてゆくのである。(p.182)
 se aclaraba lo que había sucedido.(p.180) <何とか>

どんどん 作品名：台所
 そんな細い手足で、長い髪で、女の姿をして田辺くんの
 前をうろうろするから、田辺くんはどんどんずるくなっ
 てしまう。(p.100)
 Y cada vez se siente más inseguro porque coqueteas
 con él con esos brazos y piernas delgados y con tu pelo
 largo.(p.99) <動>

どんどん 作品名：台所
 瞳の奥にひそむとがったものが風にさらされて、どんど
 ん冷えてゆく気がした。(p.69)
 Sentía que algo punzante,oculto en el fondo de mis
 pupilas,iba enfriándose deprisa al ser expuesto al
 viento. (p.68) <動+無視>

どんどん 作品名：NP
 その間にもどんどん、家はすごいスピードで遠ざかって
 いった。(p.70)
 Mientras tanto, habíamos dejado mi casa atrás a una
 velocidad de vértigo.(p.64) <副>

どんどん 作品名：NP
 見た目はどんどん老けていくのに、・・(p.139)
 Exteriormente iba envejeciendo deprisa, pero,
 mientras...(p.117) <副>

どんどん 作品名：NP
 光る夜景がどんどん近づいてくるように思えた。(p.154)
 Me pareció que el panorama nocturno iluminado se
 acercaba más y más.(p.129) <副>

どんどん 作品名：砂
 砂はどんどん入りこんで来てしまいます(p.26)
 la arena se filtraría en gran cantidad de todos
 modos(p.30) <副>

どんどん 作品名：羊
 そしてその記憶はうらぶれた細胞みたいにどんどん遠ざ
 かっていくのだ。(p.25(下))
 Recuerdos que , a modo de células que han sido
 reemplazadas, se van alejando poco a poco(p.181) <副
 >

どんどん 作品名：幻影
 「・・・それも上からどんどん火を燃したものですか
 ら、・・・」(p.155)
 estaba muy chamuscado (p.159) <副+形>

どんどん 作品名：NP
 いかにどんどん、どんどん頭の中に入ってきて、本人
 によほどの弱点が無い限り追い出せる。(p.102)
 Aunque penetrara hasta la profundidades de la mente,
 a una persona que no tuviera graves problemas
 personales no le sería difícil liberarse de su
 influjo.(p.89) <無視>

どんどん 作品名：NP
 車がすごいスピードでどんどん通って行った。(p.124)
 Cada vez que se acercaba un camión las vibraciones
 llegaban hasta nosotros.(p.106) <無視>

どんどん 作品名：NP
 階段をどんどん上りながら並び暗いドアの向こうを一瞬
 強く想像した。(p.147)
 Mientras subía las escaleras tuve una visión intensa
 de lo que había tras la puerta oscura.(p.124) <無視>

どんどん 作品名：斜陽
 お母さまからどんどん生気を吸いとって太って行く
 (p.44)
 estoy engordando debido a que succiono la vitalidad de
 mamá(p.43) <無視>

どんどん 作品名：坊
 どんどん音がするのは(p.55)

si oía ese zambombazo(p.59) <名>

どんより 作品名：台所

ふと見上げた窓の外はどんよりしたグレーだった。(p.33)
...,alcé la vista hacia la ventana y,fuera,el cielo era gris
y sombrío.(p.36) <形>

どんより 作品名：羊

空はあいかわらずどんよりと曇っていた。(p.145(上))
y el cielo ,como ocurría a menudo,estaba cubierto de
nubes.(p.100) <動>

どんより 作品名：羊

空にはどんよりと重い鉛色の雲がたれこめていた。
(p.161(下))
sonbrías nubes de color plomo se enclaustraban por el
cielo.(p.284) <副>

どんよりと 作品名：台所

どんよりと暗いだけだ。(p.127)
Soló había una oscuridad sombría.(p.125) <形>

な

なみなみと 作品名：斜陽

お酒をなみなみといっぱい注いでくれて(p.137)
llenó mi vaso hasta el borde con sake(p.114) <副>

に

にこにこ 作品名：坊

おばあさんがにこにこして、(p.119)
la señora me vino muy sonriente: (p.119) <形>

にこにこ 作品名：NP

にこにこした見知らぬ人が立っていた。(p.64)
Me encontré frente a una mujer desconocida que
estaba sonriendo alegremente(p.60) <動>

にこにこ 作品名：台所

彼であるところの彼女は、にこにこしていた。(p.28)
Ella,que en realidad era él,estaba sonriendo.(p.31) <
動>

にこにこ 作品名：NP

しよっちゅう何か話しては、にこにここと微笑みあっていた。
(p.7)

Hablaban sin cesar y se sonreían
mutuamente.(p.12) <無視>

にこにこ 作品名：NP

咲は仕方なくにこにこ笑っていた。(p.84)
Saki sonreía con cara de circunstancias.(p.75) <無視>

にこにこ 作品名：NP

・ ・ というと、にこにこ笑った。(p.98)
...dije. Sui sonrió.(p.86) <無視>

にこにこして 作品名：台所

おばあさんは全然動じずに、にこにこして答えた。(p.48)
-contestó la abuela sonriendo,sin turbarse.(p.51) <動>

にこにこにこにこ 作品名：銀河

にこにこにこにこわらったよ。(p.200)
sonriendo,(p.48) <無視>

にたにた 作品名：NP

あ、と言った翠も、咲を見つけてきまり悪そうににたに
た笑ってみせた。(p.159)
Sui dijo:<<Eh?>>, y sonrió desconcertada al ver a
Saki.(p.133) <無視>

にっこり 作品名：斜陽

お母さまもにっこりお笑いになった(p.11)
ella esbozó una amplia sonrisa(p.15) <形+名>

にっこり 作品名：斜陽

私を見て、にっこりお笑いになったが(p.35)
Al verme sonrió(p.34) <動>

にっこり 作品名：羊

支配人はにっこりとした。(p.67(下))
El dueño se sonrió.(p.212) <動>

にっこり 作品名：NP

返事の代わりに、彼女がまたにっこりと笑った。(p.41)
Como respuesta, ella sonrió de nuevo.(p.41) <無視>

にやにや 作品名：銀河

にやにや笑って、(p.188)

sonriéndose a solas con picardía(p.38) <ミス>

にやにや 作品名：坊

やににやにや笑ってる。(p.28)

no disimulaba sus risitas maliciosas. (p.30) <形>

にやにや 作品名：坊

わざと顔をそむけてにやにやと笑った。(p.72)

eludiendo al mismo tiempo mi mirada, con una sonrisa repugnante. (p.77) <形>

にやにや 作品名：坊

「喜んでどころじゃない。大さわぎです」と野だはにやにやと笑った。(p.80)

- Contentos es poco. Están exultantes - confirmó “Histrión” con una sonrisita sarcástica.(p.84) <形>

にやにや 作品名：坊

うらなり君は、おれの言葉を聞いてにやにやと笑った。

(p.126)

“Cohombro” sonrió al escuchar mis palabras. (p.125) <無視>

にやり 作品名：羊

羊男はそう言ってにやりと得意そうに笑った。

(p.170(下))

El hombre carnero, al decir esto, sonreía fríamente, un tanto engreído.(p.291) <動+副>

にやり 作品名：地獄

(良秀は)あの年に似ず赤い唇でにやりと気味悪く笑いながら、(p.103)

con una sonrisa sarcástica en sus labios colorados(p.34) <名+形>

ぬ

ぬっ 作品名：坊

ぬっと立ちあがったから、(p.160)

se levantó de golpe. (p.156) <副>

ぬらぬら 作品名：坊

なんだかぬらぬらする。(p.65)

la mano me resbaló sobre la piel. (p.69) <動>

ぬるぬる 作品名：坊

つらまえた手はぬるぬるする。(p.75)

該当箇所なし(p.) <無視>

ね

ねちねち 作品名：坊

妙なところへこだわって、ねちねち押しよせてくる。

(p.147)

Se agarra a detalles nimios para irte dejando fuera de combate. (p.144) <ミス>

ねちねち 作品名：坊

ねちねちした猫なで声 (p.134)

la indecisa voz de gato (p.133) <形>

の

のそのそ 作品名：坊

のそのそあるきだした。(p.25)

eché a andar morosamente. (p.27) <副>

のっ 作品名：坊

月が温泉の山のうしろからのっ顔をだした。(p.205)

La luna remontaba tras la colina del balneario y por fin asomó la cara. (p.202) <無視>

のっしり 作品名：地獄

(御庭に引き据えた車が)高い車蓋にのっしりと暗を抑えて、(p.130)

La parte superior de la carraza ,que se encontraba en jardín,se perdía en la oscuridad(p.51) <何とか+無視>

のっそり 作品名：斜陽

また、新客がのっそりはいって来て(p.138)

aiguien nuevo tomaba su lugar con solo una leve inclinación de cabeza al señor Uehara(p.115) <無視>

のっぺり 作品名：羊

太陽はのっぺりとした大地の片方から上り、(p.31(下))

El sol se alzaba en un extremo de aquel anodino territorio,(p.186) <形>

のっぺり 作品名：羊

・・・テーブルのようにのっぺりとした広い台地に出た。

(p.123(下))

nos internamos en una llanura, monótona como una mesa.(p.256) <形>

のっぺり 作品名：羊

それはまるで大型のマッチ箱を縦に置いたみたいのっぺりとしていた。(p.17(下))

daba la impresión de ser una gran caja de cerillas pueta estúpidamente de pie(p.176) <副>

のびのび 作品名：坊

座敷のまんなかへのびのびと大の字に寝た。(p.36)

me despatarré en medio de la habitación como en un gran desperezo. (p.39) <副>

のろのろ 作品名：幻影

・・・或はのろのろと編物の太い針を動かしているかのどちらかで・・・(p.31)

tejiendo con unas enormes agujas(p.39) <形>

のろのろ 作品名：NP

・・・という、のろのろと靴を脱いで、・・・(p.53)

Entonces él empezó a quitarse los zapatos lentamente.(p.52) <副>

のろのろ 作品名：砂

のろのろと稜線にそって引き返して行った(p.20)

se alejó pausadamente a lo largo de la colina(p.25) <副>

のろのろ 作品名：砂

のろのろした動作で、その上に砂をもりあげながら(p.64) lentamente empezó a echarles arena(p.61) <副>

のろのろ 作品名：砂

のろのろと戸口のほうへ歩きはじめた(p.120)

empezó a caminar, tambaleante, hacia la puerta(p.109) <副>

のろのろ 作品名：斜陽

のろのろといただいているうちに(p.10)

Mientras comía con tal lentitud(p.15) <副>

のろのろ 作品名：斜陽

のろのろといただいているうちに編みつけてみたのだ

(p.57)

me puse a tejer despacio(p.51) <副>

のろのろ 作品名：幻影

・・・のろのろと安楽椅子を立ち上がらねばならなかった。(p.207)

該当箇所なし(p.) <無視>

のろのろ 作品名：砂

のろのろと手拭をしぼりながら、女が言った(p.72)

ella,mientras exprimía la toalla en la abollada palangana de latón ,preguntó(p.70) <無視>

のろのろ(ノロノロ) 作品名：幻影

つい先刻テレビ局の中継車までノロノロと人をかきわけて・・・(p.23)

la furgoneta del telediario, que se ha abierto paso entre la multitud para colocarse en el centro de la plaza(p.28) <無視>

のろのろと 作品名：台所

ぼかんと取り残された私はのろのろと対応するのに精一杯だ。(p.46)

Yo me he quedado atrás boquiabierta,lucho con todos mis fuerzas para ir alcanzándolas,a paso de tortuga.(p.48) <副>

のんびり 作品名：羊

芝生の上に寝転んでのんびりと体を焼いている人々の姿が小さく見えた。(p.79(上))

sobre cuyo césped se divisaban las minúsculas formas de las personas tendidas despreocupadamente para tostarse al sol.(p.52) <副>

は

はー 作品名：NP

「女でパー。」(p.101)

Apareció ella y ¡patapaf!(p.88) <オノ+何とか>

はあはあ(ハアハア) 作品名：幻影

駆けつけたばかりでまだハアハア息を切らしている田村管理人が提案した。(p.96)

jadeó la señorita Tamura(p.100) <動>

ばーん 作品名：台所

・・・と冷たく言い放ち、コツコツ音を立ててドアへ歩いていった。そして、ばーん、とドアをすごい音で閉めて、出ていった。(p.102)

-dijo con frialdad y se fue pisando con fuerza.Salió dando un portazo.(p.101) <無視>

はきはき 作品名：銀河

いま眼がさめたという風ではきはき談している声が(p.205)

con la voz un poco ronca como si se acabase de despetar.(p.54) <ミス>

はきはき 作品名：銀河

もうみんなともはきはき遊ばず(p.159)

no tengo ganas de jugar con los demás(p.14) <何とか>

はきはき 作品名：幻影

・・・意外とはきはきした声で、尋ね人の男の生年月日と名前をいった。(p.171)

Chikako habló con voz clara y firme,(p.172) <形>

ばさばさ 作品名：銀河

ばさばさのマントを(p.187)

la capa al viento(p.38) <何とか>

ばさばさ 作品名：地獄

(耳木兎が)その度にばさばさと、凄じく翼を鳴らすのが、(p.117)

En cada embestida batía las alas furiosamente.(p.43) <何とか>

バサバサ 作品名：羊

そんなものは何杯かの缶ビールとバサバサとしたハム・サンドウィッチが放り出してくれる。(p.135(上))

No podría enfrentarme al poder de unas latas de cerveza y un macizo bocadillo dejamón.(p.93) <形>

ばさばさ 作品名：羊

毛はすりきれたじゅうたんみたいにばさばさして、・・・(p.236(上))

Su pelaje era ralo, como de alfombra desgastada,(p.163) <形>

ばさばさ(バサバサ) 作品名：幻影

・・・油気の抜けきったバサバサ髪で、・・・(p.53)

una anciana de lacios pelos secos(p.59) <形>

ばさばさ(バサバサ) 作品名：幻影

・・・またバサバサの髪の毛はひどく乱れていた。(p.86) su cabello lacio y seco volaba al viento.(p.92) <形>

ばしゃばしゃ 作品名：台所

濡れて光る小路が虹色に映る中を、ばしゃばしゃ歩いていった。(p.13)

Caminé chapoteando,por el arco iris reflejado en el camino brillante y mojado.(p.17) <動>

ばたばた 作品名：歯車

そこへ誰かはしご段を慌しく昇って来たかと思うと、すぐにまたばたばた駆け下りて行った。(p.74)

En ese instante alguien subió precipitadamente la escalera y bajó con idéntica prisa.(p.86) <比>

ばたばた 作品名：羊

だから午前処齊祥ノは我々は何も考えずにばたばたと働いているか、・・・(p.86(上))

Por tanto,a las once de la mañana,o bien nos encontramos trabajando a todo tren,sin pensar en otra cosa,(p.57) <副>

ばたばた 作品名：台所

・・・廊下をばたばた走るスリッパの音や、(p.141)

..sobresaltada por el plis-plasde las zapatillas en el pasillo(p.139) <オノ>

ばたばた 作品名：羊

時計屋の店先の看板が半分はずれて、ばたばたと風に揺れていた。(p.93(下))

En lafachada de una relojería pedía medio caído su rótulo, que oscilaba al compás del viento.(p.233) <副>

ばたばた 作品名：羊

ばたばたと手をはたいた。(p.59(下))

se frotó las manos para desprenderse de las migajas(p.206) <無視>

ばたばた 作品名：羊

耳がばたばたと揺れた。(p.172(下))

Las olejas se le movieron.(p.292) <無視>

はたはたと 作品名：斜陽

立ってはたはたと手を打ち合わせて(p.135)
me levanté y, al sacudirme el polvo de las
manos(p.112) <無視>

ばたりばたり 作品名：銀河

たくさんの輪転機がばたりばたりとまわり(p.161)
Muchas prensas rotativas giraban y giraban con
incesante golpeteo(p.16) <副>

ばたん 作品名：羊

そして後ろ手にばたんとドアを閉めた。(p.157(下))
Se marchó y cerró la puerta de golpe.(p.281) <動>

ばたんと 作品名：台所

帰ってばたんと寝るとみかげが電話で泣いて怒る夢を見
るんだ。」(p.88)

Al llegar a casa,me tumbo en la cama y sueño que
Mikage llora, enfadada conmigo.(p.89) <無視>

ばたんばたん 作品名：斜陽

ばたんばたと音をたてて(p.112)
golpeaban con fuerza(p.93) <何とか>

ばち 作品名：坊

目をばちつかせて(p.31)
parpadeó con sus ojos (p.33) <動>

ばち 作品名：斜陽

パチと電燈に灯を入れて(p.53)
encendió la luz(p.48) <無視>

ばち 作品名：斜陽

部屋の隅のスイッチをパチとひねった(p.151)
encendió la luz(p.124) <無視>

ばち 作品名：坊

扇子をばちつかせて、(p.33)
se traía un tableteo de no parar con el abanico.
(p.36) <名>

ばちばち 作品名：坊

目をばちばちさせた。(p.66)
se quedó bizqueando. (p.70) <ミス>

ばちばち 作品名：羊

タバコの先端がばちばちと乾いた音を立てた。(p.31(上))
La punta del cigarrillo crepitaba con un ruido
seco,(p.22) <形>

ばちばち 作品名：羊

タイヤのまきあげる砂利がばちばちと乾いた音を立てた。
(p.98(下))
La gravilla de la carretera crepitaba al ser levantaba
por las ruedas.(p.237) <動>

ばちばち 作品名：羊

車の窓ガラスに細かい砂があたってばちばちと音を立て
た。(p.118(下))

En los cristales del jeep repiqueteaba la arenilla
levantada por el viento.(p.253) <動>

ばちばち 作品名：羊

長椅子に寝転んでばちばちという音を立てる古いレコー
ドを何枚か聴きつづけた。(p.139(下))
rebandigado en el sofá ,estuve escuchando viejos discos
rayados:(p.269) <動>

ばちばち 作品名：坊

思わず手をばちばちと打った。(p.160)
antes de pensarlo, ya le estaba aplaudiendo
sonoramente. (p.156) <副>

ばちばち(パチパチ) 作品名：幻影

・・・すぐ手近のスイッチを一、二度パチパチつけたり
消したりすると、・・・(p.84)

haciendo una breve pausa en cada interruptor(p.89) <
形>

ばちばちと 作品名：NP

ばちばちと火の粉がはせて、浜が白く照らされた。(p.211)
Las chispas centelleaban chisporroteando y una
claridad blanca iluminó la playa.(p.177) <動>

ばちん 作品名：羊

ばちんという気持ちの良い金具の音がした。(p.162(上))
emitió un ruido metálico -!clie!-la mar de
agradable.(p.111) <オノ>

ばちん 作品名：羊

しばらくたってからばちんという小さな音がして電灯が
点き、(p.131(下))

Tras unos momentos, se oyó un tenue clic y se encendió
la luz.(p.263) <オノ>

ばちん(パチン) 作品名：幻影

パチンと音がして旅行鞆の蓋が開き、・・・(p.14)

la maleta se abrió.(p.16) <無視>

はっ 作品名：坊

正気にかえて、はっと思うとたんに、(p.65)

Al recobrar la conciencia soltando un “¡Ah!”, (p.69) <オノ>

はっ 作品名：坊

はっと思って (p.147)

me di un golpe en la frente, (p.144) <全体>

ばっ 作品名：銀河

ばっ胸がつめたくなり、(p.166)

Se quedó paralizado(p.20) <形>

ばっ 作品名：羊

「でも人物のほうはあまりぱっとしない女の子だ
よ。・・・」(p.51(上))

Pero, en cuanto a la modelo, la chica no es nada del otro
mundo. (p.35) <形>

ばっ 作品名：羊

「あまりぱっとしないね」(p.37(下))

Así así(p.190) <全体>

ばっ 作品名：坊

毛布をぱっとうしろへほうと、(p.55)

eché atrás la manta sacudiéndola. (p.60) <動>

ばっ 作品名：羊

僕にとってはあまりぱっとしない春だった。(p.134(上))

aquella primavera no me resultaba alegre.(p.92) <動>

ばっ 作品名：羊

「彼女はカメラマンが忠告してくれたとおりたしかにあ
まりぱっとしない女の子だった。」(p.52(上))

Tal como me había advertido el fotografo, no era una

mujer despampanante. (p.36) <副>

ばっ 作品名：銀河

いきなり眼の前がぱっと明るくなって、(p.172)

En ese preciso momento todo se iluminó(p.25) <無視>

ばっ 作品名：銀河

車のなかで、ぱっと白く明るくなりました。(p.177)

el interior de vagón se iluminó con una luz
blanca.(p.29) <無視>

ばっ 作品名：銀河

ぱっとかかりが射してきました。(p.187)

les llegaron los rayos de luz (p.38) <無視>

はっきり 作品名：銀河

いつともなく誰ともなくその歌は歌い出されだんだんは
っきりつよくなりました。(p.201)

sin que nadie supiera ni cómo ni cuando, el himno fue
tomando cuerpo(p.49) <何とか>

はっきり 作品名：幻影

「・・・はっきりしているじゃありませんか。・・・」(p.139)

la brigada de incendios realizó una investigación
exhaustiva y llegó a la conclusión de que...(p.142) <何
とか>

はっきり 作品名：NP

振り向くと彼は、まるでもう眠くないようなはっきりと
した顔をしてこちらを見ていた。(p.59)

Cuando me di la vuelta, vi que me estaba mirando con
la cara completamente desvelada, sin rastro de
sueño.(p.56) <形>

はっきり 作品名：NP

日常から離れたリズムでびたりと止まって、車とそして
たまに行きかう人々を眺めていると、世の中が異様には
っきり見えた。(p.125)

Al detenerse el ritmo habitual de la vida cotidiana y
entrar en un mundo totalmente distinto, todo aparecía
extrañamente claro.(p.106) <形>

はっきり 作品名：銀河

だんだん濃く黒くはっきりなって(p.165)

se fue haciendo más oscura y definida.(p.20) <形>

はっきり 作品名：銀河

それはだんだんはっきりして、(p.171)

Poco a poco tomó una forma más definida(p.25) <形>

はっきり 作品名：幻影

・・・寿和にはその背後に一つの意図が隠され、それがはっきりと自分を狙っているように思える。(p.71)

Era evidente que estaba dirigido a ella.(p.79) <形>

はっきり 作品名：幻影

「ジョージの死さえはっきりいたしますれば、・・・」
(p.177)

Si pudiera estar segura de la muerte de George,(p.176) <形>

はっきり 作品名：砂

事態がはっきりしさえすれば(p.52)

una vez aclarada la situación(p.52) <形>

はっきり 作品名：歯車

僕にははっきりと言えないけれど、・・・電気の両極に似ているのかな。(p.72)

No puedo decírtelo bien...pero es algo así como los dos polos opuestos de la electricidad.(p.84) <形(ややニュアンスが異なる)>

はっきり 作品名：幻影

・・・宗形豊子の部屋に入ってみたいという欲望が、彼女の内部ではっきりと形をとりはじめていた。(p.44)

una idea predominó sobre las otras(p.49) <動>

はっきり 作品名：幻影

彼女にはそのときの情景が一つ一つはっきりと思い出せた。(p.99)

Recordó lo que había pasado entonces, revivió cada instante,(p.103) <動>

はっきり 作品名：幻影

よね子はそのかくれた意図が建物移動の日に、はっきりとしたものとなって自分の前に現れるだろうと思った。
(p.187)

esta conjura fructificaría ante sus ojos.(p.184) <動>

はっきり 作品名：銀河

その声もはっきり聞えました。(p.203)

Su voz se oyó claramente.(p.52) <副>

はっきり 作品名：幻影

・・・はっきりと信じたのである。(p.183)

Sí, sin duda el secuestrador era el hombre...(p.181) <副>

はっきり 作品名：砂

はっきり区別することができる(p.14)

se pueden distinguir claramente una de otra(p.19) <副>

はっきり 作品名：砂

はっきりした声が、緊張を破った(p.31)

sonaba claramente la voz que había roto la tensión(p.34) <副>

はっきり 作品名：歯車

蛆はこういう僕の記憶に忽ちはっきり浮かび出した。
(p.36)

El gusano se presentó nitidamente en mi recuerdo(p.61) <副>

はっきり 作品名：失格

いいえ、はっきり言います。(p.119)

No,voy a decir las cosas claras.(p.112) <副>

はっきり 作品名：斜陽

はっきりあなたにお知らせする筈でございます(p.98)

mi rostro le contará con claridad(p.82) <副>

はっきり 作品名：NP

幽体離脱みたいに、心だけがはっきり、ふうっと起き上がったようでもあった。(p.180)

Era como si mi espíritu fuera elevándose, flotando, como cuando el alma se separa del cuerpo.(p.148) <無視>

はっきり 作品名：銀河

立って見るともうはっきりとそれを答えることができないのでした。(p.157)

así que estuvo de pie no supo cómo responder.(p.13) <無視>

はっきり 作品名：銀河

見きわめようとしたが、はじめはどうしてもそれがはっきりしませんでした。(p.174)

para ver toda el agua de la Vía Láctea. Al principio no lo consiguió(p.27) <無視>

はっきり 作品名：幻影

・・・夢の中ではっきりと感じていた。(p.34)

Mientras soñaba, (p.42) <無視>

はっきり 作品名：幻影

・・・はっきりともう朝だということがわかった。(p.64)

該当箇所なし(p.) <無視>

はっきり 作品名：幻影

彼女にはすべてがはっきりと理解できた。(p.100)

cuando comprendió, por fin, el sentido último de lo que había dicho en francés(p.103) <無視>

はっきり 作品名：幻影

「・・・その方の名前を一人々々はっきり云っていただきましょう。」(p.138)

¡Díganos sus nombres!(p.140) <無視>

はっきり 作品名：幻影

・・・このときよね子の心にはっきりと一つの意志が生れたのだった。(p.178)

de pronto, Yoneko comprendió que...(p.177) <無視>

はっきり 作品名：砂

はっきり感じとれるにちがいない(p.92)

podía entender de inmediato lo que había pasado(p.87) <無視>

はっきり 作品名：斜陽

いつと、はっきりわからぬくらいであった(p.129)

No me había dado cuenta del momento en que dejé de hacerlo(p.107) <無視>

はっきり 作品名：銀河

新世界交響楽はいよいよはっきり地平線のはてから湧き(p.206)

De más allá del horizonte les llegó la “ Sinfonía del Nuevo Mundo ” con creciente nitidez.(p.55) <名>

はっきりと 作品名：NP

そのことに、はっきりと気づいた。(p.155)

Lo comprendí claramente.(p.130) <副>

はっきりと 作品名：NP

「・・・だから、何もはっきりと決断できなかった。」(p.184)

Por ese motivo no decidimos nada de momento.(p.152) <無視>

はっきりと 作品名：NP

すぐにはっきりとわかった。(p.201)

Y comprendí de inmediato qué debía hacer.(p.168) <無視>

ばったり 作品名：NP

こうやってばったり会うまでの双方を、ずっと子供のころから見てきたような錯覚にとらわれた。(p.159)

Hacía poco que las conocía pero, hasta el inesperado encuentro de unos instantes atrás, estaba presa de la ilusión de que las conocía desde la infancia.(p.134) <形>

ばったり 作品名：NP

そして、坂の途中で乙彦にばったり会った。(p.17)

E, inesperadamente, me topé con Otohiko en la mitad de la cuesta.(p.23) <副>

ばったり 作品名：NP

今までなんでばったり会うことがなかったんだろう。(p.162)

Me pregunto por qué no nos habíamos encontrado hasta ahora, ni siquiera por casualidad.(p.135) <副>

ばったり 作品名：羊

・・・それが終わると仕事はばったりと途絶えた。(p.86(上))

cuando lo terminamos,nuestra actividad quedó bruscamente reducida al mínimo.(p.58) <副>

ばったり 作品名：地獄

ばったりあの娘の奄あなくなっていました。(p.121)

Cuando esta versión se generalizó, ya nadie habló más de ella.(p.45) <無視>

ばっちり 作品名：銀河

にわかに男の子がぱっちり眼をあいて(p.199)
De repente, el niño abriómucho los ojos.(p.48) <副>

ぱっちりと 作品名：NP
その朝私は、突然ぱっちりと目覚めた。(p.15)
Aquella mañana me desperté de repente.(p.21) <無視>

ぱっちりと 作品名：NP
突然ぱっちりと目を開け、かすかに唇のはしをあげて翠は言った。(p.173)
De repente, abrió los ojos y, alzando las comisuras de los labios en una expresión que parecía feliz,dijo...(p.144) <無視>

はっと 作品名：斜陽
言ってしまうて、はっとして、まの悪い思いで(p.60)
Sorprendida por mis palabras(p.53) <形>

はっと 作品名：斜陽
わたしは、はっとした(p.64)
Me dejó sorprendida(p.56) <形>

はっと 作品名：NP
はっと目を見開いて、翠は私の思考のエネルギーを受け取ったような撫薫□た。(p.181)
Abrió los ojos con sorpresa y, por la expresión de su rostro, comprendí que había recibido la energía de mi pensamiento.(p.149) <副>

ぱっと 作品名：NP
・・・といって彼女はぱっと笑った。(p.117)
...dijo Sui, con una sonrisa repentina.(p.101) <ミス>

ぱっと 作品名：NP
ところが洗われるような、ぱっと魅かれる笑顔だった。(p.41)
Fue una sonrisa dulce que hizo que me sintiera perificada y en paz.(p.41) <何とか>

ぱっと 作品名：地獄
火の粉が一しきり、ぱっと空へ上がったかと思う中に、(p.136)
el fuego estalló en sonora lluvia de chispas(p.54) <動>

ぱっと 作品名：斜陽

ぱっと紅葉よりも赤くなりました(p.86)
el rostro oscuro del artista se ruborizó violentamente(p.74) <副>

ぱっと 作品名：台所
「よし、ぱっとやりましょう。(p.77)
-De acuerdo.Lo haremos a lo grande.(p.77) <副>

ぱっと 作品名：NP
・・・と歩いていって見ると、ぱっと明るい感じの女の人
がいた。(p.40)
Fui hacia allí y encontré a una mujer joven de aspecto alegre.(p.41) <無視>

ぱっと 作品名：NP
突然ぱっと明るく開けた池のほとりに出た。(p.75)
..desembocamos en un espacio amplio y luminoso en cuyo centro estaba el estanque.(p.67) <無視>

ぱっと 作品名：台所
えりこさんはぱっと笑顔になって、(p.68)
Ella se rió..(p.67) <無視>

ぱっと 作品名：台所
彼女は怒りでぱっと赤くなり、言った。(p.99)
Ella se puso roja de ira,(p.98) <無視>

ぱっと 作品名：台所
濡れた足に風がじんじんしみた頃、部屋の明かりが突然ぱっとついて、(p.134)
Cuando el viento se infiltraba ya en mis pies mojados,se encendió la luz.(p.133) <無視>

はっと(ハツと) 作品名：失格
ハツとしました。(p.104)
dijo sobresaltada.(p.96) <ミス>

ぱっぱっ(パッパッ) 作品名：幻影
・・・本の背をパッパッとはらって、中の題名を覗いたのである。(p.130)
該当箇所なし(p.133) <無視>

はははは(ハハハハ) 作品名：坊
二人はハハハハと笑いながら、ガス灯の下をくぐって、角屋の中へはいった。(p.206)

Riéndose, los dos de la calle pasaron bajo la luz de gas y entraron en Kado-ya. (p.203) <無視>

はははは (ハハハハ) 作品名：坊
ハハハハと笑ったら (p.28)
estallé en carcajadas. (p.29) <名+動>

ははははは (ハハハハハ) 作品名：坊
「天麩羅.....ハハハハハ。」 (p.78)
- ¿Tempura? ¡Ja, ja, ja! (p.82) <オノ>

はらはら 作品名：斜陽
はらはらしながら見ていたんです(p.38)
desde que llegaron las he estado viendo jugar a casa de muñecas(p.37) <比喩+何とか>

はらはら 作品名：斜陽
はらはらしてそうたずねた。(p.9)
se lo pregunté con inquietud(p.14) <副>

ばらばら 作品名：NP
私の意識はばらばらになってしまった。(p.119)
Sentí vértigo.(p.102) <形>

ばらばら 作品名：NP
彼は今、ばらばらだった。(p.209)
Y ahora él estaba destrozado.(p.176) <形>

ばらばら 作品名：砂
人生はそんな、ばらばらな紙切れなんかではないはずだ (p.123)
la vida humana no deben ser esos papeles sueltos(p.112) <形>

ばらばら 作品名：砂
ばらばらだった意識が、おもむろに形をととのえてくる (p.151)
su conciencia dispersa comenzó a articularse(p.134) <形>

ばらばら 作品名：砂
ばらばらになってしまった生活だ(p.155)
es una porción de una vida desarticulada(p.138) <形>

ばらばら 作品名：羊

・・・羊はピクニックの昼食どきみたいな感じでばらばらに散らばっていたので・・・(p.103(上))

y los carneros se encontraban dispersos por ella, como si fueran grupos de excursionistas a la hora de almorzar(p.72) <形>

ばらばら 作品名：地獄
朱塗りのような袖格子が、ばらばらと焼け落ちる中に、 (p.135)
entre las maderas ardientes(p.54) <無視>

ばらばら 作品名：羊
僕は何冊か手にとってばらばらと眺めてみたが、 (p.134(下))
hojeé unos cuantos volúmenes.(p.265) <動>

ばらばら 作品名：羊
羊男は暖炉の前に立って棚の上のトランプをばらばらとめくった。(p.153(下))
El hombre carnero ,de pie ante la chimenea,sepuso a juguentear con la baraja que había sobre la repisa.(p.279) <動>

ばらばら 作品名：羊
ばらばらと読むともなくページをめくっていくと、 (p.175(下))
Mientras hojeaba ,más que leía, el libro,(p.294) <動>

ばらばら 作品名：斜陽
ばらばらと綺麗に解きほぐれる糸口が(p.84)
he llegado a un punto donde todo parece resolverse como por encanto(p.72) <副>

ばらばら 作品名：羊
僕は「諸口鬮の歴史」のページをばらばらと繰った。(p.88(下))
pasé ruidosamente las páginas dela Historia de la ciudad Junitaki (p.229) <副>

ばらばら (バラバラ) 作品名：台所
小さな蛍光灯に照らされて、しんと出番を待つ食器類、光るグラス。ちょっと見ると全くバラバラでも、妙に品のいいものばかりだった。(p.15)
El pequeño fluorescente iluminaba los vasos de cristal brillantes y los cacharros que aguardaban

silenciosamente su turno. Estos objetos, a pesar de no ser uniformes, tenían una elegancia extraña. (p.19) <形>

ばらばら (バラバラ) 作品名：台所

・・・、バラバラだった体と心がやっとひとつに戻るような気がした。(p.135)

..y me dio sensación de que, por fin, se unían de nuevo mi cuerpo y mi alma. (p.134) <無視>

ばらばら (バラバラ) 作品名：幻影

・・・パンフレットをバラバラとめくったりするが、・・・ (p.32)

volvió las páginas del panfleto con interés aparente (p.40) <ミス>

ばらばら (バラバラ) 作品名：幻影

・・・前の方の古い年度の所をバラバラとめくってみたのである。(p.180)

volvió rápidamente las páginas hacia atrás (p.178) <副>

はらり 作品名：地獄

(良秀の娘が)紫匂の袷の袖を軽そうにはらりと開きますと、(p.98)

con la otra abrió rápidamente la manga del uchigi de color violeta (p.30) <副+ミス>

ばらりばらり 作品名：NP

姉は、ばらりばらりと水滴が落ちるような規則正しきでページをめくっていた。(p.25)

Pasaba las páginas con un ritmo regular, cual gotas de agua que fueran cayendo una tras otra. (p.28) <ミス>

ぱりっ 作品名：羊

ピーナツの殻を片手で割るとぱりっという気持の良い音がした。(p.227(下))

Con la mano izquierda rompía la cáscara de los cacahuets, que emitían un agradable crujido. (p.327) <形+名>

ぱりぱり 作品名：砂

ぱりぱり乾いた糊をはがすような音をたてはじめる (p.85)

su piel parecía researse como un pedazo de

papel (p.81) <動>

ぱりぱり 作品名：台所

きつと、ぱりぱり私を引っ張りまわして新しいアパートを決めさせたり、(p.37)

...seguro que me sacaría a rastras, obligándome a buscar otro apartamento. (p.40) <無視>

ぱりぱり 作品名：羊

ポケットに入れた封筒からぱりぱりの一万円札を出して (p.219(上))

(p.saque/ del sobre que llevaba en li bolsillo un framante billete de diez mil yenes) <形>

はるばる 作品名：坊

はるばるこんな田舎へくるもんか。(p.30)

iba a venir de muy lejos a sepultarse en aquel pueblucho (p.32) <副>

ばん 作品名：羊

羊男は立ち上がって右の手のひらでテーブルをばんと叩いた。(p.152(下))

El hombre carnero se incorporó y golpeó una mesa con la palma de su mano derecha. (p.277) <動>

ばんばん 作品名：羊

羊博士は机の上から写真を取り上げて指でばんばんと叩いた。(p.61(下))

El profesor Ovino tomó la fotografía de encima de la mesa, y dijo, golpeándola con los dedos. (p.208) <動>

ばんばん 作品名：羊

・・・ばんばんと腰のところを払ってからズボンのパッチ・ポケットにつっこんだ。(p.102(下))

Tras sacudírselos a golpes en los costados. (p.241) <動>

ばんばん 作品名：羊

羊男は脱いだ登山靴を両手に持って、なれた手つきでばんばんと叩きあわせた。(p.148(下))

golpeó hábilmente ambas botas, la una contra la otra. (p.275) <動>

ひー

ひー (ヒー) 作品名：幻影

歯のすきまから、「ヒー、ヒー。」という笑い声にも似た不気味な声とどぎれがちに洩れたのである。(p.152)
¡Eh, eh, eh, eh!(p.156) <オノ>

ヒー(ヒー) 作品名：幻影
「巫女様が、ヒー、ヒーって、霊が乗り移ったときいつてたでしょ。・・・」(p.154)
aquel eh, eh, eh, era una voz del mundo de los espíritus.(p.158) <オノ>

びいびい 作品名：NP
泥水の中でびいびい泣く捨て猫のように、邪悪で根源的な生命の力。(p.165)
La fuerza vital, perversa y primaria de un gato abandonado que maúlla en el agua fangosa.(p.138) <無視>

びかっ(ピカッ) 作品名：幻影
・・・窓の外で一瞬ピカッと光るものがあった。(p.164)
brilló súbitamente sobre algo que había en el vano de la ventana.(p.166) <副>

びかっ(ピカッ) 作品名：銀河
なにかの道具が、ピカッと光ったりしました。(p.180)
aluguna herramienta lanzaba un destello.(p.32) <無視>

びかっ 作品名：NP
ときどきびかっとき空が光った。(p.91)
De vez en cuando , un relámpago surcaba el cielo.(p.81) <ミス>

びかびか 作品名：坊
いっしょに高知のびかびか踊りを見てさ、(p.196)
estuvimos viendo juntos aquella deslumbrante danza de las espadas de Kochi, (p.195) <形>

びかびか 作品名：銀河
びかびか青びかりを出す小さな虫(p.170)
unos insectos mostraban su brillo azulado(p.24) <無視>

びかびか 作品名：台所
雄一の笑顔はびかびか光り、(p.140)
La cara sonriente de Yuichi brillaba,(p.139) <無視>

びかびか 作品名：坊
この拍子に応じて三署 1 の抜き身がびかびかと光るのだが、(p.183)

Al compás de este ritmo, las espadas desnudas de los treinta bailarines lanzaban sus destellos.(p.181) <名>

びく 作品名：坊
鮪の二匹や三匹釣ったって、びくともするもんか。(p.70)
No pensaba inmutarme ni aunque pescaba dos o tres buenos atunes. (p.74) <動>

びく 作品名：坊
生きてるものでなくちゃ、こうびくつくわけがない。(p.75)
Si no fuera un ser vivo no daría estos tirones. (p.79) <名>

びくつと 作品名：失格
びくつとして、(p.118)
tenía un sobresalto(p.111) <名>

びくびく 作品名：幻影
・・・毎日びくびく恐れながら部屋に籠っていた。(p.106)
Suwa regresó a su habitación pero pasó mucho tiempo antes de que pudiera sobreponerse al terror(p.110) <何とか>

びくびく 作品名：幻影
びくびくするからいけないのだ。(p.160)
lo último que haría sería asumir un aspecto culpable.(p.163) <全体>

びくびく 作品名：砂
びくびくすることはないって言ってるだろう！(p.61)
¡ Le estoy diciendo que no hay nada que temer!(p.58) <動>

びくびく 作品名：地獄
御眉のあたりにはびくびくと電が走っております。(p.128)
Su frente contraída por los nervios(p.49) <動+比>

びくびく 作品名：銀河
別に怒ったでもなく、頬をびくびくしながら返事しまし

た。(p.184)

contestó un poco nervioso, aunque no parecía enfadado(p.35) <ミス>

びくびく 作品名：砂

手足をびくびく、ふるわせている(p.87)

a juzgar por los breves movimientos nerviosos de sus manos y sus pies(p.83) <何とか>

びくびく 作品名：坊

なんだかびくびくと糸にあたるものがある。(p.75)

algo se enganchó en mi sedal y le dio tirones. (p.79) <名>

びくり 作品名：羊

・・・腕時計をはずしているあいだ、彼女はびくりとも動かなかった。(p.27(上))

ella no se movió.(p.19) <動>

びくり 作品名：羊

羊はびくりと身を震わせただけで逃げなかった。(p.101(下))

Se estremeció ,pero no huyó de mí.(p.240) <動>

びくり 作品名：羊

彼はその姿勢のままびくりとも動かなかった。(p.87(上))

continuaba en la posición inicial,sin moverse ni un milímetro.(p.59) <副>

びくり 作品名：羊

視線だけがびくりとも動かなかった。(p.90(上))

Pero la mirada del hombre no se desplazó ni un ápice.(p.61) <副>

びくり 作品名：羊

そのあいだ視線はびくりとも動かなかった。(p.167(上))

Entretanto,su mirada no se movió ni un milímetro.(p.113) <副>

びくり 作品名：羊

一度決めた姿勢をびくりとも変えずに(p.87(下))

permanecía inmóvil ,sin alterar ni un milímetro su postura(p.228) <副>

びくり(ピクリ) 作品名：幻影

彼は踊り場の上で方をピクリと震わせると・・・(p.13)

se encogió de hombros(p.15) <動>

ひしひし 作品名：砂

監禁されたという実感をひしひしと感じさせるのは、あの小さな覗き窓だという(p.141)

dicen que es la mirilla lo que hace sentir su encierro al prisionero(p.127) <無視>

ひしひし 作品名：藪

いくら身悶えしても、体中にかかった縄目は、一層ひしひしと食い入るだけです。(p.175)

Cuanto más se empeñaba en liberarse,más se hundía la soga en su cuerpo.(p.16) <無視>

びしびし 作品名：斜陽

そのひとだけには、びしびし叱られた(p.38)

La única persona que me recrimió fue la señora Nishiyama(p.36) <無視>

びしゃあん 作品名：銀河

びしゃあんという濡れたような音が(p.203)

Un sonido agudo (p.52) <形>

びしゃっと 作品名：台所

・・・、足がびしゃっとつかった。(p.133)

..y acabé metiendo los pies en un charco sucio de agua de lluvia.(p.132) <無視>

びしゃびしゃ 作品名：羊

・・・時折びしゃびしゃと水のはねる音がどこからともなく聞こえてくるだけだった。(p.44(上))

de voz en cuando por algún borboteo del agua que no parecía venir de ninguna parte.(p.27) <名>

びしゃり 作品名：砂

シャツを勢いよくふりまわして、びしゃりと手首にまきつけた(p.57)

se la enredo firmemente en su muñeca(p.55) <動+副>

びしょびしょ 作品名：幻影

部屋の中も、ホースの水で一面びしょびしょに濡れ、・・・(p.106)

El interior del cuarto de Noriko era un pantano de basura incinerada por cuya superficie flotaba, aquí y

allá(p.109) <全体>

びしり 作品名：羊

そして札入れからとした手の切れそうな名刺を取り出し、
(p.89(上))

sacó desu cartera una tarjeta de visita, de cartulina tan fina que parecía capaz de cortar la piel de quien la cogiera(p.61) <何とか>

びしり 作品名：羊

時々遠くでびしりという鋭い音がした。(p.212(下))

De vez en cuando llegaba un agudo gemido desde la lejanía.(p.319) <名+形>

ひそひそ 作品名：銀河

何かひそひそ談しているのです。(p.219)

hablaban en voz baja(p.68) <副>

ひそひそ 作品名：幻影

・・・その場でひとひそと囁き合ったが、・・・(p.132)

該当箇所なし(p.135) <無視>

びたっ 作品名：銀河

インデアンはびたっ立ちどまって(p.206)

se paró tan en saco(p.55) <副>

びたっ 作品名：銀河

びたっ押さえちまう(p.185)

las atrapo(p.36) <無視>

びたっ 作品名：銀河

びたっと鳥の群は通らなくなり(p.203)

cesaron de cruzar las bandadas.(p.52) <無視>

ひたと 作品名：斜陽

掌をひたとお合わせになった(p.127)

juntó las manos (p.106) <無視>

ひたり 作品名：斜陽

ひたりと寄り添い(p.133)

me dejé caer hacia la puerta, acariciando con las manos la celosía de madera(p.111) <動+ミス>

びたり 作品名：坊

同時に列はびたりととまる。(p.173)

mientras las filas paraban su avance en el acto.

(p.171) <副>

びたり(ピタリ) 作品名：幻影

「・・・教祖様はきっとピタリとお当てになりますよ。・・・」

(p.144)

no dudo de que entonces nos dirá dónde está(p.145) <全体>

びたりと 作品名：NP

日常から離れたリズムでびたりと止まって、車とそしてたまに行きかう人々を眺めていると、世の中が異様にはつきり見えた。(p.125)

Al detenerse el ritmo habitual de la vida cotidiana y entrar en un mundo totalmente distinto, todo aparecía extrañamente claro.(p.106) <無視>

びちっ(ピチッ) 作品名：幻影

・・・その音は直ぐにしぼられ、果てはピチッとスイッチまで消されてしまう。(p.145)

estos ruidos también se acallaron hasta que se hizo tal silencio que podía oírse cómo se apagaban los interruptores de la luz.(p.149) <全体>

びちびちの 作品名：NP

びちびちの女子高生と付き合ってるくせに人生に希望のひとつも持てなかった庄司さん。(p.195)

Aquella por la cual Shoji no alcanzaba a tener ni una sola ilusión en la vida, aun estando junto a una estudiante de bachillerato que rebosaba vitalidad.(p.162) <動>

びっくり 作品名：斜陽

びっくりするほど、はき心地がよく(p.40)

me sorprendió mucho lo confortables que eran(p.40) <何とか>

びっくり 作品名：NP

自分の薄情さにびっくりしたと共に、・・・(p.189)

Yo misma estaba atónita ante mi indiferencia.(p.157) <形>

びっくり 作品名：銀河

ひどくびっくりしたような顔をして(p.193)

Parecía muy asustado;(p.43) <形>

びっくり 作品名：銀河

ほんとうにびっくりしたらしく(p.198)

realmente sorprendido,(p.47) <形>

びっくり 作品名：NP

寝ているかと思ったので、びっくりした。(p.59)

Mé sobresalté creía que estaba durmiendo.(p.56) <動>

びっくり 作品名：NP

私は叫び、その声は小さいガレージにびっくりするほど大きく響いた。(p.94)

...grité, y mi voz resobó en el pequeño garaje hasta casi asustarme.(p.83) <動>

びっくり 作品名：NP

翠が突然言い、私はびっくりした。(p.152)

...dijo Sui de imprevisto. Me había cogido por sorpresa.(p.128) <動>

びっくり 作品名：砂

眼が、びっくりしたように見開かれた(p.84)

los ojos de la mujer se abrieron con asombro(p.80) <副>

びっくり 作品名：斜陽

(顔が)びっくりするほど蒼かった(p.35)

pero estaba terriblemente pálida(p.34) <副>

びっくり 作品名：銀河

ひとの切符をびっくりしたように横目で見て(p.192)

echaba miradas de sorpresa al billete de otra gente (p.42) <名>

びっくりして 作品名：NP

私はびっくりして言った。(p.212)

...dije con sorpresa.(p.178) <副>

ひっそり 作品名：砂

いやにひっそりしているのが、なんとも不思議な感じだ (p.67)

la extraña quietud con que se producía formaba (p.63) <何とか>

ひっそり 作品名：砂

近づくにつれて、ひっそりとなる(p.153)

callaban al acercarse(p.136) <何とか>

ひっそり 作品名：NP

・私はひっそりと白い箱のようなその空間で、機械にカードを差し込んで操作を始めた。(p.62)

..y yo, en aquel espacio silencioso parecido a una gran caja blanca, introduje mi tarjeta en la m'aquina e inicié la operación.(p.59) <形>

ひっそり 作品名：砂

ひっそりと、芋の皮をむきはじめた女の姿を、横目で追いながら(p.61)

siguió observando a la mujer que , silenciosa,empezo a pelar las patatas(p.59) <形>

ひっそり 作品名：羊

・・・全体とすれば交通量はごくひっそりとしたものだった。(p.90(下))

el volmen de tráfico era muy descaso(p.231) <形>

ひっそり 作品名：斜陽

柳やは、ひっそりしていた(p.136)

No había un alma(p.113) <全体>

ひっそり 作品名：砂

小さな家が一軒、ひっそりと沈んでいた(p.18)

había una pequeña casa sumergida en el silencio(p.23) <比>

ひっそり 作品名：砂

ひっそりと放尿の音がはじまった(p.120)

se escuchaba el suave murmullo de la orina (p.109) <比>

ひっそり 作品名：幻影

・・・ひっそりと暮している老女達が時たま漏らす吐息が廊下を流れ・・・(p.27)

las viejas pasan sus días en silencio, mirando en una quietud insoportable los fragmentos de los sueños de la juventud(p.32) <副>

ひっそり 作品名：齒車

同時にまた右の松林はひっそりと枝をかわしたまま、丁度細かい切子硝子を透かして見るようになりはじめた。

(p.74)

Al crecer en cantidad ,los engranajes giraban locamente, en tanto que a mi derecha las ramas de los pinos silenciosamente entretejidas se me aparedan como si las viera a través de un cristal muy facetado.(p.85) <副>

ひっそり 作品名：斜陽

ひっそりお酒を飲んで(p.76)

tomando sake tranquilamente (p.65) <副>

ひっそり 作品名：地獄

人の争っているらしいけはいが、慌しく、又妙にひっそりと私の耳を脅かしました。(p.122)

vinieron a mis oídos unos ruidos ligeros como de personas que lucharan en silencio.(p.46) <副>

ひっそり 作品名：地獄

暗がひっそりと声を呑んで、一同のする息を窺っているかと思う中には(p.131)

las sombras que envolvían el jardín se hacían cada vez mas espesas y parecían sofocar la respiración(p.51) <無視+何とか>

ひっそりと 作品名：NP

人通りが多いのになぜかひっそりとして感じられる駅前、・・(p.159)

Estabamos cerca de la estación, extrañamente tranquila a pesar del gentío y ,(p.133) <形>

ひっそりと 作品名：NP

・・ひっそりと誇り高く暮らしているはずです。(p.195)

...y estaríamos viviendo tranquilos y con la cabeza alta.(p.163) <形>

びったり 作品名：斜陽

かえってびったり寄りそってゆっくり歩いた(p.147)

me acerqué más a él mientras caminábamos despacio(p.121) <何とか>

びったり 作品名：斜陽

私の呼吸がびったり合ってしまった(p.35)

la mía se había sincronizado al perfección (p.35) <副>

びったり 作品名：幻影

・・・その頃若い女性の独身寮という建物の使用目的とびったりだったのである。(p.124)

該当箇所なし(p.128,129) <無視>

びったり 作品名：幻影

「・・・鍵がびったり合えば、その部屋の方に事情を聞いてみることにしたら。」(p.142)

cuando descubramos a quien pertenece,(p.144) <無視>

びったり 作品名：斜陽

麻薬を用いる事はびったりよすつもりです(p.74)

voy a dejar la droga(p.64) <無視>

びったり 作品名：斜陽

お母さまの枕元にびったり寄り添って(p.124)

pasé junto a su cabecera(p.103) <無視>

びったり(ピッタリ) 作品名：幻影

「・・・教祖様のおさしずがピッタリ当たっていたことが今日、私たちの前で立派に証明されたんですよ・・・」(p.155)

Hoy tuvimos la prueba absoluta de la verdad de lo que dijo Su Reverencia.(p.158) <形>

ひやひや 作品名：坊

拝見していてもひやひやする。(p.183)

los espectadores se quedaron fríos. (p.181) <形>

ひやり 作品名：坊

すこしはひやりとする風が吹きだした。(p.79)

empezó a correr una brisa más fresca. (p.83) <形>

ひやり 作品名：羊

鋭い形に切り込んだ瞼とガラス細工みたいにひやりとした瞳がなければ、・・・(p.167(上))

De no ser por la aguda línea de su párpados y por sus gélidas pupilas, que sugerían la frialdad del cristal(p.113) <形>

ひやり 作品名：斜陽

なぜだか、ひやりとした(p.75)

No sé por qué sentí un escalofrío(p.65) <動+名>

ひゅう 作品名：坊

ひゅうと風を切って飛んできた (p.186)

“¡Zas!” voló una piedra cortando el aire. (p.184) <オノ>

ひゅう 作品名：坊

石がまたひゅうとくる。(p.187)

De nuevo, - “¡Zas!” - voló una piedra. (p.184) <オノ>

ひゅう 作品名：台所

・・・、私のみがかれていない小さな運動神経がひゅう、と音を立ててすくむのがわかった。(p.133)

Y noté como se agarrotaban mis pequeños músculos desentrenados.(p.131) <無視>

びゅー(ピュー) 作品名：坊

やがて、ピューと汽笛が鳴って、車がつく。(p.128)

Al poco rato, el tren llegó pitando y se paró ante los viajeros. (p.127) <無視>

ひゅー(ヒュー) 作品名：坊

汽車の笛がヒューと鳴るとき、(p.84)

oímos silbar el tren de cercanías, (p.88) <無視>

びゅうと 作品名：台所

あたたかい車内に、突然凍った風がびゅうと吹き込む。(p.108)

Un viento helado entró de golpe en el cálido interior del coche.(p.107) <無視>

ひゅっと 作品名：NP

・・・母に会う度にふいにきちんとした未来に、タイムマシンのひゅっと運ばれた気がする。(p.134)

cada vez que veía a mamá tenía la impresión de ser transportada una máquina del tiempo hacia el futuro, hacia el tiempo real.(p.114) <無視>

ひゅん、と 作品名：NP

ひゅん、と夜風が吹いていった。(p.127)

Sopló una ráfaga de viento nocturno.(p.107) <名>

ひょい 作品名：幻影

・・・右手に持った火の塊りを回転窓の中にひょいと投げこんだ。(p.105)

該当箇所なし(p.108) <無視>

ひょいと 作品名：斜陽

ひょいと指先で骨のところをつまんで(p.8)

ella levanta con naturaleza el hueso(p.13) <副>

ひょいひょい 作品名：砂

長めの針先が、紙函の底にひろげた鉄色の粒を、ひょいひょい、踊るようにして拾っていく(p.202)

con una larga aguja que parecía hacer bailar, recogía las cuentas de metal desparramadas en el fondo de una una caja de papel(p.189) <無視>

ひょっくり 作品名：坊

ひょっくり狸がやってきた。(p.66)

de improvisto se presentó allí “Tejón”, el director. (p.70) <副>

ひょろひょろ 作品名：砂

火の見櫓は、妙にひょろひょろと、傾いでみえた(p.165) la torre de vigilancia parecía inclinarse a un lado(p.147) <無視>

ひょろり 作品名：砂

ひょろりとした猫背をいっそう前こごみにする(p.94)

se encorvó hacia adelante, aún más su espalda felina(p.89) <無視>

びょんびょん 作品名：銀河

片足でびょんびょん跳んでいた小さな子供らは(p.169)

該当なし(p.23) <無視>

ひら 作品名：坊

おれが縁鼻で清の手紙をひらつかせながら、考えこんでいると、(p.122)

Cuando me encontraba pensativo en la galería dejando ondear al viento la carta de Kiyō,(p.122) <動>

ひらっ 作品名：銀河

ひらっとジョバンニとすれちがいました。(p.166)

該当なし(p.20) <無視>

ひらひら 作品名：NP

スカートがひらひらする。(p.150)

...y el viento me iba enjugando el sudor haciendo ondear mi falda.(p.126) <動>

ひらひら 作品名：幻影

・・・白い手と二の腕がひらひらと闇の中に舞い、・・・
(p.152)

con esas dos manos blancas revoloteando como mariposas en la penumbra.(p.156) <動>

ひらひら 作品名：砂

風で、葉が、ひらひらするようなやつ(p.213)

algo con hojas que se agiten con el viento(p.190) <動>

ひらひら 作品名：羊

作りものの耳がひらひらと揺れた。(p.155(下))

Sus orejas artificiales se agitaron, distendidas.(p.280) <動>

びらびら 作品名：砂

肌がくされて、やけどの跡みたく、ピラピラになって
しまいます(p.57)

la piel se pudre y como después de una quemadura, se
empeza a pelar(p.56) <何とか>

ひらり 作品名：斜陽

ひらり、という形容は(p.5)

decir revolotear no era una exageración.(p.11) <動>

びりっ 作品名：羊

びりっとした週末の喧騒もなかった。(p.141(上))

No había....ni reinaba ese agrio tumulto tan
característico de los fines de semana.(p.97) <形>

びりっ(ピリッ) 作品名：幻影

スカートの裾が窓の金具にひっかかり、ピリッと大きな
音を立てた。(p.90)

su raída falda se enganchó en el cerrojo de la ventana y
la desgarró (p.96) <動>

ひりひり 作品名：砂

ひりひり皮膚にしみた(p.147)

una cataplasma de mostaza escociendo su
piel(p.132) <何とか>

ひりひり 作品名：砂

喉がひりひり、やすりを当てたように痛んでいる(p.150)

le ardía la garganta como si se la hubieran
lijado(p.134) <動>

ひりひり 作品名：羊

皮膚がひりひりと痛みそうな沈黙が僕の目を覚ました。

(p.91(下))

al rebasar sobre mi piel,fue lo que me
despertó(p.231) <動>

ひりひり 作品名：羊

手がひりひりと痛んだ。(p.204(上))

sentí punzadas de dolor en las manos(p.141) <名>

ピリピリ 作品名：羊

ぴりぴりとした声だった。(p.74(上))

Su voz era apremiante.(p.50) <形>

びりびり 作品名：坊

しかしほっぺたがぴりぴりしてたまらない。(p.188)

Con todo, la mejilla me ardía. (p.185) <動>

ひろびろ 作品名：坊

ひろびろとした海のうえで、(p.71)

enmedio del ancho mar. (p.75) <形>

ピン 作品名：羊

雪崩に関する記述はもうひとつピンと来なかった
が、・・・(p.133(上))

La descripción que hacía de los aludes no me
ayudaba,(p.92) <動>

びん 作品名：銀河

頭のうしろのところに毛がびんと延びてますから。(p.201)

¿Ves que tienen un penacho de plumas detrás de la
cabeza?(p.49) <無視>

びんびん 作品名：坊

びんびんした達者なからだで、(p.111)

con este cuerpo sanote y en forma que tengo ahora,
(p.114) <形>

びんぼん 作品名：NP

「その通り。ピンボン。」(p.80)

Sí, tienes razon. Colorín , colorado...(p.71) <オノ+何とか>

びんぼん(ピンボン) 作品名：台所

ピンボンとふいにドアチャイムが鳴った。(p.9)

¡Ding-dong!-el timbre sonó inesperadamente.(p.14) <オノ>

ひんやり 作品名：砂

小屋の中はひどく薄暗く、ひんやりと濡れたような感じだった(p.56)

el interior de la casa yacía en la penumbra,y al entrar sintió un frío húmedo (p.55) <何とか>

ひんやり 作品名：台所

砂が、ひんやり、さくさくしていた。(p.143)

La arena helada crujía.(p.141) <形>

ひんやりと 作品名：NP

窓の外の街灯がひんやりと青い(p.187)

Al otro lado de la ventana las luces brillaban pálidas y frías.(p.155) <形>

ぶい

ぶい 作品名：羊

気に入らなければぶいと出ていく。(p.58(下))

si no acaba de satisfacerle ¡zas!, lo abandona a toda prisa.(p.205) <オノ>

ぶいと 作品名：斜陽

ぶいとそうおっしゃいました(p.90)

De repente, el maestro con expresión maligna me comentó(p.76) <副>

ふう 作品名：銀河

胸いっぱい新しい力が湧くようにふうと息をしながら云いました。(p.216)

dijo, respirando profundamente con el corazón lleno de una nueva fuerza.(p.63) <副>

ふう 作品名：坊

ふうとって汽船がとまると、(p.24)

El barco a vapor se paró con un chasquido de anclaje.(p.26) <ミス>

ふうっ 作品名：羊

羊男はセブンスターを口にくわえてマッチで火をつけ、ふうっため息をついた。(p.148(下))

Sacó de él un Seven Stars ,se lo llevó a los labios , lo

encendió con una cerilla, e inspiró profundamente.(p.276) <動+副>

ふうっと 作品名：斜陽

私の胸にふうっと、お父上と那須野をドライブして(p.56) De repente, me acordé de cuando viajé(p.50) <副>

ふうっと 作品名：NP

ふうっと、ため息をつくような、悲しい笑い方だった。(p.161)

Una sonrisa triste como un suspiro.(p.135) <無視>

ふうっと 作品名：NP

幽体離脱みたいに、心だけがはっきり、ふうっと起き上がったようでもあった。(p.180)

Era como si mi espíritu fuera elevándose, flotando, como cuando el alma se separa del cuerpo.(p.148) <無視>

ふうっと 作品名：斜陽

ふうっとたまらない恐怖と心配の雲が胸に湧いて(p.58)

me cruzó el pecho una nube de miedo y preocupación(p.52) <無視>

ふうふう 作品名：坊

ふうふう吹いて (p.88)

les soplé varias veces (p.92) <何とか>

ふうん 作品名：羊

次にふうんという地鳴りがやってきた。(p.76(下))

uego, la pareció estremecerse.(p.219) <動>

ふうん 作品名：台所

冷蔵庫のふうんという音が、私を孤独な思考から守った。(p.8)

El zumbido de la nevera me protegía de los pensamientos de soledad.(p.13) <名>

ふうん、 作品名：NP

ふうん、と思った。(p.146)

!Que pena!(p.123) <全体>

ふう 作品名：坊

置きランプをふうと吹きつけた。(p.204)

Me apresuré a apagarla de un soplo. (p.201) <副>

ふっ(フツ) 作品名：幻影

人々がフツと息をついて、坐り直したり身体を動かしたりした。(p.173)

la tensión disminuyó mientras todos se estiraban en sus asientos y esperaban.(p.174) <何とか>

ふっくら 作品名：羊

時折髪の間からふっくらとした耳たぶがのぞいた。(p.211(上))

De vez en cuando,entre sus cabellos asomaban los opulentos lóbulos de sus orejas.(p.146) <形>

ふっくら 作品名：羊

・・・そのふっくらとした肉のあつみは全ての生命を凌駕していた。(p.50(上))

y el esponjoso espensor desu carne resultaba más deseable que la propia vida.(p.35) <名>

ふっと 作品名：斜陽

今ふっと思ったことでございますが(p.93)

Me acaba de venir a la cabeza que(p.78) <動>

ふっと 作品名：斜陽

手の指の先からふっと抜けてしまう心地がして(p.57)

me da la impresión de que toda la fuerza del cuerpo se me escapa por la punta de los dedos(p.51) <動+何とか>

ふっと 作品名：斜陽

お母さまは、ふっとお顔をそむけた(p.52)

Mamá volvió el rostro de reprnte(p.47) <副>

ふっと 作品名：斜陽

何の連関も無く、ふっと胸に浮んで、消えた(p.56)

me vino a la mente y se desvaneció de súbito(p.50) <副>

ふっと 作品名：斜陽

ふっとここへ立ち寄ったという形にして(p.96)

se presentara de improviso, como por capricho(p.81) <副>

ふっと 作品名：NP

読んだときにすぐ、2人で行った海の香りと波音がふっ

とよみがえるといいな、と思った。(p.37)

Pensé, <>(p.37) <無視>

ふっと 作品名：斜陽

ふっとそう言った(p.78)

le dije un día(p.67) <無視>

ふっと 作品名：斜陽

言葉がふっと思い出されて(p.89)

Al recordar estas palabras(p.76) <無視>

ふっと 作品名：NP

涙声のくせにふっと吹き出して彼女は言った。(p.166)

a pesar de tener la voz anegada en llanto, soltó una carcajada.(p.139) <動>

ぶつぶつ 作品名：NP

1人でぶつぶつ言っていた。(p.54)

...murmuró para sí.(p.53) <動>

ぶつぶつ 作品名：斜陽

何だかそれでも、ぶつぶつ言っていて(p.77)

andaba murmurando algo(p.66) <動>

ぶつぶつ 作品名：地獄

何やら人にはわからない事を、ぶつぶつ呟いておりました。(p.119)

mientras mascullaba frases ininteligibles(p.44) <動>

ぶつぶつ 作品名：羊

羊男はグラスをあけてしまうまで、一人で何かをぶつぶつとつぶやきつづけていた。(p.150(下))

Hasta que apuró el primer vaso,el hombre carnero no pasó de decir cosas para sí(p.277) <動>

ぶつぶつ 作品名：台所

「うひゃー。お嫁さんみたい。」とぶつぶつ文句を言って、雄一は出て行った。(p.78)

-¡Bah!Hablas como una esposa y se marchó protestando.(p.78) <無視>

ぶつぶつ 作品名：NP

国際電話特有の、あの音がぶつぶつとぎれる感じが私を目覚めさせた。(p.9)

El sonido entrecortado, propio de las conferencias

internacionales, me despertó del todo.(p.15) <無視>

ぶつぶつ 作品名：砂

ぶつぶつ米粒のような虫が、無数に這い出してくる
(p.186)

salían arrastrándose un millar de pequeños insectos
como granos de arroz (p.166) <無視>

ぶつぶつ (フツフツ) 作品名：幻影

・・・心のそこからフツフツと煮えたぎってくる怒りを、・・・(p.103)

Ésta se sentía invadida por una furia
impatente(p.106) <形>

ぶつぶつ (ブツブツ) 作品名：幻影

・・・まだ口の中でなにかブツブツ云っている。(p.137)
articulando imprecaciones silenciosas(p.139) <全体>

ぶつぶつ (ブツブツ) 作品名：幻影

・・・とブツブツ呟きながら、・・・(p.66)
murmuraba.(p.74) <動>

ぶつぶつ (ブツブツ) 作品名：幻影

・・・単調な言葉を口の中でブツブツ唱えはじめている。
(p.151)

A su izquierda, Haru Santo cantaba las líneas
introduccionarias de un Sutra budista.(p.155) <無視>

ぶつり 作品名：坊

ぶつりと切れるそうだ。(p.155)

él rompería la cuerda.(p.152) <無視>

ふと 作品名：斜陽

ふと、死にたくなった(p.111)

me entraron ganas de morir(p.93) <全体>

ふと 作品名：失格

ふと、その奥さんが松葉杖を付いて危かしく立っている
のに気がつきました。(p.125)

Entonces me di cuenta de que la mujer se levantaba
con dificultad,apoyada en un par de muletas.(p.116) <
動>

ふと 作品名：斜陽

ふと思った(p.136)

Me pregunté(p.113) <動>

ふと 作品名：NP

こういう強い日差しの元では、きっとふとしたことで何
かが触れて、今みたいなことが起こるのだ。(p.131)

Bajo un sol tan abrasador, no es extraño que te afecte
una cosa dicha al azar.(p.111) <副>

ふと 作品名：砂

ふと立ち止まった(p.17)

se detuvo en seco(p.22) <副>

ふと 作品名：砂

ふと、思いがけない記事が目にとまった(p.89)

de repente, se detuvo en un altículo
inesperado(p.85) <副>

ふと 作品名：失格

そのうちに、ふとマダムは口調を改め、(p.137)

de repente,cambiándole la expresión(p.128) <副>

ふと 作品名：斜陽

ふと取り出して(p.57)

la saqué de nuevo(p.51) <副>

ふと 作品名：斜陽

ふと取り出して私の胸の中に、リアリズムという言葉と
(p.83)

Enseguida me vinieron a la mente las palabras
realismo(p.71) <副>

ふと 作品名：斜陽

ふと思った(p.125)

Me pregunté de repente(p.104) <副>

ふと 作品名：齒車

一人往来を歩いているうちにふと、遠い松林の中にある
僕の家を思い出した。(p.50)

mientras caminaba recordé mi casa lejana,circundada
de pinos.(p.70) <無視>

ふと 作品名：齒車

ふと宮城の前にある或銅像を思い出した。(p.50)

cuando me acordé de la estatua que está frente al
palacio imperial(p.70) <無視>

ふと 作品名：歯車

僕はふと、庶1、五年以来、いつも親和力を感じる度に僕
の目も彼の目のように結膜炎を起すのを思い出した。
(p.56)

Recordé que, desde hace catorce o quince años, cada vez
que siento afinidad con alguien, mis ojos, como los de
este amigo, contraen conjuntivitis. (p.74) <無視>

ふと 作品名：斜陽

ふとその三冊に目をとどめ(p.113)

se fijó en los tres volúmenes(p.94) <無視>

ふふ 作品名：斜陽

お母さまのお顔を見て、ふふと笑った(p.53)

Miré a mamá y le sonreí(p.48) <動+何とか>

ふふ 作品名：斜陽

私は仕方なく、ふふと笑った(p.18)

Me reí nerviosamente, sin saber qué hacer(p.21) <副>

ふぶん 作品名：坊

山嵐はふぶんと鼻から声を出して、(p.154)

“Puercoespín” murmuró “¡Hum!” resoplando por la
nariz, (p.150) <オノ>

ふぶん 作品名：斜陽

私は急に楽しくなって、ふぶんとわらった(p.35)

De repente, me puse contenta y hasta me reí un
poco(p.35) <副>

ぶよぶよ 作品名：砂

手紙はぶよぶよと、変な手触りだった(p.80)

la carta tenía un tacto blando ,extraño(p.76) <何とか>

ぶよぶよ 作品名：砂

よくも、こんなぶよぶよの家が建っていたらものである
(p.126)

era extraordinario que una cosa tan blanda pudiera
mantenerse en pie(p.114) <何とか>

ぶよぶよ 作品名：砂

やはりしけたビスケットのように、ぶよぶよなのだ
(p.161)

encontró que estaba blanda como una galleta

mojada(p.143) <何とか>

ぶよぶよ 作品名：砂

板壁は、ぶよぶよ、生乾きの餅のようで(p.149)

la pared de madera se hallaba en tal estado que
parecía una torta de arroz medio seca(p.133) <無視>

ぶよぶよ (ブヨブヨ) 作品名：幻影

・・・足元がブヨブヨとして気持が悪かった。(p.91)

una pasta negra, extremadamente desagradable al
tacto.(p.96) <全体>

ぶらぶら 作品名：失格

夕方、ぶらぶら外へ出て、(p.104)

Cuando al atardecer Salí con paso inseguro(p.96) <形>

ぶらぶら 作品名：失格

堀木は、たったいまぶらぶら起きてしたへ行った、かと
思うとまた引返してきたのです。(p.115)

No hacía ni un momento que se había levantado
tambaleante a más no poder y ya estaba aquí de
nuevo.(p.109) <形>

ぶらぶら 作品名：NP

たいそう酔っているようで、ぶらぶらしていた。(p.52)

Apenas podía tenerse en pie; parecía estar
absolutamente ebrio.(p.51) <動>

ぶらぶら 作品名：斜陽

真蒼な顔をしてぶらぶら帰ってきて(p.132)

volvía tambaleando(p.110) <動>

ぶらぶら 作品名：斜陽

ぶらぶら階段をのぼって行って(p.65)

me dirigí con paso inseguro a la habitación
occidental(p.57) <副+名>

ぶらぶら 作品名：銀河

一羽の鶴がぶらぶらと落ちて来て(p.206)

una grulla cayó, dando tumbos.(p.55) <名>

ぶらぶら 作品名：坊

ぶらぶら土手の上をあるきながら、(p.131)

En tanto paseaba por ribera a donde buenamente me
llevaron mis pasos, (p.131) <何とか>

ぶらぶら 作品名：坊

追っかけるときにたもとの中の玉子がぶらぶらしてこまるから、(p.209)

Como los huevos que ahí guardaba podían haber bailado peligrosamente en medio de la persecución,(p.205) <何とか>

ぶらぶら 作品名：歯車

僕はやむを得ずこの店を出、人通りの少ない往来をぶらぶらひとり歩いて行った。(p.69)

Salí del local ,y eché a andar por el solitario camino , sin rumbo fijo.(p.82) <比>

ぶらぶら 作品名：NP

ぶらぶらとグランドを横切りながら、そういうことを思った(p.90)

Lo pensé mientras atravesábamos lentamente el campo de la universidad.(p.79) <副>

ぶらぶらと 作品名：台所

そう言ってぶらぶらと彼はヤ t アーに腰かけた。(p.57)

Y diciendo eso,se dirigió tambaleante al sofá y se sentó.(p.59) <形>

ぶらぶらと 作品名：台所

ぶらぶらとアパートを出た。(p.68)

..Salí del apartamento tambaleándome.(p.68) <動>

ぶらぶらと 作品名：NP

軽い足取りで、ぶらぶらと歩いてゆく。(p.159)

Caminaba con pasos ligeros, como si flotara.(p.133) <副>

ぶらり 作品名：地獄

素早く蛇の尾をつかまえて、ぶらりと逆に吊り下げました。(p.114)

rápidamente tomó el reptil por la cola y lo suspendió en el aire.(p.41) <全体>

ぶらり 作品名：羊

羊博士は一人で馬に乗ってぶらりと綿羊視察に出かけたまま行方不明になってしまったのである。(p.45(下))

Un buen día, el orofesor salió a caballo para inspeccionar los rebaños,pero no volvió,(p.196) <無視>

ぶらりと 作品名：NP

翠はぶらりと立ち上がり、私をちらっと見て玄関に向かっていった。(p.179)

Sui se levantó con desmayo, me miró fijamente y se dirigió al recibidor.(p.147) <副>

ぶるぶる 作品名：斜陽

下唇がぶるぶる震えて来て(p.13)

el labio inferior me había comenzado a temblar(p.17) <動>

ぶるぶる (ブルブル) 作品名：幻影

「・・・霊にとらえられてブルブル震えが止まらなくなっただんですよ・・・」(p.155)

該当箇所なし(p.158) <無視>

ぶるる (ブルル) 作品名：幻影

・・・寿和の後をつける則子はブルルと震えて、・・・(p.86) se estremeció(p.91) <動>

ふわと 作品名：斜陽

ふわと毛布がかかり(p.163)

cuando sentí que alguien me cubría con una manta(p.133) <無視>

ふわふわ 作品名：台所

典ちゃん、ふわふわの長い髪を押さえながら少し笑って、(p.96)

Norichan,sujetando su cabello largo y suave con una mano,hablaba sonriendo con su madre por teléfono,..(p.96) <形>

ふわふわ 作品名：羊

・・・スウェーデン製のスカイブルーのふわふわとしたヤ t アーに腰を下ろし、(p.80(上))

Me alejé del aire acondicionado y delé caer mis posaderas sobre un mullido safá sueco de color celeste,(p.53) <形>

ふわふわ 作品名：羊

・・・細くて白い指ときれいな髪とふわふわとしたワンピースだけだった。(p.155(上))

sus dedos delgados y blancos,sus hermosos cabellos y su vaporoso vestido.(p.107) <形>

ふわふわ 作品名：坊

天主の松の上をふわふわ飛んで嘗所のなかへ落ちた。
(p.182)

se quedó revoloteando un rato sobre el pinar que circundaba el castillo feudal, para ir a caer en el campamento militar. (p.179) <動>

ふわふわ 作品名：台所

私たちはずっと、とても淋しいけどふわふわして楽なところにいる。(p.139)

Nosotros, siempre, pese a haber estado muy solos, hemos vivido en un cómodo e irreal. (p.138) <無視>

ふわり 作品名：砂

そのままふわりと、宙に浮んでしまいそうである(p.223) empezaba a flotar libremente en el espacio(p.199) <何とか>

ふわり 作品名：坊

ふわりと動くだけで (p.56)

allí caían en blando y se revolían un poco, (p.60) <副>

ふわりふわり 作品名：斜陽

大きい牡丹雪が、ふわりふわり降りはじめていたのだ (p.28)

Los copos, como grandes pétalos de flores habían comenzado a caer con suavidad(p.29) <副>

ぶんぶん 作品名：坊

蚊がぶんぶんきたけれども(p.65)

Los mosquitos me zumbaban alrededor, (p.69) <動>

ぶんぶん 作品名：坊

蚊帳の中はぶんぶんうなっている。(p.61)

el interior del mosquitero era un continuo zumbido, (p.64) <名>



ペカペカ 作品名：銀河

しばらく蛍のように、ペカペカ消えたりともったりしている(p.171)

que se encendió y apagó unos instantes como una

luciérnaga, (p.25) <無視>

ペカペカ 作品名：銀河

青くペカペカ光ったり消えたりしていましたが、(p.188) se encendieron y apagaron(p.39) <無視>

ペたペた 作品名：幻影

ペたペたと廊下を歩く音がした。(p.89)

Escuchópasos fuera(p.94) <無視>

ペたペた(ペタペタ) 作品名：幻影

今度は草履のペタペタいう音をさせ、・・・(p.29)

Sus pantuflas golpean los listones de madera del suelo(p.34) <動>

ペたペたと 作品名：台所

借りた寝まきに着替えて、しんとした部屋に出て行った。ペたペたとはだして台所をもう一度見に行く。(p.24)

Me puse el pijama que me habia dejado y sali al salon silencioso.Descalza, fui a ver la cocina de nuevo(p.27) <無視>

ペたり 作品名：地獄

やがて体中の筋が緩んだように、ペたりと畳へ両手をつくと、(p.128)

Luego inclinó el rostro ,y como si sus músculos se hubieran relajado repentinamente,(p.50) <無視>

ペったり 作品名：斜陽

それで、ペったりになっちゃったの(p.96)

Por esto, se prolongó tanto la conversación(p.80) <何とか>

ペったり 作品名：斜陽

お母さまの枕元にペったりくっついていても(p.124)

que pasara las horas pegada a mamá(p.103) <形>

ペったり 作品名：藪

おまけに其処には、馬蠅が一匹、わたしの足音も聞えないように、ペったり食いついておりましたっけ。(p.166)

Creo que la herida estaba seca ;un tábano ,de tan pegado que estaba a ella,ni siquiera sintió mis pasos.(p.11) <副>

ペったり 作品名：NP

・ ・べったりの決まった恋人もない・ ・ (p.46)
 ..ni tampoco un amor fijo,...(p.47) <無視>

べったり 作品名：NP
 べったり甘い女の髪の毛の匂い。(p.154)
 El dulce olor del cabello femenino.(p.129) <無視>

べったり(ベッタリ) 作品名：幻影
 矢田部寿和も三諸 N 前に消えない指紋をバイオリンの上
 にベッタリとつけてしまったのだ。(p.69)
 Suwa había dejado sus huellas digitales en el
 violín(p.77) <無視>

べっとり 作品名：羊
 べっとりとしたみぞれが確かな氷片に変わ
 り,(p.177(下))
 Una pegajosa aguanieve , que se tornó decididamente
 en granizo,(p.296) <形>

へなへな 作品名：幻影
 ・ ・ ・男はへなへなと膝をついて湯舟のそこにしゃがみ
 こんでしまったが・ ・ ・ (p.17)
 Se arrodilló(p.18) <無視>

へへへへ 作品名：坊
 亭主はへへへへと笑いながら、(p.42)
 El dueño se rió: ¡Ja, ja, ja! (p.46) <オノ>

へらへら 作品名：坊
 例のへらへら調で、(p.101)
 Con su verborrea característica, (p.104) <無視>

べらべら 作品名：NP
 闇の中ですごくべらべらしゃべってさあ、愚痴とか後悔
 とか野望とか、そういうの。(p.141)
 En la oscuridad no paraba de hablar sobre sus
 remordimientos, su arrepentimiento, sus
 aspiraciones.(p.120) <何とか>

べらべら 作品名：坊
 べらべらした透綾の羽織を着て、(p.33)
 Vestía un haori ligero de Sukiya (p.36) <形>

べらべら 作品名：坊
 半可の英語でべらべらと、(p.168)

Chapurreando el inglés, sabe decir de improviso:
 (p.165) <ミス>

べらべら 作品名：坊
 しかし、べらべら出るぜ。(p.164)
 pero el caso es que te salen de un tirón. (p.160) <何とか>

べらべら 作品名：坊
 おれがすると江戸っ子のべらべらになって重みがなくて
 いけない。(p.156)
 Si lo hago yo, me lanzo a hablar con palabras propias
 de Tokio y enseguida mi discurso se estropearía.
 (p.153) <無視>

べりっと 作品名：NP
 ボンドで床に唐鴈 t けられた体を、べりっとはがすよう
 な痛みがあった。(p.180)
 Sentí dolor, como si se despegara del suelo, al cual
 estuviera pagado con cola.(p.148) <無視>

べろべろ 作品名：砂
 侮・^破れ、手垢でべろべろになった(p.203)
 la cubierta estaba rota ya sucia ,con marcas de
 dedos(p.182) <無視>

べろべろ 作品名：砂
 べろべろした薄皮のような汗が、(p.219)
 el sudor chorreaba de sus axilas como una capa de piel
 despellejada(p.195) <無視>

ほ

ほ、ほ(ホ、ホ) 作品名：幻影
 「ホ、ホ、丸や三角やバツテンまで書いてあったんで
 して。」(p.132)
 該当箇所なし(p.135) <無視>

ほ、ほ(ホ、ホ) 作品名：幻影
 「・・・ホ、ホ、だいたい部屋の中のガス・ストーブが、・・・」
 (p.139)
 該当箇所なし(p.) <無視>

ほう 作品名：銀河
 思わずほうと叫びました。(p.207)

no pudo contener un grito de saludo.(p.56) <ミス>

ぼう 作品名：銀河

ぼうとけむったような帯になって(p.167)

extendiéndose como una franja indefinida y nebulosa.(p.21) <形>

ぼう 作品名：幻影

・・・裸電球が、四メートル置きぐらいにぼうとかすんで見え、・・・(p.184)

podían verse las bombillas (p.182) <無視>

ぼうっ 作品名：銀河

それからぼうっとしたと思ったらもうここへ来ていたのです。(p.197)

Y sin darnos cuenta nos encontramos aquí.(p.46) <何とか>

ぼうっ 作品名：銀河

その遠いのはぼうっと白く見える(p.160)

los más alejados aparecerán como una masa blanquecina y borrosa.(p.15) <形>

ぼうっ 作品名：銀河

ぼうっと青白く後光の射した一つの島が見えるのです。(p.177)

se podía ver una isla rodeada de una aureola pálida.(p.29) <無視>

ぼうっ 作品名：銀河

青じるくぼうっと光ってけむり、(p.178)

iluminada con una luz difusa y pálida,(p.30) <形>

ぼうっと 作品名：NP

それが何なのか、時々私はぼうっと推理した。(p.46)

A veces me preguntaba a mí misma qué me hacía sentir de aquel modo y empecé a indagar.(p.47) <無視>

ぼー(ポー) 作品名：幻影

「・・・あれは火がポー、ポーと燃えている音なんですって。・・・」(p.154)

ese sonido especial representa el crepitar de las llamas.(p.158) <名>

ぼおっ 作品名：銀河

ぼおっと青白い霧のよう、(p.198)

como una pálida niebla.(p.47) <形>

ぼおっ 作品名：銀河

さぎというものは、みんな天の川の砂が凝って、ぼおっとできる(p.185)

Las grullas se reúnen en los bancos de arena de la Vía Láctea,(p.36) <無視>

ぼかっ 作品名：銀河

火はちょうど挨拶でもするようにぼかっが消え(p.215)

apagaba a modo de saludo.(p.62) <無視>

ぼかぼか 作品名：坊

ぼかぼかなぐる。(p.210)

Y continuó sacudiéndole leña. (p.206) <何とか>

ぼかぼか(ボカボカ) 作品名：幻影

街を歩く人たちがボカボカとした陽気に汗ばみ始めていたというのに・・・(p.9)

empezaban a sudar bajo el cálido sol(p.9) <形>

ぼかり 作品名：坊

ぼかりと割れて、(p.182)

romperse y volar en mil pedazos estruendosamente.(p.179) <副>

ぼかり 作品名：坊

野だの頭をぼかりとくらわしてやった。(p.169)

golpeé a “Histrión” en toda la cabeza con mi puño cerrado. (p.167) <無視>

ぼかり 作品名：坊

またぼかりとなぐる。(p.210)

propinándole otro puñetazo (p.206) <無視>

ぼかん 作品名：坊

一人ぼかんとしている(p.52)

Quedarme solo como un pasmarote (p.56) <副>

ぼかんと 作品名：台所

ぼかんと取り残された私はのろのろと対応するのに精一杯だ(p.46)

Yo me he quedado atrás boquiabierto,lucho con todos

mis fuerzas para ir alcanzándolas, a paso de tortuga.(p.48) <形>

ぼかんぼかん 作品名：坊

ぼかんぼかんと二人でなぐったら (p.210)

Los dos nos aplicamos de nuevo a zurrar, (p.207) <無視>

ぼきん 作品名：羊

階段は途中で不思議な角度にぼきんと折れ曲がっていた。(p.131(下))

A medio camino, se doblaba en un ángulo extraño.(p.263) <動>

ぼくぼく 作品名：銀河

すっかり注文通りだというようにぼくぼくして、(p.188)

la mirada satisfecha,(p.39) <無視>

ぼくぼく 作品名：銀河

やっぱりぼくぼくそれをたべていました。(p.186)

aunque continuó masticando con deleite.(p.37) <何とか>

ぼくぼく 作品名：砂

砂はぼくぼく、層になってめぐりとられた(p.193)

iban quitando arena por capas(p.172) <無視>

ぼこぼん 作品名：坊

区切りをとるためにぼこぼんを入れるから、(p.183)

para destacar las pausas, el hombre se ayudaba del “rataplán” tamborilero, (p.180) <オノ>

ぼこぼん、ぼこぼん 作品名：坊

太鼓をぼこぼん、ぼこぼんとたたく。(p.183)

iba acompañando con un redoble del tambor. (p.180) <名>

ぼこん 作品名：NP

ぼこん、という音がした。(p.92)

Se oyó un ruido sordo.(p.82) <何とか>

ぼそぼそ (ボヤ{メ}j 作品名：幻影

・・・ほとんど聞きとれない声でボヤ{モ}喋り続けた。(p.147)

susurró algo durante un rato(p.152) <動>

ぼたぼた 作品名：坊

涙をぼたぼたと落とした。(p.212)

sin poder contener las lágrimas. (p.209) <何とか>

ぼたぼた 作品名：台所

ちかちゃんは肩をふるわせて泣きじゃくり、そばのつゆにぼたぼたと涙が落ちた。(p.119)

Chika-chan sollozaba convulsivamente y las lagrimas iban cayendo en el caldo de soba.(p.117) <無視>

ぼちゃぼちゃ (ボチャボチャ) 作品名：幻影

ほっぺたのボチャボチャとした、色のとっても白い・・・(p.19)

con redondeces deliciosas y piel muy blanca(p.21) <形>

ぼちゃり 作品名：坊

ぼちゃりとはねたから、(p.75)

dio un respingo, (p.79) <全体 + 何とか>

ぼちゃり 作品名：坊

しめたと思ったら、ぼちゃりと落としてしまった (p.68)

cuando creí que ya era mía se me escapó de un tirón. (p.72) <無視>

ほっ 作品名：幻影

ほっとした安堵感であった。(p.153)

Se sentía aliviada (p.157) <形>

ほっ 作品名：幻影

彼女はほっとし、先程から前掛のポケットの中で握っているマスター・キーを、・・・(p.45)

Lanzando un suspiro de alivio,...(p.50) <全体>

ほっ 作品名：銀河

小さくほっと息をして(p.203)

emitió un leve suspiro(p.52) <無視>

ほっ 作品名：幻影

・・・肩の重荷をおろした後のほっとした気分とむなし疲れとが・・・(p.51)

alivio de quien acaba de desechar una pesada carga(p.56) <名>

ほっ (ホツ) 作品名：幻影

・・・焼け焦げた死体が無かったのでホツとしたのだ
た。(p.106)

該当箇所なし(p.109) <無視>

ぼっ (ボツ) 作品名：幻影

ボツと音を立てて布が燃え上り、・・・(p.104)

Encendió una cerilla, que crepitó en el
silencio.(p.108) <動>

ほっかり 作品名：斜陽

手に持っている毛糸が急にほっかり暖かく(p.58)

De repente, la lana que tenía en las manos me pareció
muy cálida(p.51) <形>

ぼっかり (ボッカリ) 作品名：幻影

・・・メートルほどボッカリと割れ目をつくっている
のを・・・(p.15)

iluminó al centro del baño y mostró un agujero de
alrededor de un metro de profundidad(p.17) <無視>

ぼっかり (ボッカリ) 作品名：幻影

・・・地面にボッカリとあいた穴にトランクが一つ置いて
ある風景をよく想像した。(p.186)

veía en su imaginación el lugar después de que
hubieran movido el edificio(p.183) <無視>

ほっそり 作品名：羊

彼女は21歳で、素敵なたととを持っていた。(p.46(上))

Ella tenía veintiún años, un bonito cuerpo.(p.31) <ミス
>

ほっそり 作品名：砂

いかにも敏捷そうに、黒くほっそりしているものだ(p.12)

son negras, finas y ágiles(p.18) <形>

ほっそり 作品名：斜陽

ハイデルベルヒの若い学生が、ほっそりと縊れて死んで
いたという(p.70)

En esa misma rama colgaba el cuerpo del joven
estudiante de Heidelberg que se había
ahorcado(p.62) <動+形>

ほっそり 作品名：斜陽

ほっそりした、上品な蛇だった(p.17)

de forma delicada y elegante(p.20) <副>

ぼってり 作品名：砂

ぼってりとせり出して来ている(p.36)

la cresta de arena colgada en lo alto(p.38) <無視>

ほっと 作品名：羊

一杯目のウィスキーでほっとした気分になり、
(p.162(上))

Si el primero supone empezar a sentirse
aliviado,(p.111) <形>

ほっと 作品名：NP

そうしたら少しほっとして、・・・(p.69)

Así que me tranquilicé un poco y..(p.64) <動>

ほっと 作品名：NP

私は全然ほっとしなかったが、何かに感動していた。
(p.120)

Yo no me tranquilizado todavía, pero me sentía
conmovida.(p.103) <動>

ほっと 作品名：NP

完璧な恋なんてない、別れば乙彦もほっとするはず。
(p.164)

Si os separarais, Otohiko se sentiría aliviado.(p.137) <
動>

ほっと 作品名：NP

私はほっとした。(p.188)

Me tranquilicé(p.155) <動>

ほっと 作品名：地獄

まるで自分が悪夢から覚めた様な、ほっとした気がいた
したとか垂れておりました。(p.112)

Cuando vio la luz del día se preguntó si no acababa de
vivir una pesadilla.Luego se tranquilizó.(p.40) <動>

ほっと 作品名：斜陽

私は少しほっとしたところもあった(p.104)

me quedé un poco más tranquila(p.87) <動+名>

ほっと 作品名：斜陽

わたしは、ほっとした(p.105)

Me quedé más tranquila(p.89) <動+名>

ぼっと 作品名：砂

ぼっとすると、(p.121)

se sintió aliviado(p.111) <名>

ぼつねん 作品名：坊

三時までぼつねんとして待ってなくてはならん。(p.40)

Hasta las tres tenía que quedarme allí solo, mano sobre mano. (p.44) <何とか>

ぼつぼつ 作品名：砂

ぼつぼつ、砂まじりの落花生畑があるくらいで(p.175)

estaba la periferia ,con sólo uno que otro plantío de cacahuetes(p.156) <形>

ぼつぼつ 作品名：羊

長い時間をかけて我々がその建物に辿り着いた時、雨は既にぼつぼつと降り始めていた。(p.127(下))

Quando ,al cabo de un buen rato, llegamos a la casa, ya había empezado a llover.(p.260) <動>

ぼつぼつ 作品名：羊

・・・電気うなぎはしみつたれた豆電球をぼつぼつともしていた。(p.44(上))

Y de vez en cuando las anguilas eléctricas hacían relucir sus tenues lamparillas.(p.30) <名>

ぼつり(ボツリ) 作品名：幻影

暫くして女がボツリと云ったが・・・(p.14)

al cabo de unos instantes habló(p.17) <無視>

ぼつり、ぼつり 作品名：台所

・・・、とても眠い声でぼつり、ぼつりと話を続けた。

(p.89)

,y continuó con voz soñolienta(p.89) <無視>

ぼつん 作品名：羊

広い部屋にぼつんと一人でいると、そういう気がするものなのだ。(p.188(下))

Quando te encuentras solo y aislado en una gran habitación,es la sensación que sueles tener.(p.304) <形>

ほほ(ホホ) 作品名：幻影

「ホホ、まあ、面白い揭示ですこと、・・・」(p.75)

Riendo de manera poco natural,(p.82) <何とか>

ほほ(ホホ) 作品名：幻影

「・・・お隣同士って案外むつかしいでしょ。ホホ。」(p.156)

該当箇所なし(p.) <無視>

ほほほ(ホホホ) 作品名：幻影

「・・・三盾□よっと過ぎたくらいの、それは男前でホホホ、・・・」(p.76)

該当箇所なし(p.84) <無視>

ほほほほ(ホホホホ) 作品名：坊

マドンナの話はよそうじゃないかホホホホと赤シャツが気味のわるい笑い方をした。(p.72)

- Vamos a dejar el tema de “Madonna”, ¿no? ¡Jo, jo, jo, jo,....! - (p.76) <オノ>

ほほほほ(ホホホホ) 作品名：坊

赤シャツはホホホホと笑った。(p.83)

“Camisa Roja” se rió con un sonoro “¡Jo, jo, jo!”. (p.86) <オノ>

ほほほほ(ホホホホ) 作品名：坊

ホホホホと笑った。(p.68)

se carcajeó estrepitosamente. (p.73) <副>

ほほほほ(ホホホホ) 作品名：坊

赤シャツがホホホホと笑ったのは、(p.84)

Esa risa de “Camisa Roja” (p.87) <無視>

ほやほや 作品名：NP

「焼き場からでてきたとき、拾うふりしてこっそり盗んできたの。焼きたてのほやほやを。」(p.120)

Quando los sacaron del horno crematorio, fingí que iba a ponerlos en una hornacina y los robé. Estaban recién incinerados, todavía calientes.(p.102) <形>

ぼりぼり 作品名：坊

顔じゅうぼりぼりかきながら、(p.67)

Mientras me rascaba la cara con rabia, (p.71) <副>

ぼりぼり 作品名：台所

彼女はきゅうりをぼりぼり食べながら言った。(p.29)

Mientras comía pepino,dijo...(p.32) <無視>

ぼりぼり 作品名：台所

、セロリをぼりぼり食べながら、(p.87)
..mientras comía apio tumbado boca arriba en el
sofá.(p.88) <無視>

ぼろぼろ 作品名：銀河

茶いろの少しぼろぼろの外套(p.183)
un abrigo marrón un poco raído,(p.34) <形>

ぼろぼろ 作品名：台所

すっかりぼろぼろになったその三冊は今も大切に手元
にある。(p.80)
Todavía tengo a mano,guardados como una joya,los
tres libros completamente manoseados.(p.80) <形>

ぼろぼろ 作品名：失格

歯がぼろぼろに欠けて、(p.119)
se me comenzaron a caer los dientes(p.112) <動>

ぼろぼろ 作品名：羊

僕はぼろぼろと崩れる崖にしがみつくようにしてそのカ
ーブを歩ききった。(p.214(下))
Agarrándome a aquel paredón, que se desmoronaba,
logré salir por mi pie de la maldita curva.(p.320) <動>

ぼろぼろ 作品名：砂

その白いものがぼろぼろになって、はげかいている(p.48)
esa capa blanca se estaba desprendiendo(p.49) <無視>

ぼろぼろ 作品名：斜陽

私の眼からぼろぼろ涙がでた(p.44)
las lágrimas comenzaron a rodar por mis
mejillas(p.42) <動>

ぼろぼろ 作品名：斜陽

ぼろぼろと涙がでた(p.112)
no paraban de caérseme las lágrimas(p.93) <比喩+何
とか>

ぼろぼろ 作品名：失格

自分は、ぼろぼろ涙を流し、(p.121)
llorando a lágrima viva.(p.114) <無視>

ぼろぼろ 作品名：失格

奥さんの大きい眼からも、涙がぼろぼろとあふれて出ま

した。(p.125)

También de los grandes ojos de la mujer comenzaron a
caer en abundancia.(p.116) <無視>

ぼろぼろ 作品名：台所

ふいに雄一の瞳から涙がぼろぼろこぼれた。(p.73)
.de repente,de los ojos de Yuichi cayeron
lágrimas.(p.73) <無視>

ぼろぼろと 作品名：台所

気づくとほおに涙が流れてぼろぼろと胸元に落ちている
ではないですか。(p.50)
¿no están corriendo las lágrimas por mis mejillas y
caen a goterones sobre mi pecho?(p.52) <副>

ぼろぼろと 作品名：台所

祖母の遺影を見ると、またぼろぼろと涙をこぼした。
(p.11)
Al mirar la fotografía de mi abuela,volvió a derramar
lágrimas.(p.16) <無視>

ぼん 作品名：坊

つぎはぼんと音がして、(p.182)
Luego se oyó una gran detonación, (p.179) <名>

ぼんのり 作品名：斜陽

お母さまは、ぼんのりお顔を赤くなさって(p.55)
Mamá se ruborizó un poco y sonrió de una forma
encantadora(p.50) <動+副>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやり見える橋の方へ(p.169)
al puente, ya envuelto por la niebla.(p.23) <ミス>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやり立って居ました。(p.167)
dejó vagar su imaginación(p.21) <何とか>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやりしてだまっていました。(p.176)
Sin responder, se ensimismó más en sus
pensamientos.(p.29) <何とか>

ぼんやり 作品名：銀河

いままで忘れていたいろいろのことをぼんやり思い出し

て(p.197)

recordaron como entre sueños cosas que hasta ahora habían tenido olvidadas.(p.46) <何とか>

ぼんやり 作品名：幻影

・・・ぼんやりと訪問客の顔を見つめていたが、・・・(p.36)
Durante unos segundos se quedó sentado, mirando sin ver al visitante...(p.43) <何とか>

ぼんやり 作品名：NP

真っ青で、ぎゅっと緊張していて、そのくせどこかぼんやりしていた。(p.93)

Su rostro estaba muy pálido, tenso y, al mismo tiempo ausente.(p.83) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

このぼんやりと白いものが(p.157)
este objeto borroso y blanco(p.13) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

このぼんやりと白い銀河を(p.158)
la borrosa y pálida Vía Láctea(p.14) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

したがって白くぼんやり見えるのです。(p.159)
lo que la hace parecer blanquecina y borrosa.(p.15) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

長くぼんやり、うしろへ引いていたジョパンニの影ぼうしは(p.165)
Su sombra, que hasta ahora le había seguido, larga y borrosa(p.20) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやりふだんよりも低く連なって(p.170)
borrosa y más baja que de costumbre.(p.24) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやりしたたくさんの星の集まり(p.171)
un borroso grupo de estrellas(p.25) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやり白い柱(p.178)
los postes, blancos y borrosos (p.30) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

硫黄のほのおのようなくらいぼんやりした転てつ機のあかりが(p.178)

las luces de las agujas de maniobras, débiles e imprecisas,(p.30) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

みんなぼんやり白くなって(p.188)
tomaron un color blanco difuso(p.39) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

カムパネルラもぼんやりそう云っていました。(p.193)
dijo Campanella, también distraído.(p.42) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

窓からぼんやり白く見えていたでしょう。(p.195)
veías por la ventana algo que resplandecía con una luz pálida?(p.44) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

月のあかりはどこかぼんやりありましたが、(p.196)
La luna brillaba pálidamente en alguna parte.(p.45) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

天の川も・・・ぼんやり白く見えるだけでした。(p.204)
vio la Vía Láctea blanquecina y borrosa (p.53) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

カムパネルラがぼんやり云いました。(p.216)
respondió distraído.(p.63) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

たったいま夢であるいた天の川も・・・白くぼんやりかかり(p.217)

La Vía Láctea de su sueño se extendía ahora hacia el sur, blanquecina e indefinida,(p.67) <形>

ぼんやり 作品名：銀河

大きな橋のやぐらが夜のそらにぼんやり立っていました。(p.219)

el gran puente... que aparecía brumoso en la tranquila noche.(p.67) <形>

ぼんやり 作品名：幻影

・・・そんな風景をぼんやりと、しかしあきもせずに眺めていた。(p.184)

Yoneko las miró fascinada.(p.182) <形>

ぼんやり 作品名：歯車

レエン・コートを着た男が一人ぼんやり外を眺めていた。(p.31)

un hombre que llevaba un raincoat y dirigía hacia afuera su mirada ausente(p.57) <形>

ぼんやり 作品名：歯車

(肖像画の)口ひげ(の部分)だけはなぜかぼんやりしていた。(p.44)

la parte del bigote aparecía esfumada.(p.66) <形>

ぼんやり 作品名：歯車

ぼんやりと何段かの書棚を見上げた。(p.46)

eché una lenta ojeada a los estantes (p.68) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

ぼんやり焼けた薪の山の傍に立ち(p.35)

yo me quedé sola y anonadada junto al montón de madera(p.34) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

おひとりでぼんやり(p.86)

solo y absorto(p.74) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

女のひとは、ぼんやりしていて、いいんですよ(p.89)

las mujeres viven abstraídas(p.75) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

ひとりでぼんやり痩せて行くだけでしょ(p.93)

no me restará más que adelgazar abstraída(p.78) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

ぼんやり見廻し(p.111)

Eché una mirada absorta a la habitación(p.93) <形>

ぼんやり 作品名：斜陽

夜目にも白くぼんやり浮んで(p.132)

destacaba borrosa en medio de la noche(p.110) <形>

ぼんやり 作品名：台所

「はあ。」私はぼんやりそのメモを受け取る。(p.11)

-sí-cogí el papel,confusa.(p.15) <形>

ぼんやり 作品名：地獄

ぼんやりと火をともしながら、(p.110)

a la débil claridad de una lámpara(p.39) <形>

ぼんやり 作品名：坊

煙にまかれてぼんやりしていたから、(p.39)

se vieron como perdidos en la niebla y atónitos por la sorpresa. (p.42) <形>

ぼんやり 作品名：羊

体の芯はぼんやりとしていたが、(p.35(上))

A pesar de lo embotado que tenía el cuerpo,(p.25) <形>

ぼんやり 作品名：羊

スリッパが台所の椅子にかけられたぼんやりとした実体のない風景だけが、僕の頭の隅にこびりついていた。(p.71(上))

Sólo la vaga y borrosa imagen de una combinación colgada de la silla dela cocina se aferraba a un rincón de mi mente.(p.48) <形>

ぼんやり 作品名：羊

ぼんやりとした目で僕を見た。(p.72(上))

y me miró con ojos ausentes.(p.49) <形>

ぼんやり 作品名：羊

まるでぼんやり散歩しているうちに(p.135(上))

Era como si,mientras daba un despreocupado paseo,(p.93) <形>

ぼんやり 作品名：羊

ぼんやりとした水銀灯の白い光の中に川の流が見えた。(p.145(上))

Bajo las vagas luces blancas de vapor demercurio se distinguía la corriente del río, (p.100) <形>

ぼんやり 作品名：羊

それはぼんやりとした記憶のようにやさしく、暖かだった。(p.222(上))

era tierno y cálido como un nebuloso recuerdo(p.153) <

形>

ぼんやり 作品名：羊

それから男は目を開けてぼんやりと我々の姿を見た。
(p.19(下))

Abrió los ojos y nos miró con aire ausente.(p.177) <形>

ぼんやり 作品名：羊

窓の外の風景をぼんやりと眺めていた。(p.81(下))
se había despertado y contemplaba distraída el paisaje a través de la zentanilla(p.224) <形>

ぼんやり 作品名：羅生

肩とか胸とかの高くなっている部分に、ぼんやりした火の光をうけて、(p.10)

Los hombros,el pecho y otras partes recibían una luz agonizante,(p.23) <形>

ぼんやり 作品名：幻影

・・・幾度かその解答がぼんやり彼女の心に浮かび上ったような気がするのだ。(p.61)

en lo más profundo de su inconsciente, sentía que conocía la respuesta(p.70) <全体>

ぼんやり 作品名：失格

そら豆を山盛りにしたお皿を持ってぼんやり立っていました。(p.117)

Llegó Yoshiko con un plato de alobias y se quedó allí de pie,sin saber qué hacer.(p.110) <動>

ぼんやり 作品名：羊

店内の話し声や食器の触れ合う音がぼんやりとした淡い雲のようなものに姿を変え、(p.66(上))

El bullicio de las conversaciones y el roce de cubiertos y platos se debilitaron hasta reducirse a un leve susurro(p.45) <動>

ぼんやり 作品名：羊

・・・それとも何も考えずにぼんやりと夢のつづきを見ているかということになる。(p.86(上))

obien contemplamos las musarañas medio adormilados y, evidentemente,sin pensar en otra cosa(p.57) <動>

ぼんやり 作品名：地獄

この不思議な光景をぼんやり眺めておりましたが、(p.119)

por un instante contemplaron asombrados el extraño espectáculo(p.44) <動+形>

ぼんやり 作品名：銀河

ジョバンニもぼんやり答えていました。(p.179)
contestó distraídamente Giovanni,(p.32) <副>

ぼんやり 作品名：銀河

何とも云えずさびしい気がしてぼんやりそっちを見ていましたら(p.217)

Lleno de una tristeza indescriptible, siguió mirando distraídamente hacia allí.(p.63) <副>

ぼんやり 作品名：歯車

僕はペンを休めるたびにぼんやりとこの雪を眺めたりした。(p.39)

Cada vez que descansaba la pluma , mirada distraídamente la nieve caída.(p.63) <副>

ぼんやり 作品名：斜陽

とぼんやりしたお顔でお答えになる(p.21)

repuso, con la expresión abstraída(p.23) <副>

ぼんやり 作品名：地獄

ぼんやり春の近い空を眺めている師匠の目が、(p.120)
contemplando distraídamente el cielo primaveral.(p.45) <副>

ぼんやり 作品名：坊

あごを長くしてぼんやりしている。(p.94)

proyectando sus barbillas adelante, se quedaron en suspenso. (p.97) <副>

ぼんやり 作品名：坊

ぼんやりしていたが、(p.169)

“Histrión” se quedó fuera de combate(p.167) <副>

ぼんやり 作品名：羊

空はぼんやりとした梅雨どきの灰色に覆われていった。(p.136(上))

el cielo se iba cubriendo vagamente de un gris propio de la estación lluviosa.(p.94) <副>

ぼんやり 作品名：羊

僕は二杯目のコーヒーを飲みながら、ピアノを弾いている女の子をぼんやりと眺めていた。(p.155(上))

me tomé un café y después otro, mientras miraba distraídamente a la pianista.(p.107) <副>

ぼんやり 作品名：羊

ぼんやりとそんな光景を見ていると(p.219(上))

Mirando distraídamente ese panorama(p.151) <副>

ぼんやり 作品名：羊

僕は白い雲のはしからはしまで移動するのをぼんやりと眺めていた。(p.221(上))

Me quedé contemplando distraídamente el paso de una nube de un extremo a otro de la ventana.(p.153) <副>

ぼんやり 作品名：羊

曙7分ばかりそこに座ってぼんやりしてから歩いて家に戻り、・・・(p.146(下))

Permanecí sentado en el neumático como un cuarto de hora.(p.274) <副>

ぼんやり 作品名：羅生

(下人は) ぼんやり、雨のふるのをながめていた。(p.7)

Contemplaba distraídamente la lluvia.(p.21) <副>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやりした三角標の形になって(p.171)

se había convertido en una baliza de agrimensura(p.25) <無視>

ぼんやり 作品名：銀河

ちらちらこっちを見ているのがぼんやりわかりました。

(p.192)

podía sentir las miradas(p.42) <無視>

ぼんやり 作品名：銀河

ぼんやりして見分けられませんでした。(p.215)

ya no podía distinguirse(p.62) <無視>

ぼんやり 作品名：銀河

そこはぼんやり白くけむっているばかり(p.217)

sólo pudo ver una niebla blanquecina.(p.63) <無視>

ぼんやり 作品名：幻影

・・・田村管理人はぼんやりとここは試験場なのだなどと考えており、・・・(p.34)

該当箇所なし(p.41) <無視>

ぼんやり 作品名：砂

ぼんやりとにじんでみえていた(p.101)

se veían siluetas difusas de los hombres(p.95) <無視>

ぼんやりして 作品名：NP

でもその夜、私はぼんやりしていて、前から来るのが乙彦だなんて全然気づかなかった。(p.123)

En ese momento yo estaba tan aturdida que no reconocí a la persona que se me acercaba de frente.(p.105) <形>

ぼんやりと 作品名：NP

・・・ちょうどまだ私がぼんやりと横を見ながら、青空にたなびく商店街の飾りの花々の銀やピンクに見とれていたあたりだった。(p.17)

...y aún estaba mirando distraídamente a ambos lados, fascinada por los colores rosa y plateado de las flores de adorno, que se extendían sobre el cielo azul. (p.23) <副>

ぼんやりと 作品名：NP

彼女はぼんやりと受け取って、何かを言おうとした。(p.94)

Ella la cogió con aire ausente e intentó decir algo.(p.84) <副>

ま

まじまじと 作品名：NP

彼は私をまじまじと見つめ、ああ、と言った。(p.18)

Me miró fijamente y dijo:(p.23) <副>

まじまじと 作品名：NP

・・・といって翠は咲の顔をまじまじと見た。(p.161)

...dijo Sui, y miró fijamente a Saki.(p.135) <副>

まじまじと 作品名：台所

ふいにえりこさんが私をまじまじと見て言った。(p.27)

-dijo Eriko tras mirarme con fijeza-(p.30) <副>

まじまじと 作品名：NP

そんなまじまじと、翠の顔のつくりを見たのは初めてだった。(p.173)

Nunca había observado las facciones de Sui con tanta atención.(p.144) <無視>

まるまる 作品名：羊

まるまると太った鳩が三羽電柱にとまって(p.214(上))

Tres palomas regordetas, posadas en un poste de la luz(p.148) <形>

まんまと 作品名：砂

まんまと策略にかかったのだ(p.50)

él había caído estúpidamente en una trampa(p.50) <副>

む

むかむか 作品名：NP

・・・となってきたら何だかむかむかしてきました。(p.195)
...llugué a sentir una especie de náusea.(p.163) <名>

むくり 作品名：坊

むくりと立ちあがって、(p.63)

Me levanté de la cama (p.67) <無視>

むざむざ 作品名：幻影

私は女の愚かさに、むざむざとあざむかれていたのだ。(p.201)

該当箇所なし(p.) <無視>

むしゃむしゃ 作品名：坊

清が むしゃむしゃ食っている。(p.26)

Kiyo estaba devorando - " ñam, ñam, ñam... " (p.29) <オノ>

むしゃむしゃ 作品名：坊

むしゃむしゃうまそうに食っている。(p.162)

hincaban el diente en todos aquellos manjares con manifiesto apetito. (p.158) <何とか>

むしゃむしゃ 作品名：銀河

しばらくむしゃむしゃたべました。(p.163)

se lo comió todo con avidez.(p.18) <副>

むずむず 作品名：坊

なんだか足の裏がむずむずする。(p.38)

Me subía un cosquilleo desde las plantas de los pies. (p.41) <名>

むっくり 作品名：羊

黒いむっくりとした鳥が時折(p.123(下))

De vez en cuando aparecía un pajaro negro, rechoncho(p.257) <形>

むっくり 作品名：坊

むっくり飛び起きた。(p.189)

incorporándome de un salto. (p.187) <副>

むっと 作品名：NP

むっと暑い車内、フロントガラスからは真っ白にかーっと光った一本道だけが見えた。(p.69)

Dentro del coche hacía un calor sofocante. A través del cristal del parabrisas sólo se veía la larga línea del camino, blanquísima, que brillaba.(p.63) <形>

むっと(ムツと) 作品名：台所

がくん、と止まる前にムツとするのは自分がくたびれている証拠である。(p.48)

Cada vez que se detenía con brusquedad me ponía de malhumor y eso probaba que estaba agotada.(p.50) <全体>

むっと(ムツと) 作品名：台所

雄一が本気でムツとしはじめたので・・・(p.83)

, como Yuichi puso cara de enfado.(p.85) <全体>

むらむら 作品名：失格

眠られぬ夜などにむらむら起って呻きました。(p.117)

Me hacía gemir en noches de insomnio(p.110) <無視>

むらむら 作品名：地獄

朦朧とした異形の影が、屏風の面をかすめてむらむらと下りてくるように見えた程、(p.111)

creyó ver bajar una sombra misteriosa rozando la superficie del cuadro.(p.40) <無視>

め

めそめそ 作品名：斜陽

直治がめそめそと泣き出して(p.118)

De repente, Naoji rompió a sollozar como un niño(p.98) <動>

めそめそ 作品名：斜陽

ひとりだめそめそ泣きました(p.91)

me pongp a llorar como una niña(p.77) <比喩+何とか>

めそめそ(メヤ<) 作品名：失格

ただメヤ<泣きながら (p.130)

llorando a lágrima viva,(p.121) <無視>

めらめら 作品名：地獄

(炎が)めらめらと舌を吐いて、袖格子にからみながら、(p.134)

Las llamas se alzaban al cielo y lo tenían de rojo , semejantes a una bola de fuego que al caer estallara en mil fragmentos.(p.53) <無視(該当文自体がない)>

めらめらと 作品名：NP

いちいちめらめらと、踊るように燃え上がった。(p.212)

Cada una de ellas ardió danzando.(p.178) <無視>

も

もうもうと 作品名：斜陽

たばこの煙で濛々として(p.137)

donde pude distinguir entre el esposo humo de tabaco(p.114) <何とか>

もくもく 作品名：斜陽

もくもく湧いて出て(p.156)

surgieron como gusanos(p.128) <副>

もぐもぐ 作品名：羊

もぐもぐと食べた(p.57(下))

y nám ,nám(p.204) <オノ>

もぐもぐ 作品名：幻影

・・・今月の五階の委員の方どなたかしらなどと口をもぐもぐさせていたのだが、・・・(p.122)

Tratóde justificar su presencia allí preguntando a la señorita Tojo quién era la representante de la quinta planta,(p.126) <何とか>

もぐもぐ 作品名：斜陽

絶えず口をもぐもぐさせて(p.137)

no paraba de mascullar entre dientes(p.114) <動>

もじもじ 作品名：銀河

やはりもじもじ立ち上がったまま(p.158)

se levanto vacilante(p.14) <形>

もじもじ 作品名：銀河

ジョバンニは困って、もじもじしていましたら、(p.190)

該当なし(p.41) <無視>

もぞもぞ 作品名：砂

もぞもぞと、何かが足の甲を這っている(p.172)

algo empezaba a recorrer lentamente el arco de su pie(p.153) <何とか>

もぞもぞ 作品名：羊

彼は僕の向かいのヤtア-に座って肘かけに両手を置き、何度かからだをもぞもぞと動かした。(p.182(下))

Se sentófrente amí sofá ,donde posó sus manos en el apoyabrazos, ymovió su cerpo unas cuantas veces para acomodarse.(p.300) <動>

もっこり 作品名：砂

もっこりとしていて、黄身がかっていた(p.12)

tenían forma redonda,casi regordetas,y eran de color crema(p.18) <副>

もやもや 作品名：斜陽

眼のさきかもやもやと暗くなって(p.56)

me oscurece y enturbia la vista(p.50) <動>

ゆ

ゆうゆう 作品名：坊

六人はゆうゆうと引きあげた。(p.60)

Los seis se retiraron con calma. (p.64) <副>

ゆっくり 作品名：幻影

・・・少し早いけれどこれからゆっくりにお風呂にでもつかって来るわ。」(p.46)

tomaré un largo baño(p.51) <形>

ゆっくり 作品名：幻影

早く自分の部屋に帰って、ゆっくり考えをまとめたかった。(p.163)

Más tarde, le sobraría tiempo para pensar.(p.166) <全体>

ゆっくり 作品名：NP

ガラスがゆっくり濡れていく。(p.187)

El cristal, lentamente, empezó a empañarse.(p.154) <副>

ゆっくり 作品名：銀河

汽車はようやく落ち着いたようにゆっくりと走っていました。(p.207)

Por fin, el tren animó su marcha y continuó avanzando con calma.(p.56) <副>

ゆっくり 作品名：幻影

・・・両手をその上に置いてゆっくりと云った。(p.16) dijo suavemente(p.18) <副>

ゆっくり 作品名：幻影

・・・編物の針をゆっくりと動かしていた。(p.70)

Hacia punto; las agujas parecían moverse con excesiva lentitud.(p.78) <副>

ゆっくり 作品名：幻影

それからゆっくりと歩いて三階の便所へ向った。(p.105)

Regresó lentamente al lavabo del piso inferior(p.108) <副>

ゆっくり 作品名：砂

ゆっくりと喉の奥に流し込みながら(p.45)

mientras dejaba que el agua se escurriera lentamente por su garganda(p.46) <副>

ゆっくり 作品名：砂

ゆっくりともみほぐしはじめる(p.120)

continuó desatándose lentamente(p.109) <副>

ゆっくり 作品名：斜陽

私ひとり石段をゆっくりのぼって来ると(p.14)

subí con calma los escalones de piedra(p.18) <副>

ゆっくり 作品名：坊

ゆっくりいってやるが、(p.39)

desde ahora voy a pronunciar más despacio.(p.43) <副>

ゆっくり 作品名：羊

ゆっくりと自分のグラスをあけた。(p.61(上))

sin prisas,di cuenta de la mía.(p.42) <副>

ゆっくり 作品名：羊

テーブルデッキのリールだけがゆっくりとまわりつづけていた。(p.67(上))

Únicamente los carretes del magnetófono según girando sin prisas desde la consola del equipo estereofónico.(p.46) <副>

ゆっくり 作品名：羊

僕はヤtア-に沈み込んで、ゆっくりと手足をのばした。(p.84(上))

Me repantigué en el sofá desperezandi calmosamente brazos y piernas.(p.56) <副>

ゆっくり 作品名：羊

ジャンボ・ジェットが窓を左から右にかけてゆっくりと横切っていった。(p.102(上))

Un gran avión de reacción cruzó lentamente la ventana de izquierda a derecha.(p.71) <副>

ゆっくり 作品名：羊

僕はゆっくりと煙草を取り出して、ゆっくりとそれに火を点けた。(p.157(上))

Saqué calmamente un cigarrillo y lo encendi sin prisas.(p.108) <副>

ゆっくり 作品名：幻影

・・・マスター・キーを取り出し、指の先につまむとゆっくり左右に振りながら、・・・(p.69)

該当箇所なし(p.78) <無視>

ゆっくり 作品名：幻影

・・・ゆっくり池袋まで歩くと・・・(p.108)

acostumbraba salir a las ocho y media de la mañana, como en los antiguos días en que trabajaba, y caminar hasta Ikebukuro.(p.113) <無視>

ゆっくり 作品名：羊

時間は驚くほどゆっくりと流れた。(p.88(上))
El tiempo pasaba con asombrosa lentitud.(p.60) <名>

ゆっくりゆっくり 作品名：坊
船頭はゆっくりゆっくり漕いでいるが (p.70)
El barquero iba remando despacio, suavemente,
(p.75) <副>

ゆったり 作品名：斜陽
ゆったり上半身を起して(p.7)
con la espalda bien recta(p.12) <形>

ゆったり 作品名：羊
ゆったりとした白い綿のズボンをはき、(p.157(上))
Llevaba unos holgados pantalones blancos de
algodón,(p.108) <形>

ゆらゆら 作品名：幻影
・・・マスター・キーに結びつけられた木札がまだゆら
ゆらと揺れていた。(p.51)
la etiqueta de la llave maestra, colgando de su cinta
roja, se balanceaba todavía(p.56) <動>

ゆらゆら 作品名：砂
ゆらゆらと揺れていた(p.120)
balanceó su cuerpo(p.109) <無視>

ゆるゆる 作品名：坊
先方はなんの気もつかずに最初のとおり、ゆるゆる歩を
移している。(p.132)
Ellos caminaban delante sin darse cuenta, en plan de
tranquilo paseo, como si nada hubiera ocurrido.
(p.131) <形>

ゆるゆる 作品名：坊
もちょっと、ゆるゆるやって、おくれんかな、もし。(p.39)
¿No pué usted ir más espacito, si pué sé?(p.43) <副>

ゆるり 作品名：坊
おいおいゆるりと話すつもりだが、(p.30)
se dispuso a hablarme a sus anchas (p.31) <副>

ゆるり 作品名：坊
それからかなりゆるりと、でたりはいつたりして、(p.53)
Luego, disfruté del baño con calma, entrando y

saliendo a placer, (p.57) <副>

ゆるり 作品名：坊
まずゆるりと湯にはいって、(p.201)
estuve tomando tranquilamente mi baño
acostumbrado (p.199) <副>

よ

よちよち 作品名：幻影
・・・その人間の後姿は、幼児のように小さくよちよち
と左右に揺れていたが、・・・(p.146)
該当箇所なし(p.151) <無視>

よっく 作品名：銀河
銀河をよっく調べると(p.158)
Si observais la Vía Láctea(p.13) <無視>

よれよれ 作品名：NP
文章がよれよれで、何だか痛ましかった。(p.116)
El estilo era tan descuidado que resultaba
penoso.(p.100) <形>

よろよろ 作品名：藪
私はよろよろ立ち上がりながら、夫の側へ近寄りました。
(p.176)
Me levanté,vacilante,y me acerqué a él.(p.17) <形>

よろよろ 作品名：坊
赤シャツはよろよろしたが、(p.210)
“Camisa Roja” apenas sí se tenía en pie. (p.206) <全体
>

よろよろ 作品名：坊
二人ばかり、よろよろしながらかけだしてきた。(p.164)
se presentaron por allí dos que venían corriendo,
haciendo eses (p.160) <無視>

り

りん 作品名：銀河
とうとうりんとうごかないようになり、(p.171)
al final se recortó clara e inmóvil(p.25) <動+形>

りんと 作品名：斜陽

花は、濃い紫色で、りんとした傲りと強さが(p.59)
La rosa, de un color púrpura oscuro, mostraba orgullo y fuerza(p.52) <無視>

りんりん 作品名：羊

羊男は衣装の腰のあたりに安全ピンでとめた鈴をりんりんと鳴らした。(p.168(下))
Y el hombre carnero hizo tintinear unas campanitas que llevaba cogidas con imperdibles a la altura de los lomos.(p.289) <動>

れ

れいれい(麗々) 作品名：坊

ただ麗々と蕎麦の名前をかいてはりつけたねだん付けだけはまったく新しい。(p.45)
Sólo la lista de precios que, pegada a la pared, mostraba ostentosamente el nombre de “soba”, era enteramente nueva. (p.50) <副>

れいれい(麗々) 作品名：坊

なぜあんなまずいものを麗々とかけておくんです(p.158)
- ¿Cómo es que una obra tan mal escrita la cuelgan ostentosamente ahí enmedio?(p.154) <副>

わ

わあ 作品名：坊

みんなわあと笑った。(p.46)
Todos soltaron la carcajada (p.50) <名+動>

わああ 作品名：銀河

わああと云いながら(p.169)
該当なし(p.23) <無視>

わあい 作品名：銀河

わあいと叫びました。(p.169)
le siguieron un trecho gritando(p.23) <無視>

わあっわあっと 作品名：斜陽

わあっわあっとひどく騒がしい(p.137)
unas diez personas que bebían en medio de una tremenda algarabía(p.114) <名>

わいわい 作品名：斜陽

わいわいの大騒ぎをつづけ(p.137)
continuaron con su jolgorio(p.114) <無視>

わくわく 作品名：NP

わくわくしている反面、何かが引っかかっていた。(p.46)
Mi corazón latía lleno de emoción, pero, por otra parte, una sombra de inquietud empañaba mi alegría(p.47) <形>

わくわく 作品名：NP

外に出ると、本当にいちいちわくわくした。(p.50)
Al salir, todo me emocionó.(p.50) <動>

わくわく 作品名：NP

「今わくわくしてるでしょう。」(p.50)
Estás emocionada, verdad?(p.50) <動>

わくわく 作品名：台所

泣くに泣けない妙にわくわくした気持ちになってしまった。(p.47)
...siento una extraña emoción que casi me hace llorar.(p.50) <無視>

わくわく 作品名：NP

あなたのわくわくが伝わって来るもの。(p.48)
...me contagias tu excitación.(p.49) <名>

わくわくわくわく 作品名：銀河

ジョバンニはわくわくわくわく足がふるえました。(p.220)
A Giovanni le temblaban las piernas violentamente.(p.69) <ミス>

わさわさ 作品名：台所

いちめんの曇り空に風でわさわさ揺れる木々が見えた(p.34)
...se veían los árboles mecidos por el viento bajo un cielo completamente nublado.(p.37) <無視>

わざわざ 作品名：斜陽

わざわざ選んでくださったのに(p.58)
mamá había elegido, precisamente,(p.52) <副+ミス>

わっと 作品名：斜陽

わっと声が出て(p.51)

rompí a llorar a voces(p.47) <動+何とか>

わっと 作品名：斜陽

またわっと大きい声が出て泣き崩れ(p.52)

volví a llorar a voces(p.47) <動+何とか>

わっと 作品名：斜陽

わっと声を挙げて泣いてしまった(p.119)

me entró una pena horrible y terminé la frase en un lamento(p.99) <名>

わなわな 作品名：羅生

(老婆は)両手をわなわなふるわせて、(p.13)

un temblor histérico agitaba sus manos(p.24) <形>

わなわな 作品名：幻影

・・・興奮で唇のまわりがわなわなと痙攣している。(p.139)

Después de balbucear coléricamente por un momento, empezó a decir(p.142) <動>

わなわな 作品名：幻影

・・・その小さな身体がわなわなと震えだし、(p.152)

su diminuto cuerpo empezó a estremecerse(p.156) <動>

わんわん 作品名：台所

暗がりがかがんで、もうわんわん泣いた。(p.50)

Me acurruqué entre mis paquetes en la oscuridad y lloré.(p.52) <無視>

参考文献

担当者 鈴木大輔(すずき だいすけ),太宰治,1947,『斜陽』,新潮社,1998年版

Osamu Dazai,1999,*El ocaso*,Montse Watkins,Luna Books,1999年版

担当者 竹田有里(たけだ ゆり),吉本ばなな,1998,『キッチン』,角川書店,1998年版

Banana Yoshimoto,1991,*Kitchen*,Junichi Matsuura,Lourdes Porta,Tusquets Editores,1991年版

担当者 宇野友梨(うの ゆり),戸川昌子,1962,『大いなる幻影』,講談社,1998年版

Masako Togawa,1991,*La llave Maestra*,Susana Constante,Ediciones B,1991年版

担当者 井上里美(いのうえ さとみ),芥川竜之介,1960,『羅生門・鼻・芋粥・偷盗』より「羅生門」,岩波文庫,2000年版

Ryuunosuke Akutagawa,1984,*El biombo del infierno Rashomon*,Elvio E. Gandolfo,Lectores de banda oriental,年版

担当者 井上里美(いのうえ さとみ),芥川竜之介,1968,『地獄変・偷盗』より「地獄変」と「藪の中」,新潮文庫,2001年版

Ryuunosuke Akutagawa,1984,*El biombo del infierno El biombo del infiernoy En el bosque*,Elvio E. Gandolfo,Lectores de banda oriental,年版

担当者 井上里美(いのうえ さとみ),芥川竜之介,1957,『歯車 他二編』より「歯車」,岩波文庫,1993年版

Ryuunosuke Akutagawa,1984,*El biombo del infierno Los engranajes*,Elvio E. Gandolfo,Lectores de banda oriental,年版

担当者 長嶋智起(ながしまともし),夏目漱石,1988,『坊ちゃん』,偕成社,1991年版

Souseki Natsume,1997,*Botchan*,Fernando Rodríguez-Izquierdo,現代企画室,1997年版

担当者 竹前友美子(たけまえ ゆみこ),太宰治,1952,『人間失格』,新潮社,1993年版

Osamu Dazai,1999,*Indigno de ser humano*,Montse Watkins,Luna Books,1999年版

担当者 船山 妙子(ふなやま たえこ),宮沢 賢治,1989,『新編 銀河鉄道の夜』,新潮社,1989年版

Kenji Miyazawa,1994,*Tren nocturno de la via lactea*,Montse Watkins,Luna Books,1994年版

担当者 薙野朋子(なぎのともこ),安部公房,1962,『砂の女』,新潮社,2000年版

Koubou Abe,1994,*La mujer de la arena*,Kazuya

Sakai, Siruelá Bolsillo, 第 2 版

担当者 北川知美(きたがわともみ), 村上春樹, 1985, 『羊
をめぐる冒険』, 講談社, 2000 年版

Haruki Murakami, 1992, *La caza del carnero
salvaje*, *Fernando Rodriguez-Izquierdo y
Gavala*, Anagrama, 1992 年版

担当者 大家正登(おおいえ まさと), 吉本ばなな, 1990,
『N.P.』, 角川書店, 2001 年版

Banana Yoshimoto, 1994, *N.P.*, *Junichi Matsuura*,
Lourdes Porta, Tusquets Editores, 年版